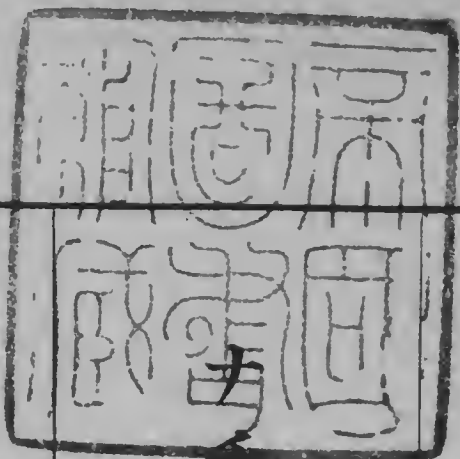


302.34
SA.75

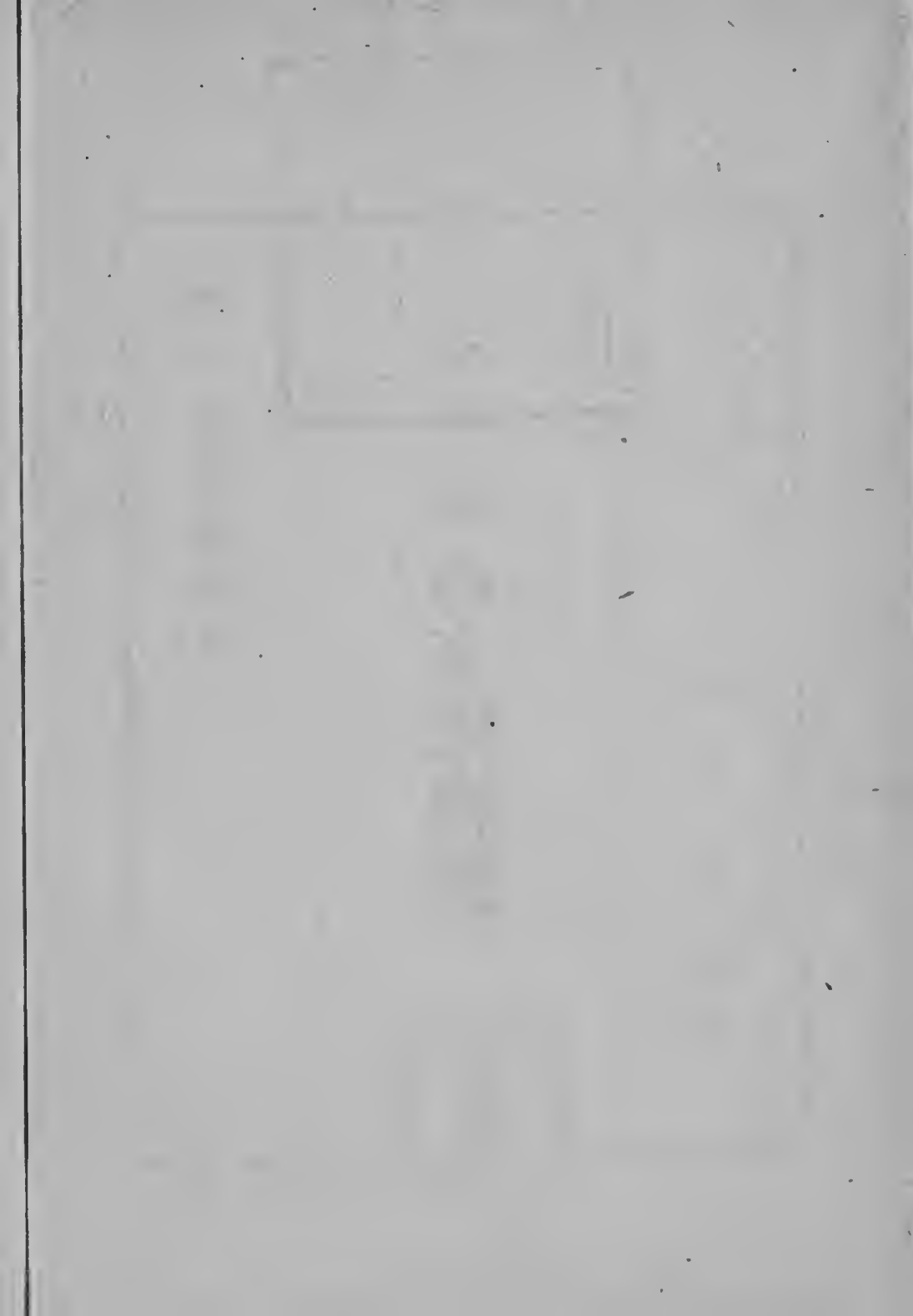


佐々木能理男著

チ
ス
の文化體制

矢 貴 書 店 刊





序

ナチス・ドイツのことは、あらゆる方面で我々の興味をそゝる。盟邦といふだけではなく、我國が政治・經濟・文化等あらゆる方面に於て、既に、或ひは現にナチスの經驗しつゝあると同様の問題に直面してゐるからであらう。わけても著者の知り度いのはナチス・ドイツの文化政策である。持前の探索辭に委せて讀み漁るうちに、多少これに關する資料が集つた。この資料を整理して、多少でも、ナチス・ドイツの文化政策の正體や體制を浮び上らせやうといふのが、この著作の目的である。勿論、不備の點が多く、著者として菲才を恥る次第であるが、今後、事情の許す限り、この不備を補つて行き度いと思ふ。

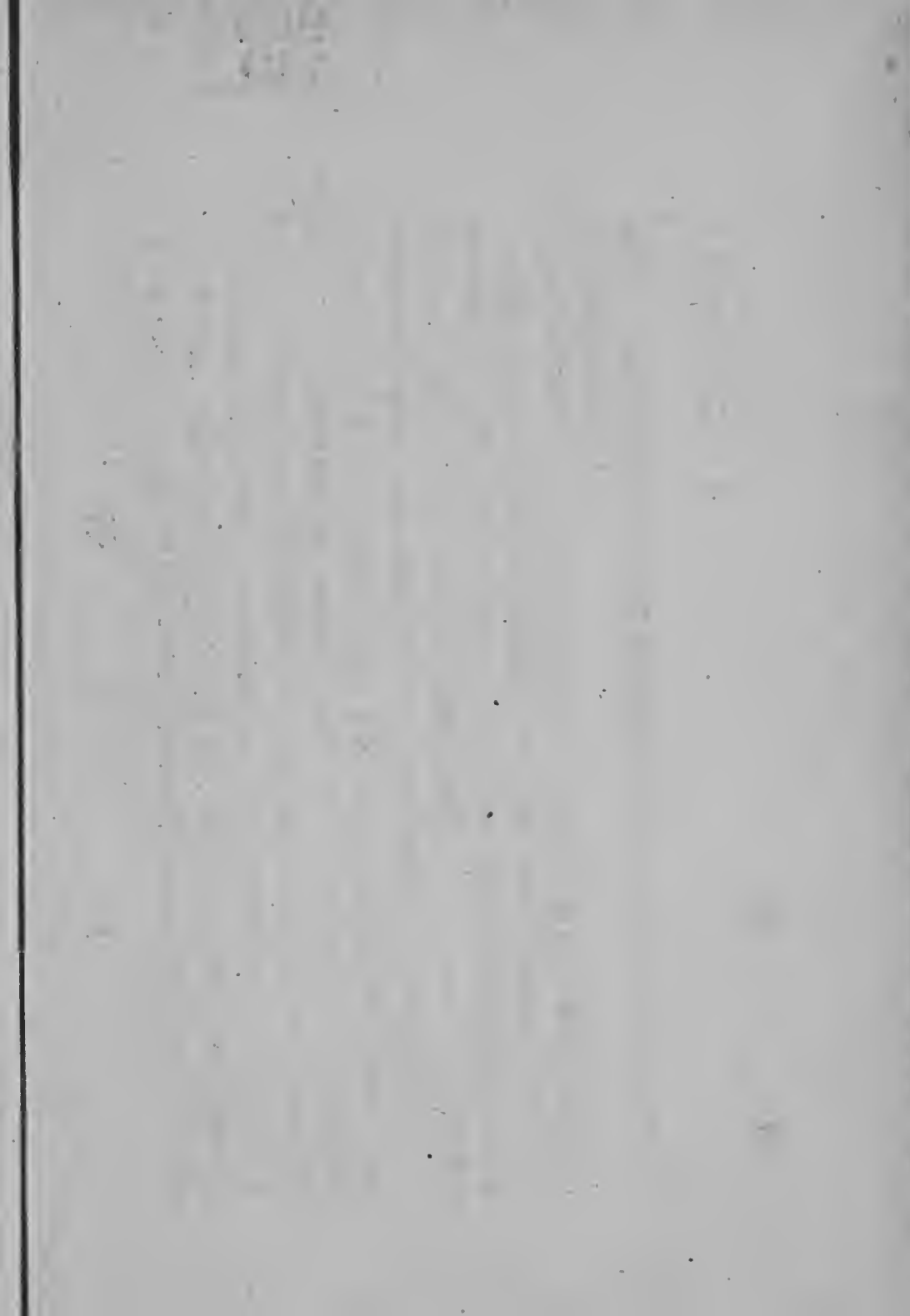
斷はるまでもなく、ナチス・ドイツの文化政策の體制は、ナチス・ドイツの獨自の政治形態を前提として意味も効果もあるもので、直ちに我國に移し植えるわけには行かないがかゝる體制の奥に秘む文化政策の根本精神や、その具體的な現はれ方には、我々として共鳴が出來、また學むべきものが多々あると信ずる。この點で、聊かでも讀者に寄與するところが出來れば幸甚である。

最後に、本書の出版に並々ならぬ好意と援助を與へられた矢貴書店主に感謝の意を表する。

聖紀二六〇一年

著

者



目次

第一部 ナチスの文化政策

文化と政治	一
ドイツ國民的・民族的高揚	一
文化は政治を擔ふ	五
文化の肅清工作	八
文化の破壊者ユダヤ人	八
文化の國際性	二
藝術政策の指針	一四
士と藝術	一四

藝術の自由	一六
建設的文化	一八
批評と報告	二〇
ナチスと古典	二三
政治と藝術	二七
藝術家の仕事	二九
藝術家の任務	三〇
重要なのは素材の取扱ひである	三一
藝術英雄論	三三
戦時と文化	三五
ナチス黨と文化政策	三八
國民啓發宣傳省	四六
國民啓發宣傳者設置の趣旨	四六
國民啓發宣傳者の組織	四九

宣傳者の地方局	六三
ドイツ文化院	六五
ドイツ文化院の任務	六五
文化院中央部の組織	七三
ドイツ文化長老院	七七
各院の任務と組織	七九
各院の中央部の組織	八一
院所屬の専門團體又は専門分科會	八四
院加入の條件	八四
所屬關係	八七
院加入の效力	八八
文化院の地方支部	九〇
勤勞戰線と文化院	九二
歡喜力行團	九三

新聞政策

ヒットラーユーゲントと文化政策……………九六

ユダヤ人と新聞……………一〇二

ユダヤ勢力の排除……………一〇七

黨機關紙……………一〇九

純ドイツ新聞の創造……………一一五

ナチスの要求……………一二五

出版自由の謬見打破……………一二六

新聞は政治的教育機關……………一二八

編輯人は何を爲すべきか……………一二九

編輯人法……………一三四

ドイツ新聞院……………一二八

新聞院の成立……………一二六

造形美術政策

新聞院の構成	一三〇
新聞院の仕事	一三一
通信社其他	一三四
通信社	一三四
雑誌	一三五
其他	一三七
ドイツ造形美術院	一三九
造形美術院の成立	一三九
院の包括する領域	一四〇
院加入の資格	一四〇
院の構成	一四〇
院の仕事	一四三

造形藝術……………四

ラジオ政策

ラジオの任務	一五一
ラジオの所管官廳と黨機關	一五三
舊ドイツラジオ院	一五六
ドイツ放送協働聯合	一五九
放送番組	一六〇
對外放送	一六四
デレヴィジョン	一六八

文藝政策

ドイツ文藝の擁護 一七〇

プロイセン藝術アカデミイの改組 一七一

演劇政策

ドイツ文學アカデミイの新設	一七四
ドイツ著述院	一七五
圖書檢閲制度	一八〇
標準出版契約の創設	一八三
貸 本 屋	一八四
優良娛樂文學促進	一八五
書籍商及び書籍商人の名稱保護	一八六
獻本の制限	一八六
書籍商の後進の教育	一八七
移動式の戰線書籍業	一八八
ナチスの詩・小説・戯曲	一八八

映 畫 政 策

ドイツ演劇院	一九九
演劇院の構成	二〇〇
演劇院の仕事	二〇二
演 劇 法	二〇四
ナチスの演劇活動	二〇七
演劇人の養成	二二三
演劇關係者の保護	二二四
ドイツ國映畫院	二二五
映畫院の機構	二二七
ドイツ映畫アカデミー	二三一
附屬文化映畫製作所	二三四
教育と映畫	二三九

音樂政策

ドイツ的な音樂……………二二三

ドイツ音樂院……………二二四

音樂家の養成……………二二七

音樂の獎勵……………二三九

戰線銃後の音樂活動……………二四〇

第二部 教育・科學政策

政治と教育……………二四三

科學・教育國民教育省……………二四五

文部省學術局研究課の任務……………二四八

近代ドイツ史中央研究所……………二四八

中古ドイツ史學中央研究所……………二五〇

國立ドイツ音樂研究所……………二五〇

第三部 宗教政策

大學教育	三五一
大學教授の後繼者詮衡	二五四
修學指針	二五五
國民學校・中等學校の教員養成	二五八
ナチスの教員聯盟	二六〇
ナチス學生團	二六二
大學入學者數の制限	二六五
大學入學の資格	二六六
大學生の體育運動義務	二六七
初等及中等教育制度改革	二六八
戰時に於ける精神科學	二七〇

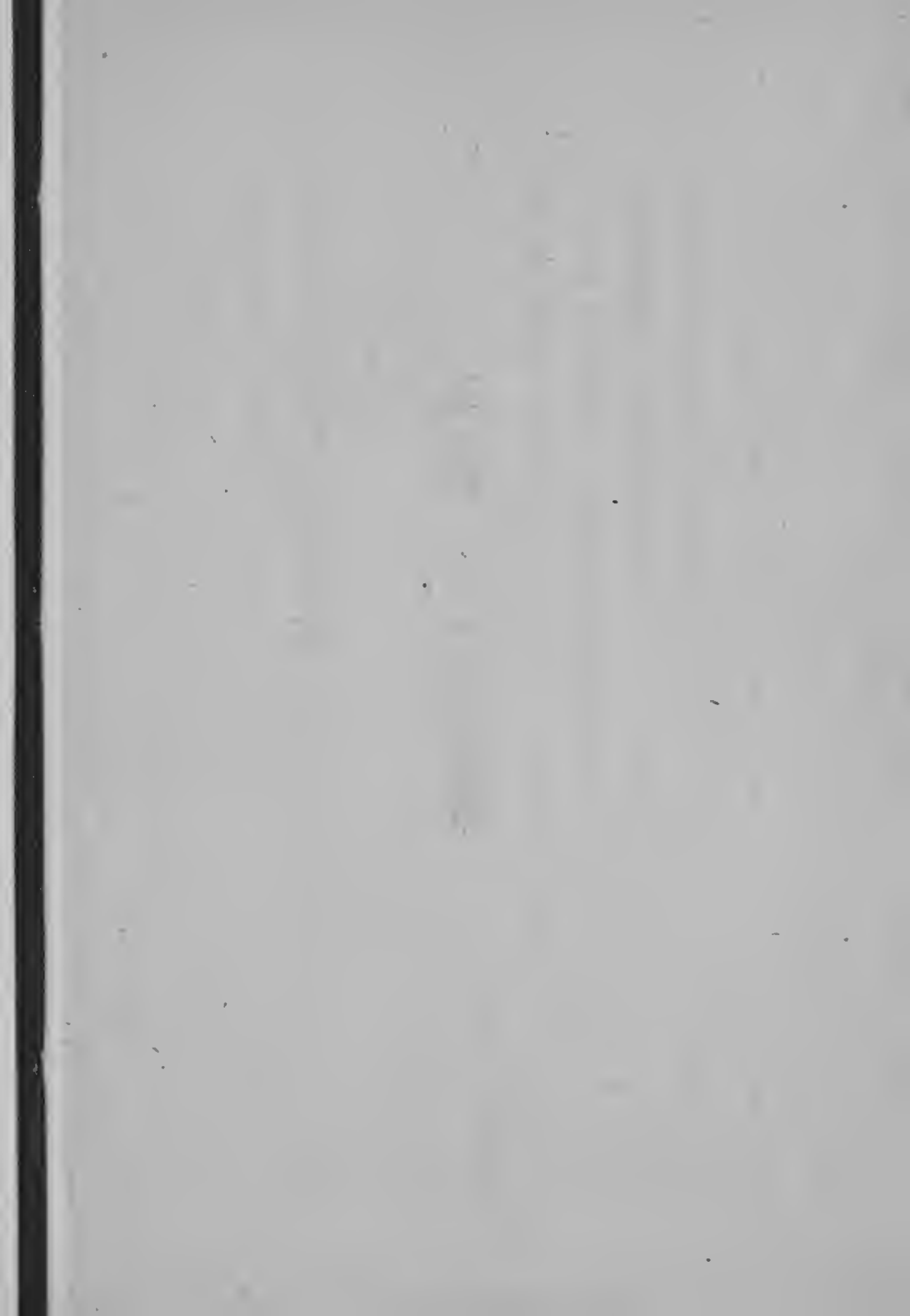
ナチスの指導觀念	二七五
----------	-----

ナチス綱領第二十四條	二七七
ドイツ福音主義教會	二七八
ドイツ基督者運動	二八〇
國司教ミューラーの説明	二八三
文相ルストの説明	二八五
ドイツ福音教會の憲章	二八七
七月二十三日の宗教選舉	二九〇
ヒットラー總統の放送演説	二九〇
宗教總會の決議	二九二
ミューラー國司教となる	二九三
ルードルフ・ヘツスの指令	二九五
黨制服は宗派を超越す(ローゼンベルク)	二九六
文化價值としての宗教を尊重(ヒットラー)	二九八
民族の宗教的傳統を尊重す(ローゼンベルク)	二九九

宗務大臣ケルル	三〇〇
ドイツ福音主義教會保護法	三〇一
信仰の束縛を脱して國民及び總統への忠誠を	三〇三
問題は國民で、牧師でない	三〇四
カトリックの反對	三〇七
司 教 書 翰	三〇八
コンコルダート	三〇九
カトリック教會	三一三
ザール人民投票以後	三一四
教育が獨白の政治勢力を組織する事を許さず(ゲーリング)	三一五
今更宗教裁判でもあるまい	三二六
ニュルンベルク大會	三二七

第一部

ナチスの文化政策



文化と政治

ドイツの民族的・國家的高揚

ヴェルサイエ條約は、世界平和の名に於て、六千萬のドイツ人を自滅させることを目的とし、内
はあつて戦後ドイツの經綸にあたつたワイマール體制は、一切を擧げて極端な自由主義の跳梁に委
ね、ドイツをして、政治的にも、經濟的にも、文化的にも、極度の衰微混亂に陥れた。

かうして敗戦ドイツは、列強特に英佛の壓迫と内政の失敗とによつて、滅亡に瀕し、もはや、人
間の存在の基礎としての、また人間の價値の源泉としての、國家の存在理由を喪失したかのやうに
見えた。かゝる運命に陥つた國家に對する不信、かゝる國家の暗憊たる前途に對する絶望は、戦後

ドイツの民衆をして、國家並びに民族と人間との必然的な關係を見失はせるに至つた。かうして、
ひとびとは、人間の存在と價値の源泉とをひたすら自我にもとめ、自由主義の名のもとに、國家並

びに民族共同體に對する個人の自由と優位とを主張した。ひとびとは、國民であるよりも個人であることを欲し、義務よりも權利をもとめ、利益を公益に優先せしめた。そして、また同じ立場から、あらゆる分野の孤立と自己法則性とが絶對視され、例へば文化にあつては精神活動の非政治性、超國家、超民族性が強調され、國民文化の否定に於て世界文化が強調された。かうして戦後ドイツは、ナチ스의表現によれば、全くユダヤ的思想によつて席捲されるに至つた。

その結果は極めて見易い。個の全體に對する優位と、自律性の他律性に對する優位とは、全體の犠牲によつて償はれたに止まらず、本來その存在と價值の源泉たるべき全體との關聯を失ふことによつて、個もまたその存在と價值とを犠牲にしなくてはならなかつた。かうして、民族の情緒は廢れ、魂の希望は光明を失ひ、理想は地に墜ちた。哲學・藝術は勿論、民衆娛樂に至るまで、「ゲルマン・ドイツの精神は色褪せて、たゞユダヤ文化の惡の華と、アメリカニズムの現世的享樂とが跳梁跋扈するのみであつた。

かゝる中間國家の衰微混亂の眞只中から、ドイツ再建を目指して起ち上つたアドルフ・ヒットラーは、終始ナチス運動の陣頭に立つて『わが闘争』を闘ひ抜くこと實に十四年、一九三三年一月三十日、宿望の政權を掌握するや、黨綱領廿五個條にもとづくドイツ再建の偉業に着手、まづ政治、經

濟、文化等あらゆる領域に亘つて、反ドイツ的、反ナチス的勢力を徹底的に掃蕩し、ナチス的世界觀にもとづく一切の價值轉換を斷行すると共に、内政にあつては『血ブルート・ウント・ボーデン』と『土』と『民族協フオルクム・ゲマインシャフト』の結成を、外交にあつては『ヴェルサイユ條約の破棄』を主眼とする積極的經綸によつて、新ドイツ民族國家の建設に邁進、つひにドイツのために、今日のやうな民族的・國家的高揚の時代を招致したのである。

一九四〇年一月一〇日、ベルリンの某軍需工場に於て、勞働者を前に、ヒットラーは當時を回顧して、次のやうに語つた――。

「……我々は一九三三年の國民社會主義革命の當初に於いて二つの要求を掲げた。その一つは『わが民族の國民的團結』に對する要求であつた。これは、一致團結するのでなければ、民族の總力を動員して、ドイツの必要な生活請求權を主張し得ないのは勿論、これが貫徹は到底期し難いと考へたからである。……それ故、國民の一致團結こそは、我々にとつて、ドイツの總力を再組織し、ドイツ民族に自分の力がいかに偉大であるかを示し、これによつてドイツ民族がこの自分の力を再認識して、進んでこの力から自己の生活請求權を考へ、これを要求し、貫徹に邁進するやう決意させるための、前提條件の一つであつた。……ドイツ協同體を作ること、これが一九三三年の第一の政

綱であつた」と。

そして、彼は自由放恣な個人主義體制を根こそぎ轉覆させ、民族協同體及び國家に對して絶對の自由を強要した個人を民族及び國家の生存に對して絶對の義務を擔ふ國民に創り變へることによつて、見事にこの要求を實現した。かうして得られたドイツ國民の總力を以て、ヒットラーは民族・國家の生活權を要求したが、「しかしヴェルサイユ條約はドイツ民族の團結を阻害し、ドイツ民族の大部分が鞏固に團結することを禁じたために」これをも排除しなければならなかつた。かうして、ドイツ民族・國家の生存圈の要求と、ヴェルサイユ條約の排除要求とが、必然的に今次大戰を惹起するに至つたのであるが、廿二年前コンピエーニュの森に城下の誓をした敗戰國ドイツが、いまや覇者として再びコンピエーニュの森へ乗り込み、さらに打倒デモクラシーを旗幟にして英帝國を嚇やかし、ヨーロッパの新秩序建設のヘゲモニーを握るに至るまでのドイツの、劇的ともいふべき國家的興隆のなかに、我々はナチスの國家經綸の成功を率直に認めざるを得ない。

この成功の原因は何であるか。それは「ドイツ國民の創造」である。

文化は政治を擔ふ

ヒットラーは「革命に本質的なものは政權の掌握ではなく、人間の教育である」と云ひ、また「ナチス革命は世界觀的根底から來るのでなければ成功しないであらう」と云ひ、國民をナチス的世界觀にもとづいて再教育すること、叩き直すことが、ドイツ再建の基本的條件であると考へた。そしてその意味に於てナチスは、文化の價値を極めて高く評價し、文化及び文化政策をして、單なる個人の蒐合から眞にナチス的世界觀に立つたドイツ國民を創り上げるといふ、重要な建設的な使命を負はした。

この意味に於て、ナチスの文化觀はドイツ理想主義のそれと全く對蹠的な立場に立つ。なぜなら、ドイツ理想主義は、文化の概念を、教養、人道、調和的人格などの概念に結びつけ、現實を超越した高いところに純粹精神の世界を創り上げ、新人文主義的教養の道を辿りながら、この高い純粹精神の世界へ昇つて行くことを、文化的向上であると考へたからである。文化は、かくして、次第に現實の生活聯關と社會秩序から遊離し、つひに全く自己法則性のなかへ閉籠り、もはや現實を

擔ふべき力を失つた。このやうな文化の價値をナチスは認めない。

文化の自己法則性を信奉した自由主義的なワイマール中間國家は、ドイツ民族の精神的・政治的並びに、文化的分裂を、爲すところなく傍觀した。ワイマール憲法第一一八條は、言論の自由を保證し、檢閲の存せざることを明言した。勿論、同條と雖も、政治的現實の壓力を受けて、影響の廣汎且つ直接的な映畫に對して、また低級猥褻な文學に對して、例外を設けてはゐる。しかし、これは全く消極的な豫防警察的な處置であつて、精神活動並びにその表現は原則として個人の自由に委かされてゐた。このやうな文化政策をナチスは認めない。

ナチスは政治的現實としての人間に絶大な價値を置いてゐる。従つて、ナチスにあつては、文化は政治的現實から遊離した個々の孤立した人間に奉仕するのではなく、政治的現實としての人間に奉仕するものでなければならぬ。政治されるものが政治するものの世界觀に立つことによつて、政治は初めて他動的な強制から自主的な行動へと高められる。この意味で政治は本來文化によつて支えられなくてはならず、そして文化によつて支えられる政治によつて、國家は初めて高揚し、世代の交替を超えて繁榮することが可能となる。かうして、ナチスは政治的現實を支える力としての文化の價値を強調するのである。

從つてまた、ナチス文化政策の究極の目的は、人間創造といふ文化固有の力によつて、眞にナチスの世界觀に立つ國民を創り上げ、個々の人間を政治的意志統一體たらしめるにある。

ゲ・ペルスは、藝術の創作と國民の創造を目指す政治との關係を強調して、「藝術の創作が形態のない憧憬に或る形態を與へることに外ならぬとすれば、その特性は政治にも當嵌る。この意味に於て、政治もまた一つの藝術であり、しかも最も高貴な藝術である。何故なら、政治は人間を訓練と形に入れることを任務とするからである。……政治が單なる手工に墮落するところに於てのみ、政治は（廣義の）藝術の他の種類（即ち本來の藝術）に對する内的關係を失ふ。然るに、政治が藝術であると考へられる所にあつては、藝術及び藝術家に對して活潑な關係が保たれるであらう。その時に、政治は實質的に他の藝術のために道路の準備をなす者となり、そして政治と藝術とが對峙することなく、相並んで立つならば、兩者は善處するものである。藝術と政治とは、同一の本質的中心から發生し、そして兩者の法則は、原理に於て同一である」と云つてゐる。（文化院での演説）

文化の肅清工作

文化の破壊者ユダヤ人

ナチスが政權を掌握するや、反ナチ스의、反ドイツ的文化に對する肅清工作は誠に峻嚴を極めた。そして、先づユダヤ人の排斥となつて現はれた。それは、ドイツを思はないドイツ人がドイツの文化を壟斷してゐたからだ。

一九三三年九月二日、ニュルンベルクの全國黨大會に於いて、ローゼンベルクは聲を大にしてユダヤ人の無節操を糺弾した。「一九一八年、即ちドイツ再起のために最後の精神的餘力をも掻き集めなくてはならなかつたあの瞬間に、我々が知つたのは何であつたか。國家の、社會の、文化の支配權の殆ど悉くが異種族の手中にあつたといふことだ。だからこそ、ユダヤ人外相ラテナウが、萬一ドイツ皇帝が勝利を得るやうになつてゐたら、世界史は全くその意味を失ふところだつた、など

と揚言することが可能であつたのだ」と。

同じ大會で、ゲッベルスもユダヤ人グムベル教授や、エルンスト・トラーヤの非愛國的な言動を鋒玉に舉げて、「事實はかうである。ナチス革命がユダヤ人清掃をそのプログラムに組入れたことに何の不思議があらう」と叫んだ。

當時ドイツ在住のユダヤ人は、ドイツの人口の僅か一％に過ぎなかつたが、ベルリンのユダヤ人辯護士は七〇％を占め、ベルリンの大部分の病院では六〇％から九〇％がユダヤ人の醫師であり、大銀行は全部ユダヤ人の手中に、またベルリンとフランクフルトの新聞の九分九厘までがユダヤ人の手によつて經營されてゐた。ユダヤ系藝術家は都會にあつて、ジャーナリズム或ひは興行資本家と提携して「マモン」に奉仕することを唯一の楽しみに、都會人の官能に媚びる作品廢類的な作品を提供した。「これを以て見ても、ドイツ國民の全生活は、内的にも、外的にも、殆どあらゆる點でドイツ人と對立し、ドイツ人の要求を少しも理解することのできぬ、異人種に支配されてゐたわけだ。」とローゼンベルクは斷言する。

「自尊心のある民族がいつまでこんなユダヤ人専制の狀態に我慢が出来るものか」といふゲッベルスによれば、ユダヤ人の清掃は「ドイツ復興劇的一幕」に過ぎなかつたのである。

『我が闘争』のなかで、ヒットラーは、ウィーン時代の下積みの生活をしてゐるうち、ユダヤ人の不潔と、破廉恥と、頹廢の實情を見、娼婦や女賣買や淫猥な見世物や猥雑な本がすべてユダヤ人の所爲であることを知つて、ユダヤ人に對する憎惡を懷き、やがて社會民主々義の指導的地位や新聞雜誌が悉くユダヤ人によつて占められてゐるのを見て、ユダヤ人排撃を決するに至つたのだといふ。

一九二〇年二月、ホーフブロイハウスの宴會ホールで、二千人の聴衆を前にして、ヒットラーが逐條的に朗讀した綱領二十五條に於てユダヤ人の排撃を宣した。即ち、ユダヤ人は國民同胞たり得ないとし（第四ケ條）、單に客員としてドイツに留ることが出来るだけで（第五ケ條）、國家の立法や執行や、公共機關の活動に關與することは禁じられ（第六ケ條）、さらに國內の食糧が不足して來れば、國外に追放される（第七ケ條）ものとした。

ヒットラーは一九二三年四月二日、ミュンヘンで「ユダヤ人は事實上斷じてドイツ人になり得ない」ことを強調して、「ユダヤ人の活動は飽くまでもユダヤ人的であり、ユダヤ人はドイツのためにはなく、ユダヤ民族のより偉大な理想』のために働く」と云つた。

一九一八年十一月ビスマルク國家が瓦解し、ユダヤ共和制が誕生、ユダヤ人プロイスによつて起草された自由主義的新ドイツ憲法が出来上つたが、ユダヤ人的自由主義は國民とは一定の國家及領

域内に居住し、同一の言語と文化とを有し、共同の歴史的追憶を有する人類の全體に外ならないと教えたに對して、國民社會主義は國民といふ概念の第一の、そして特徴的な標識が人種であり、共同的血液であると認める。『我が闘争』中の「民族と種族」と題する長い一章で、ヒトラーは學問、藝術、技術等文化のあらゆる方面に於て價值あるものは凡てアリアン人の產物であつて、アリアン族こそ唯一の文化創造者であり、他の民族はすべて文化の傳達者に過ぎないとし、ユダヤ人のごときは文化の創造になんら貢獻せざる寄生的劣等民族であると蒙語してゐる。

ローゼンベルクは『二十世紀の神話』に於て、ドイツ浪漫派が民族精神を生活の本質と考へたやうに、民族の魂を核心とする神話の再興を説き、ユダヤ人問題に理論的基礎を與へ、種族論的世界革命を宣言した。ローゼンベルクは在來の階級意識に置き換へるに民族意識を以てし、歴史の將來の問題は最早社會或ひは階級を中心とすることを止めて、種族或ひは民族を中心とするであらうと云ひ、民族の魂が新しい世界の原動力になる、その民族を支配するのが血であり、血が民族を生み、魂を生むといひ、他民族との血液混淆を禁止して、ドイツ人の人種的優越性保持と民族精神の統一をはからうとする。

三三年二月二七日夜の議事堂放火事件をきつかけに、ナチスは五〇の共產黨系新聞と一三〇に及

ぶ社會民主黨系新聞の發行を禁止した。

同年五月一〇日の夜は、ゲッペルスが音頭を取つて、ベルリンで非ドイツ的圖書の焼却を敢行した。

三三年のドイツ文化院法はドイツに於けるあらゆる文化運動からユダヤ人を一掃した。

三五年九月一五日のドイツ公民法は同年一二月末日を以てユダヤ人官吏の退職を斷行した。

文化の國際性

しかし、ナチスの文化清掃工作は、單に文化の領域からユダヤ人を閉め出したり、ドイツの文化人をユダヤ人と生理學的に絶縁させることで、終つたのではない。更にナチスはユダヤ人の立去つた後に残つてゐる文化の超民族性・超國家性を強調する「世界文化」の觀念的幽靈や、土と血を忘れた「アスファルト文化」の廢類的な魔藥を叩き潰さなくてはならなかつた。

一九三三年五月八日、ゲッペルスはベルリンの劇場指導者を前に、次の如く述べた。

「私はここで國際藝術といふ流行語に對しても抗議せねばならぬ。藝術は民族に根差すこと深け

れば深いほど國際的價値を増して來るものだ。「マイスター・ジンガー・フォン・ニルンベルク」がパリで上演されるのは何故か。ワグナーがパリに流丐をつかひながら、このオペラを書いたからではない。典型的にドイツ的な藝術なればこそ、パリで上演されるのだ。外國がドイツのオペラを聞かうとするのは、民族性の色褪せた國際的代用品を掴みたいからではない。ドイツ・オペラのかで、ドイツ精神の眞髓に觸れたいからだ。藝術作品は民族性に根差すことが深ければ深いほど、また素材の形成に用ひられた手法が偉大なれば偉大なほど、全世界がこれに與へる國際的地位も高まつてくるわけだ。祖國と絶縁することによつて世界を征服し得るなどといふ妄想とは手を切り給へ。世界を征服し得るのは、しつかと祖國に足をおろしてゐるときだけだ。全世界が諸君の業績に對して敬意を拂ふのも、さういふ場合だけだ。」

ヒットラーは詩人的な言葉を以て云ふ。「自己の國土の中に最も深く且つ最も廣く根差す樹木は、自己の國土の境界を越へて、最も大きな陰を授ずるものである。」

藝術政策の指針

土 と 藝 術

かやうに、ナチスにとつて「藝術と民族的土壤とは分ち難いものである。兩者は一個の統一體である。民族的土壤が母で、藝術はその子である。藝術は養分を吸収する根を深く民族的土壤へ差込み、そしてそこからまた、創造的製作力を供給する養分を吸ひ取るのである。」（ゲッペルス、一九三三・

五・八の演説）

しかし、民族的土壤は藝術の母であるばかりではない。ヒトラーによれば、時代を超越し、言語を超越して、藝術作品を味到するため唯一の根本條件でさへもある。「或る民族が他民族の藝術に本當に理解して入つて行けると云ひ得るのは、一切の時代的隔りや言語の隔りを超越して同一の血族的根幹が存する場合だけである。それ故、古代民族及び國家の美の理想は、根源を同じくする

が故に素質を同じくする人間が、地球に活を入れてゐる限り、過去のものとならぬであらう。決して石や生命のない形體が、その美に於いて不滅なのではなく、同じ民族的根源に由來する人間のみが不滅なのである。」（一九三三・九一・ニルンベルク黨大會）

ところが、ユダヤ人的世界觀の表現である都會文化は、ナチスの求める「血と土」の文化と對立する。ユダヤ人の百姓といふものがピンと來ないやうに、彼らは十中八九都會に住み、金權と手を握つて、都會文化の生産を牛耳つてゐる。ナチスによれば、都會文化はユダヤ人の文化である。ともかく、都會文化は農民のやうに「土」に對する愛着を持たぬ。それはやがて郷土に對し、民族に對し、國家に對して責任を感じなくなる。ナチスが都會文化を文化の敵と見た理由はここにある。

そればかりではない。郷土を持たぬユダヤ人が文化のコスモポリテートを信奉し、郷土と國民性に根差すドイツ的なものを冷笑し、國際文化の名の下にドイツ文化の固有性を消滅させようとしてきたことは蔽ひ難い事實である。またユダヤ人によつて代表された都會文化が、冷評と誹謗と揶揄と、なんらの建設的情熱を伴はぬ理智と、打算と遂には文化ボルシェヴィズムと虛無主義とに陥つたことも否めない。

都會文化は理智主義に徹すると共に、一方金銭的打算から官能主義に陥り、刹那的な官能的な文

化に墮した。かかる文化にナチスがドイツを破滅に導く恐るべきパチルスを見たことは當然である。しかも、この都會文化の殘滓は、ユダヤ人の手から文化活動を奪ひ取つただけでは一掃されない。「洗練された文化」の名に於いて、それはまだまだ人々の頭に、胸に、官能にこびりついてゐた。そこにも、ナチスの文化清掃工作の困難さがあつた。

藝 術 の 自 由

文化統制といふと、如何にも藝術家の自由とか創意が犠牲にされてゐるやうに響く。しかし、ナチス政府は文化統制によつて藝術家の自由を抑壓しようなどとは毛頭考へてゐない。

總統代理ルードルフ・ヘスは一九三四年一月六日スイスの『ゾロツルナー・ツァイツング』の記者に次の如く語つてゐる。「今日ドイツ國民成生のために創作活動をしてゐる人々の精神的自由は斷じて危險に晒らされてゐない。寧ろその反對だ。藝術する人間は以前よりも深くその根を民族性に差込んでゐる。藝術家はその民族性からのみ自らの創作力を摘み取り得るのである。特に、ナチス・ドイツのやうな國家に於いては國民は藝術家の文化業績に感謝するであらうし、藝術家はまた

生産的要素として國家機構中に組み込まれたことを國家に感謝するであらう」といひ、ナチス政府は藝術や文化を規則で縛りつけてゐるのではなく、むしろ「藝術・文化のために保護塙壁を設け、藝術・文化が勢力を浪費したり、そのために不作になつたりしないやうに面倒を見てやる」のが本來の趣旨であると力説した。

ゲッベルスもまたこの問題に觸れ、ドイツ文化院の専門分科會々長及び委員會で行つた一九三四年二月七日の演説では「藝術は自由であるといふ立場、及び組織で以て直感の缺乏を補はんとするが如きは許されぬといふ見解は、原則としてナチス國家についても保持されねばならぬ」と云ひ、「然しそれは藝術に於ける恣意の無政府狀態を意味するのではなく、藝術がその發展法則に於て自由でなければならず、また自由であり得ることを意味するものであり、従つて藝術はまた國民としての民族の生活法則と緊密に結ばれてゐるものとして自らを感じなければならぬ」と云つてゐる。

さらに一九三五年一月一日、文化元老院の開院に際して行つた演説では「藝術創作の自由は新國家に於ても保證されてゐる。この自由の行動には我が國民的必要と責任といふ劃然たる境界が設けられてゐる。この境界は、しかし、政治によつて設定されるもので、藝術によつてはならない」と述べてゐる。また一九三六年五月一日には、國家は偉大な藝術家に創作の實質的自由を與へなくて

はならぬことを説き、かう云つてゐる「ナチス國家はすべての藝術的努力の太ッ腹の寛大な保護者でなくてはならぬ 藝術家自らがナチス國家の庇護のもとに保護されてゐることを感じさせなくてはならぬ。國家は此處かしこに取殘されてゐるドイツ藝術の錯誤の殘滓に對して、實質的に玉の緒を斷ちきり、眞にドイツ的な藝術觀の代表者達に大使命を委ねることによつて、最も效果的な殲滅戰を行ふのである……天才は稀れにしかない。我々は天才の出現を願ふことは出来るが、出現を命令することは出来ない。これらの天才に創作の實質的自由を與へること、全空想力と形成力とを獨自の作品に集中せしめること、そのかはり日常の心配から解放してやること、これがナチス藝術保護の最も顯著な課題である」とも述べてゐる。

建設的文化

ヒットラー總統は、ユダヤ人的都會文化の頽廢的な破壊的な傾向を排撃して、明るい健全な建設的な文化を求める。

ヒットラー總統は、「キリスト教時代はキリスト教文化のみを持つことが出来た。ナチス時代は

ナチス文化のみを持つことが許されるであらう。しかし、ナチス文化は我々の協同體の發展に奉仕しなくてはならぬ。それ故、このナチス藝術もまた、もはや我々の背後に横はる頽廢的な世界の様々の現象には堪えられない。あの時代の民主々義的破壊が文化領域にまで傳播してゐることは目に見えて明かである。我々は健全なものを愛する。肉體的にも精神的にも、我が民族の最優秀な精髓が規準となつて、規定的に働きかけなくてはならぬ。我々が藝術に於いて望むものはこのやうなものを讃美することである。我々の美の説は健全性である。建築に當嵌めて云へば、明瞭性と合目的性と、——この二つのものから發展して——再び美とである……。

たとひ散發的ではあつても個々の我が文化的業績から、再び相互に補充し合ひ、そして高まり行く協同體活動なるものの偉大な様式への道を發見しやうとするのが、我々の意志である……。」

（一九三六年の全國黨大會）

また、ヒットラー總統は次のやうにも言つてゐる「廿世紀の民族は強く美しいもの、従つて健やかにして生きる力あるものへの嘆賞へ心を傾ける、新しく目覺めた生活肯定の民族である。力と美とがこの時代の進軍吹奏であり、明瞭と論理とがその努力を支配する。（一九三八・全國藝術會議）

要するに、「人間の活動力の唯一の、眞に不滅な基礎が藝術である」（一九三六全國黨大會に於ける

批評と報告

ナチスは、ユダヤ人を文化活動から追放し、文化の國際性、ユダヤ的都會文化の排撃に努めたが、まだ破壊的な無責任な藝術批評の打倒の仕事が残されてゐた。即ち、一九三六年十一月二七日國民啓發宣傳大臣ゲッペルスは「批評統制法」を發令した。

世界の知識人は彼を文化の破壊者であるとして攻撃したが、これは文化に對する警察的な取締りを用意したものではなく、寧ろ戦後のユダヤ的な文化に對する思想的な意味をもつたドイツ文化擁護のための大鐵槌であつたといふべきであらう。

勿論、突如かうした手段に出たわけではなく、ゲッペルスの述懐によれば、この批評統制法を發令するまで四年間も待ち、宣傳省としては専ら文藝復興に盡瘁し、藝術批評が漸次國民社會主義的に順應してくるのを期待したが、依然として批評は無責任で、これに對する藝術家側の不滿が絶えることがなかつたので、宣傳省は批評家と藝術家とを招集して會議を開き、相互に忌憚のない意見

の交換をはかるやうに斡旋し、ゲッベルス自身も藝術批評の様式について意見を述べたが、批評の態度には依然として改善の跡がなかつたので、つひに宣傳省は現在の形式に於ける藝術批評を禁止することに決したのであつた。

批評統制法の實施に際し、ゲッベルスはドイツ國文化院第四回創設記念日の席上、ヒットラー總統以下指導者列席裡に、次のやうな演説をした。「今日、藝術家は再び國民のただ中に歸つてきてをり、國民の建設といふ大使命のために働いてゐる。然るに、不遜な批評家連中は、その永遠の不平好きから、今日調子外れた雜言を放つて我々の文化と藝術の建設にうるさく付き纏つてゐる。彼等はユダヤ的な批評家專制の隠し子に過ぎない。我々は藝術批評を唯一の正しい道たる藝術鑑賞にかへし、以て藝術批評に從來よりも廣い存在の可能性を與へようと、有りとあらゆる方法を試みてきたが、悉く失敗に歸した。ほかの分野ではもう活動できない文筆不平屋の批評癖が藝術の分野で活動してゐるのだといふ印象を我々は屢々受ける。これに對しては機を逸せず門をかけなくてはならぬ。」と。

また、同日行はれた文化院及び歡喜力行團の年度大會で、同じ問題について述べてゐる。「藝術批評はドイツの文化生活の枠内にあつては解決に最も緊急を要する問題の一つであるが、また最も

困難な問題でもある。政權掌握以來、私はドイツの藝術批評に四年の歳月を與へ、ひたすら國民社會主義的原理に従つて行動するやうに仕向けて來たのであるが、一九三六年度に於いてもなんら満足すべき藝術批評の改善は見られなかつた。それ故、私は本日をして從來の形式での藝術批評の續行を斷乎禁止するものである。」

「藝術にユダヤ的勢力が過度に侵入してゐた時代に、批評の概念は全く歪曲され、藝術批評は遂に藝術審判と化し去つたのである。今日以後は藝術報告が從來の藝術批評にかはり、藝術報告家が藝術批評家にかはる。藝術報告は評價であるよりも寧ろ記述であり、従つてまた價值づけたるべきものである。それは公衆自らが一つの判斷を作る可能性を公衆に與へるべきものであり、公衆が自らの心構えと感受性から藝術上の勞作に關して一つの意見を作り上げる刺戟となるべきものである。」

同時に匿名批評も禁止された。

「將來、藝術的勞作を批評し得るものは、純真な心で且つナチス黨員の心情を身につけてこの仕事を引き受けてくれる報告者に限るつもりである。だから、藝術批評を匿名で行つてはならぬ。將來藝術論評は筆者の氏名を明記させることにする。」

「然しこれは決して自由なる意見の彈壓を意味するものではない。ただ、自由なる意見を公衆の面前に持ち出すことの許されるのは、次のやうな者だけである。即ち、自由なる自分自身の意見を持ち、さらに自己の知識と識見と藝能と技倆に基いて、自己以外の人間を——即ち自己の想像力が創り出した作品によつて公衆に訴へる藝術家を、審判する權利のある者、これである。」

かやうな資格を有する藝術報告者を得るために、批評統制法は次のやうな制限を設けた。

「藝術報告者の地位は、これをドイツ新聞の職業名簿に特別の承認を得て登録さるべきものとし、この承認は、當該報告者が將來働らかうとする藝術分野に關して、充分な豫備教育を受けたことが確認された場合に與へることにする。本來、藝術勞作の取扱ひは、一定の生活經驗と生の成熟とを要件とするから、藝術報告者がドイツ新聞のこの仕事の分野に携はることを許されるには、少くとも三十歳に達してゐることが必要だ。」

ナチスと古典

ヒットラー總統は「キリスト教時代はキリスト教文化のみを、ナチス時代はナチス文化のみを持

つことが出来る」といひ、また「藝術はナチス世界觀の表現でなければならぬ」と云つた。それではナチスは古典的文化を認めぬのであらうか。

事實、時局便乗の輩は、單にナチス世界觀に基いてゐないといふ理由だけで、眞にドイツ的な古典をも、ユダヤ文化なみに排撃しようとした。しかし、ナチスは彼等の期待に反してドイツ的な古典を支持し、却つてこれを尊重すべしとさへ説いた。

一九三七年ニュルンベルクの黨大會文化會議に於いてヒトラー總統は次のやうに演説した。

「現在の或る見解が、もはやその藝術作品を規定した過去や藝術作品そのものによつて代表されてゐる過去と相容れなくつても、文化財に對する或る民族の尊敬といふものは依然として失はれてはならぬ。すべて權威のある藝術作品は、それ自身特有の價值を持ち、他の尺度を以てこれを測るわけには行かぬ。例へば一九四〇年に於いて一定の政治的態度なり、世界觀的態度なりから勝手に或る尺度を作つて、それを過去の時代の藝術作品の示す世界觀的内容に當てがひ、自分の尺度に合ふからと云つて、これを肯定したり、旨く當嵌らぬからといつて、これを否定するといふことは不可能である。假りにかうすることが可能であるとしても、藝術は十中八九まで描寫の點では一時代の出來事を取扱はざるを得ないのであるから、次の時代になつて他の見解をとるやうになれば、前

時期の藝術的業績は常に抹消されざるを得ないことにならう。」

そして繰返へして云ふ。「力強い藝術的英雄の偉大なる藝術的創造に、屢々時間的に制約されてゐる一時的な流行思想の尺度を當てがふことは不當である。藝術感のない輩だけがこのやうな不可能な仕打を爲し得るに過ぎない。そのみではない。このやうな仕打はまた我々の偉大な過去に對して敬意を拂はないことであり、且つまた歴史に對する我々の無識を表明するものである」といつてゐる。

また、ヒトラーは「ドイツ的な偉大な古典のなかに、ドイツ民族の精神的高揚を見る。一九三三年九月一日の黨大會に於いて行はれたヒトラー總統の演說中次の個所は甚だ暗示に富む。「我々は古代に於いても、また近代に於いても、常にアリア系の北方人が與へられた課題と目的と所與の材料とのあひだに、必然的結合^{ジンテーゼ}を發見してきたことを知つてゐる。その自由な、創造的な精神は依然として保たれてゐる。たとひ幾世紀のあひだ他の民族性の外的表現たる特定の世界觀が支配し、その時代にとつては世界觀的に正しいものであり得たとしても、アリア人の内的本質を飽くまで矛盾する様式法則のもとに無理に人間性を抑制してきたものの、そのなかにあつてこの精神は常に執擁に、過去の世界とはいへ、それ自身の世界への外け道を探し求めてきた。

それ故、苟も政治的に英雄的な時代がその時代の藝術に於てこれに劣らず英雄的な過去へ通する橋を求めることに不思議はない。その場合、ギリシヤ人とローマ人とは忽然としてゲルマン民族に極めて近いものとならう、何故なら何れもその根源を一つの根本血族に求められねばならぬからである。従つてまた古代民族の不滅の業績も血族的にこれと近接する後代につねに強い影響を及ぼすのである。

新しい拙劣なものを生産するよりも、優れたものを模倣する方が一層よいことであるとすれば、これらの諸民族の直感的創作にして現存するものが、今日様式としてその教育的及び指導的使命を果たし得べきことは明かである。しかしまた、北方精神は現にその意識的再興を體驗しつつあると同じ程度に於いて、恰も血族的祖先が、かつて彼等に課せられた諸問題を處理したのと較べて、劣らぬほどの明瞭さと美學的理念とを以て、今日の文化的課題を解決して行かなくてはならぬ。

しかし逆に、苟も創造的な血族である以上、祖先の諸々の業績の合計を様式として一つの專制的な法則にまで高め、これを以て將來の自己の業績を猥りに制限し、又は強制すべきものではない。同時に過去のものと現在するものとのみ未來が築かれる。所與の目的と現在の構成力と、技術的素材とが要素であつて、眞に創造的な精神はこれらの要素から、そしてまたこれらの要素を用ひ

て、己れの作品を形成するのであつて、しかも祖先の創作した遺産を使用する心配もなく、自らの創意になる優れた新しいものをこれに結び合はせるほど大膽な仕事をする。」

政治と藝術

ナチス政府はさらに「藝術は政治を超越する」といふやうな藝術家の舊い考へ方を改めさせ、藝術家を啓蒙して眞の藝術の任務を自覺させることに骨を折らなくてはならなかつた。

ゲッベルスは三三年五月八日、即ち國民啓發宣傳大臣となつて二ヶ月目に、劇場指導者を前に、かう語つた。「革命はどこにも停止せず、それは民族を征服し、公生活を征服し、そして文化に、經濟に、政治に、私的存在に、どしどしその刻印を捺して行く。藝術はさういふことに煩はされずにゐるものであるとか、従つて藝術は時代の埒外にあつて乃至はその背後にあつて、百年間も薔薇園のなかに眠りつづけてゐたといふ薔薇姫のやうな生活をなし得るものであるとか、いまだきそんなことを本氣で信じるなんて、ちとお目出度すぎはせぬか。しかも藝術は薔薇姫的な生活を営みながらかう主張する。藝術は超政黨的である、國際的である、藝術は政治よりも高い課題をもつてゐ

る、我々は非政治的だ、政治は人格を臺無しにすると。なるほど、政治といふものが議會政黨間の俗惡な泥試合以外のなにものでもなかつた時代には、藝術家が自らを非政治的といふ權利が立派にあつたかも知れない。しかし、今や政治は民族の大ドラマを書いてゐるのだ。今や舊い價值が沈み別の價值が浮び上りつつあるのだ。かういふ時に當つて、藝術家といへども俺の知つたことではないなどと世迷言をいつてゐるわけには行かない。關係がないどころか、大ありである。藝術を諸々の新しい原理へ關係づけることを怠つてゐて、その間に現實が自分の側を走り過ぎてしまつたからといつて、びつくり出来る義理ではあるまい。我々が冀ふのは、ただ、時代の大きな振子の響きが劇場の扉で喰ひ止められずに、場内へ響き込むことであり、時代の振子の音が最後の一人の藝術家の魂にまで響き込むことであり、そしてまた藝術家がこの一つの避け難くはあるが心の奥底では不愉快な止むを得ない情勢だといふ風にだけとらずに、心からこの時代を理解し、そしてこの力強い民族の大ドラマのなかに最大級の歴史的藝術的な出來事を見ることである。この出來事は恐らく三世代も四世代もの間ドイツの藝術家達に衝動を素材と動力とを提供するであらうし、またそれ自身さういふものとなるだらう、と。これを簡潔に云へばナチスは藝術を再び國民のもとへ運んでやり、これによつて國民を再び藝術へ接近させやうとする。」

藝術家の仕事

ナチスは、藝術家を強制して、ナチスのために花束を編ませやうとするのではない。「……新しい藝術が行進曲を描かなくてはならぬと云はふとするのだとか、突撃隊員の登場しないやうな劇には尊敬を拂はないのではないかとか、それほど私を愚かだと考へて貰つては困る。それどころか、私は突撃隊員は街上を行進すべきものといふ意見である。私が藝術は傾向をもつものだ」といふとき、たゞ、藝術はこのやうな關係を作り出さなくてはならぬと云はうとしてゐるまでのことだ、」とゲッベルスは云ふ——「藝術は勿論過去に於ても傾向といふものを持つてゐた。即ち個人主義への關係がそれであつた。藝術は今度もまた傾向を持たずにはゐられない、即ち公的な活動、思索、行爲の中核體としての民族への關係がそれである……。人間生活の特殊なものにスポットライトを當てることが藝術の任務ではない。藝術の任務はタイプを示すこと、現に時代を典型化してゐるやうな、そして幾世紀後になつてもそれを見れば、あの時代はかうだつたと讀み取ることが出来るやうな、人間を、事物を……。」

藝術家の任務

ゲ・ベルス是一九三四年七月一日附の公開狀で次のやうに云つてゐる。「作家の現代の任務は、各自が唯だ國體理念に對し（外形的に）奉仕する戯曲だけを書くといふことではない。もしさうであるとするれば、その結果として劇作の厭ふべき劃一化が生ずることにならう。が、事實はさうでなく、各作家が出来るだけ豊富な多面性と充實とを以て各自の作家としての使命に仕へて、そしてそれによつて、より高い意味に於いて國體理念に奉仕するのが作家の任務である。ナチス國家が欲する藝術は一個の自由なる藝術である。そして高く上げられた人差指によつて指導されたり、または有りとあらゆる規範のなかへ押し込められたやうな藝術ではない。私は藝術の領域に於いては斷乎としてあらゆる道德探索を排斥すると同様、作家をその題材に關して頑迷に監督するやうなことは斷乎これを退ける。いかなる題材でもよい。ただ撰擇に際し、飽くまでも國民精神を以て創作しなくてはならぬ。」

重要なのは素材の取扱である

重要なのはナチスに取材することではない。取材は藝術家の自由である。過去に取材したのも、また過去に書かれたものでも、現代に生きるものがあり、ナチスに取材したのも、ナチスに生きることの出来ないものがあるか、素材をいかなる關聯に於いて觀者に呈示するかが重要である。素材に對する觀者の關係が重要なのである。一例を挙げると、このところ、このベルリンの獨逸劇場には「ウルヘルム・テル」が上演されたが、これなどは全く時局に適つた藝術的行爲であつた、時代を意識してゐるほどの人間は誰でもさういふ感じを受けた。しかもこの戯曲が書かれたのは、百年以上の昔である。……第二の例を挙げると、ベルリンの國立劇場で上演された「シュラゲーター」である。なるほど素材は我々の時代のものだが、實に藝術的に立派に出來てゐて、傾向などはもう少しも目につかなくなつてゐる、傾向が素晴らしい技能によつて完全に消化されてゐる。これをもう一度原理に當嵌めてみると、傾向は藝術と結婚しなくてはならぬ、といふことになる。作品は今の時代に作られたもので尙且つ藝術たることが出來るし、また過去に作られたものであつ

て尙且つ今理想を、目標を示すことである。

藝術は技倆から生れるもので、意慾から生れはしない。藝術の外面的な特徴は「腕で作られてゐる」といふことである。従つて、心の持ち方だけで藝術することが出来るなどと考へて貰つては困る。勿論、心の持ち方が附け合はなくてはならないが、しかし心の持ち方がそれ自身の法則を藝術に置きかへるわけには行かない……。

重要なのは素材ではない。素材をいかに掴むかである。

藝術は技倆から生れるので、意慾から生れるのではない。藝術の外的特徴は腕で作られてゐることである。従つて、心の持ち方のみで藝術が出来ると考へてはならぬ。なるほど心の持ち方も附加はらなくてはならぬが、それ独自の法則を以て藝術に代えることは出来ないとしてゐる。(ゲッペルス、一九三三・五・八)

また、「原則的な點で妥協を容れることは我々ナチス黨員には出来ない。目的達成のため戦術上迂回を餘儀なくされることはあつても、原則には手を觸れず、その儘保持しなくてはならぬ。我々にとつても藝術の概念はやはり技倆から出發する。藝術家は偉大なものを意慾するだけではいけない。さらにそれを形成しなくてはならぬ、即ちそれに形を與へなくてはならぬ、それを詩作的に充

たし、そして混頓たる個々の様相から本質の様相を読み取らなくてはならぬ。」

藝術英雄論

一九三七年ニールンベルクに於ける黨大會文化會義に於いて行はれたヒットラー總統の演説は、政治の領域に於ける英雄主義者の彼が、文化の領域に於いても徹底した英雄主義者であり、天才論者であることを明かにした。

彼は先づ文化民族と非文化民族とを嚴格に區別し、「眞に高貴な藝術的業績は一民族に與へられた内部的素質なり特殊の能力の稀有な天惠的表示であり、従つてまたそれは民族の生得的に享有せる高次なる使命に對する最も適切なる證明であるが、創造力なきが故に文化的に貧弱な民族の方が大多數であつて、太古以來藝術的認識的形成能力に恵まれた民族は極めて少數しか存在しない。ギリシヤ人がその美しい肉體を繪畫や彫刻に再現し得たのは、ギリシヤ人が美しかつたが故ではなく、かかる美を感じるところの、即ち美を意識的に認識してのみ模造するといふ素質があつたからだ。ただ、かかる事情からのみ古代藝術の傑作を云々し得るのである。言ふまでもなく、黒人種は

全く典型的に美しい均齊のとれた體格の持主ではあるが、しかし彼等自身を多少でも造型的に再現するといふ僅かの才能すら持つてゐない、それ故、とても民族が美しく即ち體格が合目的々に構成されてゐたとしても、決定的なことは、彼らに彼らの美を自覺的に認識してそれに應じて再現するだけの天稟が惠まれてゐるかどうかといふ點である。」と。

藝術的天分に惠まれた民族のなかにあつても、特に藝術の創造者は天才者でなくてはならぬ。天才者は、ヒットラーによれば、藝術に於ける指導者であり、英雄である。かかる指導者、英雄を否定し、集團制作を以てこれに置き換えようとする藝術民主主義に、彼は反對する。そして、天才者の業績を一時的な、時間的に制約された規準を以て、批判することが天才者に對する冒瀆であると考へてゐることは、前に述べた通りである。

「天才がつねに大衆から分離する所以は、社會全體が後になつて初めて知覺する眞理を、社會に先じて無意識に豫感するといふ事情によるものである。勿論、個人の精神的閃きが既に新發見の眞理を告知する瞬間に於いて、直ちに社會全體に明白確實なるものとして見られる場合もあり得るであらう。しかし、天才がその思想や作品に於いて時代に先じること遠ければ遠いほど、益々それを理解することは難しくなる。彼の認識または彼の行爲により抑壓を受くるものは、差し當つてはほ

んの少數にすぎないであらう。然るに、世人が懶惰と怠慢と我慾のために、彼及び彼の作品に對して藝術的牆壁を設けるならば禍なる哉。その後幾世紀もが經過して漸く人類はただ一人のかかる個人的突撃者に追つことが出来るであらう。しかも、藝術的天才の最高の諸作品は、屢々、その根を一民族の中に下ろしてゐるが故に、一般にもまた當該の社會からのみ、然るべく評價されるであらう。文化的業績として最初のうちはなんらかの實用上の目的に役立たぬかに見えた一切のものを我が民族の國民的所有財から削除するならば、我々の輝かしい公共生活の光景は忽ちにして荒涼たる砂漠と化するであらう。」

戰　　時　　と　　文　　化

一九四〇年七月二七日、ミュンヘンに開かれた第四回大ドイツ美術展の開會に際して、ゲッペルスは戰時下に於ける文化政策の意味について極めて示唆に富んだ演説を行つた。

「我々國民社會主義者は、また逸早く、藝術を國民へ奉仕させて來た。藝術は我々にとつて決して暇潰しではなかつたし、現在においてもさうでない。藝術は我々にとつてはかけ替のない生活必



需品である。破竹の勢を以て進撃しつつある兵士達は單にドイツの都市や工場や農村や國民を護つてゐるだけではない、彼等はヨオローバ第一の文化國を、ベートヴェンとワアグナー、シラーとゲーテ、ゲーラーとグリュネワルトの國をも護りつつあるのだ。我々は好き勝手に、そして時勢次第で、藝術に力を入れてみたり、中止したりするわけには行かない。藝術はあるがままの存在、國民の生活表現であつて、經濟や政治と全く同じく我々の國民生活の一部をなしてゐる。」

「従つて、戦争開始以來我々が最大の價値を置いて來たのは、ドイツの文化生活を、完全にしかも妨げなく進展させることであつた。敵國たる金權政治の國々とは異り、ドイツに於いては、この大戦争の間ぢゆう、劇場、映畫館、學校その他多數の圖書館が完全に開かれてゐた。」

「これらのものの使命とするところは、この困難な時期に際して國民に據りどころと慰安とを與へることである。これらのものは、ドイツ國民の國民道德を強化し、高揚し、促進させるために動員された。更にこれらのものは戦線の兵士達のところまで進出し、またヴェストヴァルの保壘のなかまで入り込んで、兵士達が日夜身命を賭して護りつつあるところの、そして平和克服の曉には再び歸つて行きたいと思ふ、懐しい生活に想ひを馳せるよすがを彼らにもたらした。」

我々ドイツ人はこのやうなことのなかに弱さの徴候を見ない、見ないばかりか反對に、非常な強

さと壓倒的な内的確實性の徴候を見る。あの不滅のプロシア王國もまた、このやうな態度を採り、あの最も困難な國家的苦惱と困窮の時期にあつて、新に諸々の大學を創設したのであつた。そして今日なほ、我々は戰時に於いて祖國の文化財を保護し獎勵することによつて、戰線に於ける兵士達の英雄的な生活と衝突する行爲をするものではないといふ固い信念をいだいてゐる。これが若し獨逸の藝術が國民社會主義の今日に於ても尙依然として謂ゆる金持階級や救養ある階級の特權であつたとすれば、おそらく相容れない行爲であるとも云へやうが、併しそのやうな事態はとうの昔に改められてしまつた。今日、國民社會主義國家にあつては、藝術は既に全國民の所有物である。」

ナチス黨と文化政策

ナチス運動は、その永い闘争時代に、ワイマール國家から獨立的に、運動自體のなかに獨自の文化政策的な機關及び施設を持つてゐた。政權掌握後、黨と國家との關係が頗る重大な問題となつたが、「一九三三年一月一日の黨と國家との統一保障のための法律」第一條は、ナチス革命成就後は、國民社會主義勞働黨がドイツ國家思想の擔ひ手であり、従つて、これが國家と不可分に結合されてゐることを明かにした。

ヒットラー總統はニュルンベルクに於ける一九三四年の黨大會で「國家が我々に命令するのではなく、我々が國家に命令するのだ」と云つて、指導の政治手段としての運動の任務を明瞭にし、黨がドイツ國家思想の擔ひ手として、國民社會主義的理念が全國民の共同財となることに責任を負ふ

べきものとした。そしてまた實際問題として、黨と國家との統一は、例へばヒトラーが指導者で宰相の地位を、ルドルフ・ヘスが總統代理で無任所大臣を、ヨーゼフ・ゲッベルスが黨全國宣傳指導者で國民啓發宣傳大臣を兼攝することによつて、立派に實現されてゐる。

ともかく、黨が國家に命令するといふ考へ方は、ナチスの文化政策に關する黨の機關と國家の機關との關係を知る上に大切なことだらう。また國民社會主義の思想及び世界觀の積極的擔當者が黨自體だといふことも、常に念頭に置いてかかる必要がある。

先づ、總統代理ルドルフ・ヘスの仕事であるが、ヒトラーが首相として國家指導を手に收めた時に、總統の精神に忠實に且つまた確實に黨の仕事を果たすために、三三年四月二七日、ヘスが總統代理に任命され、廣汎な事務を委ねられた。そのうち文化的なものを列擧すれば、總て大學専門學校に關する事項、學校問題に關する事項、藝術及び文化問題、音樂問題に關する事項等がある。

このほか、三四年四月一八日には「ナチス文獻擁護のための黨審査委員會」を設置し、ヘスの幕僚の一人で、文化問題の擔任者である全國指導者フィリップ・ボウラーが委員長に任命された。

次に、外交政策局の指導者で且つナチス運動の精神上及び世界觀に關する一切の教育を引き受けてゐるアルフレッド・ローゼンベルクの仕事である。「ナチス文化建設闘爭同盟」の創始者として、

『二十世紀の神話』の著者として、また黨機關紙『フェルキッシア・ベオバハター』の編輯長としての彼の活動はあまりにも有名だが、三四年一月二四日、彼は精神並に世界觀の教育の全體についての監視を總統から委任された。即ち、ローゼンベルクは、國民社會主義が、黨の精神生活として、如何なる誤解も蒙らないやうに、理念の純潔を護るやうに、警戒する義務を背ふてゐる。外交政策局は、各邦に關する報告、學術交換、貿易、新聞、教育の五課に分かれ、三四年一月の右の委任によつて設けられた教育局は、養成、文化培養、教育第一、教育第二、世界觀に關する著作、新聞、庶務、著作促進、先史研究の十課を含んでゐる。

右の所管事業に従ひ、『ドイツ著作物促進全國本部』はローゼンベルクの監督下にある。これは一九三三年七月一日に設立され、ハンス・ハーゲマイヤーが部長に任命された。

『ドイツ著作物促進全國本部』は、世界觀的整理を行ふ總ての科學領域に屬する新刊の著作物に對して體系立つた審査を行ふ重大な任務を負はされてゐる。即ち、この種著作物を世界觀的、藝術的、及び國民教育的觀點から批判し、その著作物がナチス運動の思想財にとつてプラスであるか否かといふ點について裁決するわけで、四百人以上の檢閱係がゐて、この檢閱係は大臣、大學總長から、慧眼な讀者、勞働者、無名人に到る迄ひろく網羅してをり、黨の専門部門が檢閱係の査閲に際

して顧問の役を勤める。既刊の著作物の訂正、新版刊行についても、實際的に協力し、特に若い作家の提出した著作が出版に値ひするものと認定すれば、作者に適當な出版者を探してやり、廣汎な支持を與へる。

尙、ローゼンベルクは、一九三七年「ナチス文化團」が「ナチス歡喜力行團」に統一されるまでは、「ナチス文化團」を指導し、その助を得て、文化領域に於いて、ナチス思想を徹底させる仕事を擔當してゐた。ナチス文化團の目的は自由主義時代に形成された一定の文化態度も一定の方向も有しない文化大衆を統一的、ナチス的文化意志によつて充された共同體に作り直ほすことであつた。ナチス文化團體は、鬭爭時代の一九二九年にローゼンベルクによつて設立された「ドイツ文化建設鬭爭團」と「全國ドイツ演劇協會」とを合一したものであつたが、「ドイツ文化建設鬭爭同盟」は、ローゼンベルクによれば「今日の文化衰退の中にあつて、ドイツの本質の價值を知らしめ、文化的なドイツ人の生活の凡ゆる特殊の表現を促進せしめること」を目的とし、「人種、藝術及び科學、道德的、意志的價值の相互關係について、ドイツ民族に説明すること」を目標」とし、結局に於て「民族の全階層の成長的な人々のあひだに、國民の文化價值と性格價值をめぐる鬭爭の本質及び必然性に對する認識を喚起し、ドイツの自由のための鬭爭に對する意志を強化せしめること」を目

標にしてゐたもので、これが歴史的役割を果たして、全國ドイツ演劇協會と合一して、ナチス文化團となつたわけである。ナチス文化團は、特に演劇に關するものの如き、多數の出席者を有する組織を作り、同時に例へば音樂會或ひは美術展覽會等の開催によつて、他のあらゆる文化領域にも働きかけた。

更に、僅か半年間に約八百萬人を擁するドイツ勞働戰線を組織したドクトル・ローベルト・ライは、一九三三年一月二八日「ナチス歡喜力行團」といふ素晴らしい勞働者自由時間利用制度を作り、從來、その收入程度によつて自民族の文化を體驗することの出来なかつたドイツ國民男女に、自由にドイツ文化財を享受させるやうにし、ドイツ文化財によるドイツ國民の創造に寄與することになつた。尙、黨の全國宣傳指導部は、凡ゆる技術的手段を用ひ、文化施設を通して、國民にナチス思想を普及し、これを黨及び國民のなかに生々と保持し、黨及び國家の種々の規律及び處分に關して之を解明し、或ひは之を行ふについての準備工作をすることを使命とし、事務範圍としては、積極宣傳、放送、映畫、連絡、文化、新聞宣傳、ナチス宣傳及び國民啓發全國連鎖會、展覽會及び大見本市及びドイツ自動車週遊があり、周知のやうにドクトル・ゲッベルスが黨の全國宣傳指導者である。同時に國民啓蒙宣傳大臣を兼攝してゐる。

新聞については、新聞全國指導部とナチス全國新聞部とがある。新聞全國指導者マックス・アーマンはベルリンにゐて全國の新聞の指導を監督し、同時にドイツ新聞院の總裁を兼攝してゐる。ナチス全國新聞部は、ミュンヘンにあつて、ドクトル・オットー・ディートリヒが部長、ナチス全國指導部の法令紙の發行、國民社會主義新聞記者の全名簿作成、整理及海外新聞部の仕事に従事する外、新聞政策局を監督してゐる。新聞政策局の仕事はナチス黨通信の編輯、地方行政區域に於ける新聞班との連絡及黨新聞の通信に關する事項を所管してゐる。

その他、黨の分枝組織としてはヒットラー青少年團、ナチス・ドイツ大學教授聯盟、ナチス・ドイツ學生聯盟、ナチス婦人團等があり、黨所屬の團體のなかにはナチス教員聯盟、ドイツ勞働戰線(KDFの組織を含む)等の文化政策的使命をおびたものがある。

ナチスは、政權掌握後、放恣な自由主義とユダヤ的文化に魂を賣つたドイツ人をナチス的ドイツ國民に叩き直す必要から、先づ國民啓發宣傳省を、次いで宗教省、科學・教育・成人教化省を新設した。

一九三三年五月九日、まだ內務省が教育行政を所管してゐた當時、內務大臣ドクトル・ヴィルヘルム・フリックは、諸邦大臣の前で、ドイツの學校の強力な國民社會主義的意義を強調して、次の

如く述べた。

「民族的革命はドイツの學校とその教育上の任務とに新しい法則を與へた。ドイツの學校は總ての思惟と行爲とに於いて奉仕的犧牲的に彼の民族に根差し、そして彼の國家の歴史と運命に全く不可分に結ばれてゐる政治的人間を養成せねばならない。その任務は、我々民族の同胞を幼年時代から強く民族主義と全民族の意味とで充たし、一旦得られた知識が血肉に浸入し幾世代を通じて何物によつても破壊し得ないやうにすることである。」

ナチスは一九三四年五月一日の大統領告示に基き、學術、教育、及び國民教化省を新設し、從來各邦に分割されてゐた教育並に學術研究に關する行政上の主要權限を中央に統一し、プロイセン文相ベルンハルト・ルストを文部大臣に任命し、全ドイツの教育行政を綜括することになつた。ヒットラー總統は、この大統領告示により、一九三四年五月一日、從來内務省の所管事務であつた學問、教育及び教授、青少年團體、成人教化の事項を文部省に移管させた。ナチスは、大學、學問及び教化を政治的國民構成のための重要な勢力と考へ、民族的意志教育及び性格教育を教育政策の新しい任務とした。

第三國家に於ける民族教育的任務は、新設の學術、教育、成人教化省及び國民啓發宣傳省に限ら

るべきではなく、むしろ國家全體がドイツの強大な教育機關と見做される。従つて、國家の官廳は何れも、法律、立法、軍隊統率、文化管理、勤勞奉仕、經濟管理、經濟組織に對して、その本條の執行を通じて國民を教育するのである。然し、この意味での國民教育を取り上げたら際限がない。ナチス文化政策の短的な且つ集中的な縮圖として、國民啓發宣傳省とその監督下にあるドイツ文化院を中心にして、話を進めることにしやう。

國民啓發宣傳省

國民啓發宣傳省設置の趣旨

一九三三年三月一三日の大統領告示によつて、ナチスは「政府の政策並に祖國ドイツの民族的再建に關し、國民に對し、啓發宣傳をなす目的」を以て國民啓發宣傳省を新設し、黨全國宣傳指導者ドクトル・ゲッベルスを啓發宣傳大臣に任命した。この大統領告示によつて、ヒトラー總統は「關係大臣と協議の上、啓發宣傳省の權限の範圍を具體的に定める權能」を賦與され、この權能に基いて、三三年六月三〇日「啓發宣傳省の職務に關する命令」を公布した。この命令によつて、啓發宣傳大臣ゲッベルスは「國民に對する精神的感化、國家・文化・及び經濟の作興、それに關する内外公衆の啓發、及びこの目的に役立つ凡ゆる施設の行政」等の任務を有することになった。かくしてドイツ文化の積極的促進及びドイツ民族並びに國家生活に於けるその精神的整頓が、この省の任務

とされた。

國民啓發宣傳省設置の計畫は、既に三二年の當初に企てられ、爾來同省の任務機能について、ヒトラーとゲッベルスとのあひだに、慎重審議が重ねられてゐた。ゲッベルスは『ホテル・カイザーホーフから首相官邸へ』（一九三四年刊）のなかに、次のやうに書いてゐる。

「三二年一月二二日……總統と將來のことについて語り合ふ。特に、將來僕の引受ける官廳の任務と權限について、大體の輪廓を定める。考へてゐるのは、國フオルクスエアチーフシグスミニスターウム民民教民育民省ともいふべき

もので、このなかに映畫、ラジオ、教養施設、藝術、文化、宣傳が包括される。これは全く革命的な省で、中央集權的に指導され、何よりも先づ國家思想を一義的な形に於て代表する。全く偉大な計畫で、かういふ種類のもはまだ世界にもない。僕は早手廻しに、この省の基礎の検討に着手した。これは我々の政權を精神的に地固めをし、國家機關ばかりでなく國民をも總括して獲得することに役立つことを目的とする」といひ、また同年八月八日には「……國民教育についての新しいプランも詳細審議する。肝要なのは、國民に精神的影響を及ぼす一切の手段を一つ手に總括することだ。宣傳は謂はゞ政治の藝術にまで發展しなくてはならぬ。國民のなから生れた政府は自己と國民とのあひだに仲介者の介在を斷じて許すべきでない。このやうな政府は一口に國民の第一の代表

者ではなくてはならぬ。これが僕に與へられる仕事だ。その領域は實に廣範で、どこに限界があるのか、まだ全然見當すらつかない。これは一生の仕事だ。これを遂行するには、最も強靱な精神力と最も近代的な技術的大規模性とが必要である。」と云つてゐる。

ゲッペルスは宣傳をどう解してゐるか。

「……理念と組織のあひだに、この概念を鮮明にするために、宣傳がはいつてくる。理念だけでは現實を征服出来ない。理念が立派だといふことが、自らを實現する力を理念に與へはしない。立派な理念で時代の下に押し潰されてきたものが幾らもあるし、また悪い理念で實現されたものも幾らもある。理念は立派なものでなくてはならないだらうが、さらに權力を握るためには、權力を獲得するに使用される手段も使用しなくてはならないだらう。

權力は權力によつて獲得される、しかも一番潑刺としてゐる權力、それは人間そのものである。従つて、革命的な或る理念の生粹の擔ひ手の任務は、黨員を發見すること、即ち全存在をこの理念のために捧げ、進んでこの理念の保證を引受ける人間を發見することである。

或る理念を創造する者と、この理念を遵奉する者とのあひだに、このやうな關係を設けること、これが宣傳の任務である。勿論、宣傳の手段は多種多様である。或る者はその存在だけで宣傳する

ことが出来るし、或る者は書いたり云つたりする言葉によつて、示威行列によつて、即ち人間の密集によつて、宣傳することが出来る。しかし、宣傳の本質は或る理念のために人間を獲得すること、しかも結局そのものに歸依し、もはやそこから脱け出せないほどに、心底から獲得するといふ點にある。

それ故、立派なものが立派なるが故に實現すると信ずることは間違つてゐるし、またその手段方法の故に宣傳を忌み嫌ふことも同じく幼稚である。宣傳は勿論、自己目的ではない。云ふまでもなく、目的のための手段である。手段は、その目的を達すれば、立派だし、目的を達しなければ、拙悪なのである。その手段がいかにして目的を達成するかは、全然問題でない。……宣傳は美學の問題ではなく、有効性の問題だからである。」（一九三三・五・八日の講演）

國民啓發宣傳省の組織

一九三三年六月二日附の新聞記事によれば、新設された宣傳省の事務範圍には、次のものが移管された。

(イ) 外務省の事務より、外國に於ける報導及び啓發、外國に於ける藝術、美術展覽會、映畫及びスポーツ。

(ロ) 内務省の事務より、一般内政的啓發、政治大學、内務大臣参加のもとに行ふ國民的式典、國家的祝典の制定及び舉行。新聞、ラジオ、國民學、ライブツィヒのドイツ文庫、美術、音樂獎勵、演劇、映畫、いかさまもの及び猥雜なものの防止。

(ハ) 經濟省及び食糧農業省の事務より、經濟宣傳、博覽會、歲市、廣告。

(ニ) 逓信省及び交通省の事務より、交通宣傳。逓信省からは、さらにドイツ・ラジオ會社及びラジオ會社の屋外の技術的管理に關しない限り、移管されることになつた。技術管理の事務に關しては、啓發宣傳大臣は、その任務の遂行上必要なかぎり、なかんづくラジオ施設の授與條件の決定、及び料金規定の決定の際に關與することになり、ことに、國家がドイツ放送會社及び放送諸會社に於て代理することは全般的に啓發宣傳大臣の權限に屬することになつた。

設立當初、國民啓發宣傳省は、(1) 立法と法律、(2) 宣傳部長ヘーゲルト、(3) ラジオ部長ホルスト・ドレスラー・アンドレス、(4) 新聞部長ドクトル・ヤーンケ、(5) 映畫部長ドクトル・ゼーゲル、(6) 演劇、音樂、美術部長ラウビンガー、(7) 虛言防止の七部に分か

れ、外にハンケの指導する大臣官房があつたが、その後一九三六年版のドイツ内務省編「ドイツ要覽」によれば、大臣官房のほか十部に分れてゐる。これをクルーゲ・クリューガーの「第三帝國に於ける憲法と行政」の國民啓發宣傳省に關する説明と照合して紹介すると、同省の組織及び事務範圍は大體次のやうになる。

大臣ドクトル・ゲッベルス。

次官ワルター・フンク。フンクは同時に政府新聞部長である。

大臣官房はハンケが首班。

第一部は行政で、財政、人事、法律の三つに分れてゐる。

(1) 財政は、財政、會計、現金出納の事務、ドイツ經濟宣傳委員會、ライプツィヒ見本市、省文庫^(イ)を監督し、ドクトル・オットが指導してゐる。

イ、ドイツ經濟宣傳委員會といふのは、一九三三年一〇月二七日の經濟宣傳に關する法律施行のための第二命令によつてベルリンに設立された公法團體で、公私の經濟宣傳の全般に亘つて監督をする。經濟宣傳の實施に許可を與へ、また許可の根本原則を樹立する。更に進んで、經濟宣傳の

領域に於ける弊害を除去し、宣傳の價值に對する信頼を回復するに必要な手段を講じ、併せて經濟宣傳を統一的に活潑に形成することに盡力することを主要な任務としてゐる。ライヒャルトが會長。

ロ、ライプツィヒ見本市といふのは、ドイツ商品輸出額を高めるために、ライプツィヒ見本市を保護獎勵する機關で、一九一六年六月二三日協會形式で設立されたのが、一九二一年三月四日のザクセン經濟相令によつて公法團體に移管された。ドクトル・ケラーが所長。

(2) 人事は、官吏及び各省竝に各省管轄會社の使用人勞働者に關する人事及び俸給事項を所管するもので、リューディガーが指導者。

(3) 法律は、立法、法律、組織事項を所管し、國文化院を監督してゐる。ドクトル・シュミット
||レオンハルトが指導者。クリューゲ・クリューガーによれば、こゝで取扱はれた重要な法令は、
三三年一〇月四日の編輯人法、三四年二月一六日の映畫法、三三年五月一〇日の國民象徵保護法令、
三三年六月二三日の外客誘致委員會に關する法令、三二年六月二三日の外國映畫の上映に關する法令、
三三年六月四日の音樂上演權仲介に關する法令、三三年六月四日の暫定的映畫院設立に關する法令等がある。

國文化院については後述。

第二部は宣傳で、指導者はヘーゲルト。

所管事項は非常に廣汎で、(1) 國民啓發及び宣傳の領域に於けるドイツ國の統一政策の實行、(2) 一般內政外政、(3) 國防政策、(4) ユダヤ人政策、(5) 經濟及び社會政策、(6) 農業政策、(7) 植民地政策、國民保健及び人口政策、(8) 東方問題、國境問題、少數民族政策、(9) 交通政策、(10) 青年及び學生政策、(11) 市及び展覽會事項、(12) ドイツ政治大學^(イ)、(13) 冬期救濟事業、(14) 勞働奉仕のための建設物、(15) 外客誘致全國委員會等^(ロ)が含まれてゐる。右の内、――

イ、ドイツ政治大學は三三年五月宣傳省の管轄となつたもので、ナチス國家の精神に基いて、政治的知識と意志教育とを國民に普及させる意圖を有し、地理政治學、民族問題、東方問題、勞働奉仕、國際法、經濟資源研究、反マルクス主義のための特別研究科があり、またヒトラー青少年、突擊隊及び訓練報告者、ナチス婦人團體、國民政治教育學等のための研究科がある。

ロ、冬期救濟事業。

ハ、外客誘致全國委員會は、三二年六月二三日の外客誘致全國委員會令によつて設立され、ドイツに外人客を誘致する政策を總括施行するもので、關係省、地方官廳、ドイツ鐵道協會の主腦部と外客誘致に關係のある地方各代表によつて構成され、會長はゲッベルズ宣傳大臣。

第三部はラジオ部で、(1) 政治、社會、文化各般にわたる放送政策を指導監督するだけでなく、(2) 外國向放送、(3) ラジオ商工業、(4) 放送法規、(5) 放送技術をも所管してゐる。但し、放送技術に關しては主として政策上の諸問題を取扱ふに止り、放送の技術的設備の建設、維持、運用、その他聽取障防止事務等は逓信省が擔當してゐる。(6) 全ドイツの放送局に對して責任を持ち、殊に政治的集會及び演説の仲繼に對して責任を持つ。(7) また、ドイツ放送會社及びテレヴィジョン形成を監督する。(8) 今次戰爭勃發後、啓發宣傳省放送部内に放送司令本部が設けられ、放送に關する一切の中央に於ける指令がこゝから發せられてゐる。

イ、ドイツ放送會社は二五年五月一五日に設立されたが、三三年一月にドイツ放送有限責任會社となり、出資は政府の掌中にある。會社の任務はドイツの放送事業を政治的、藝術的、經濟的、技術的に形成することである。

このドイツ放送有限責任會社は中央指導局の下に、(1) 全國監督・總務局、(2) 全國放送指導・プログラム局、(3) 技術局、(4) 管理局の四部門があり、同じく四系統に分れて運營される凡ての放送局を統轄し、放送事業に従事してゐる。

四〇年八月啓發宣傳省の發表によれば、ドイツの放送局は、ボヘミア・モラビア保護領、舊ポーランドを含めて七十三局ある。即ちボヘミア・モラビア保護領には中波局五、短波局七の一二局、舊ポーランドには中波局二があり、残り五九局のうち、短波局一七、長波局二、ドイツ放送局と稱する中央局一四。別にテレビジョン放送局がある。尙、ラジオの部を参照されたい。

ロ、對外放送はドイツ放送會社の中央指導局の全國放送指導部外國部長が短波放送局長を兼任し、次長の下に (1) 藝術・娛樂課、(2) 報道課、(3) 放送地帯課、(4) 演出課、(5) 國際プロ交換課の五課を設けて、啓發宣傳省の監督の下に行はれてゐる。

第四部は新聞で、これが同時に政府の新聞部である。従つて、この部の指導者ベルントはドイツ新聞部長ドクトル・オットー・ディートリヒの代理である。

所管事務の範圍としては (1) 國內の新聞事業、() 新聞科學及びドイツ新聞學研究所、

(3) 無電業務、(4) 報道業務、(5) 新聞寫眞通信事項、(6) 新聞寫眞文庫、(7) 新聞文庫及び新聞蒐集、(8) ドイツ新聞全國組合等の監督がこの部に屬する。

三部に分れてゐて、(イ) 國內新聞部は内政、ドイツ新聞に關する一切の問題を取扱ひ、(ロ) 外國新聞部は全世界の新聞に眼を通して、關係官廳及び在獨外國新聞記者に教示し、(ハ) 無線業務部はドイツ放送局に毎日の新聞ニュースを與へる。

右のドイツ新聞全國組合といふのは、三三年一〇月四日の編輯人法第二三條によつてベルリンに設置された公法團體で、編輯人を以て構成する職能團體である。これについては國文化院の新聞院の所を参照されたい。

第五部は映畫で、所管事項は (1) 映畫法制定、(2) 映畫檢閲、(3) 國內外のフィルム及び映畫に關する事項、(4) 映畫工業、映畫經濟、(5) 映畫技術、(6) 映畫檢閲所及び映畫上級檢閲所、(7) 映畫劇顧問、(8) 週刊ニュースで、ドクトル・ゼーガーが指導者。

この部の下部組織としては五千の大管區映畫監理所、地域映畫監理所、地區集團映畫監理所があつて、地域映畫監理所が組織の中心をなし、映畫劇場及び映畫組織との關係を保持する。

イ、映畫の檢閲は三四年二月一六日の映畫法第一六條により、伯林檢閲所が權限を有することに
なり、その決定はドイツ全土に適用する。檢閲は官吏たる所長が行ひ、劇映畫については
四名の陪席の意見を聴き、なほ疑問ある場合には、専門家特に國民啓發宣傳省の専門家を参加させ
る。陪席は映畫業者、藝術家及び文筆業の領域から各一人を選任することを要し（第一七條）、その
任命は各所屬文化院の院長の推薦に基き啓發宣傳大臣が行ふ（第一八條）。

ロ、上級檢閲所は、檢閲所に於ける許可の拒否または映畫の價值の審査の拒否に不服があるとき
出願者は上級檢閲所に抗告することが出来る（第一九條）と共に、啓發宣傳大臣もまた映畫檢閲所
の許可した映畫の再檢閲を上級檢閲所に命ずることが出来る（第二二條）。出願者の異議に關して最
終的判定を下すが、啓發宣傳大臣はこれに拘束されず、緊急の理由のため公安に必要と認めたとき
は檢閲所並に上級檢閲所の許可を取消することが出来る（三五・六・二八・の改正第二法律）。上級檢
閲所の組織は檢閲所に準じ、官吏たる所長と四人の陪審からなる（第二〇條）。

ハ、映畫劇顧問は同じく三四年二月一六日の映畫法によつて設置された劇映畫製作者に對する豫
備檢閲機關であつて、この機關の檢閲は映畫法の規定では強制的であり、また映畫劇顧問の權能も
原稿または臺本の内容を審査し、改訂を要するときにはその改訂に助言を與ふるなど頗る廣く定め

られ（第一・二條）、成るべく映畫化の後に本檢閲で不許可になることを豫防するにあつたが、實施の結果業者のなかには劇顧問の與へる指導助言に従はないものが多く、豫期の効果を擧げ得なかつたので、三四年一二月一三日の改正法律では、豫算檢閲を受くるや否やは業者の任意とし（第一條の改正）、映畫劇顧問の任務も「提出された脚本または臺本が後援するに足るものと認めたとき、業者の申請に基いて、脚本及び映畫製作に當つて助言及び援助を與ふることを得」と緩和され（第二條の改正）、さらに檢閲所に對しては自分の行つた檢閲の結果を常に報告する義務を負ひ、同時に劇映畫の檢閲に參與する權限を有するものとされた（第三條の改正）。

第六部は演劇で、ドイツの演劇制度は三四年五月一五日の演劇法と三四年五月一八日及び三五年六月二八日の二つの施行令によつて啓發宣傳省の監督下に置かれることになつた。

啓發宣傳大臣の演劇に對する監督權は演劇興行及び演劇の内容に及ぶものであつて、

（1） 先づ私人または私法人が演劇興行を爲さんとするれば啓發宣傳大臣の許可を要し、出願者が演劇興行に必要な資格若くは資力を缺き、または後に至つて之を缺くに至つたときは、許可を拒否し、または取消すことを要し、なほ出願者が許可の後一定期間内に營業を開始せず、または一年以

上休業したときは許可は效力を失ふものとされてゐる（第三條）。

（２） また、舞臺監督、支配人、樂長の任用には啓發宣傳大臣の認可を要し、啓發宣傳大臣に於てその不適當なことを認めたときには、從來に於ける從業を禁止し得べく（第四條）、

（３） また特定の脚本の全部または一部の上演を命令し、または禁止することが出來、

（４） 觀劇組合及び素人劇團に對しては、必要な命令を發し、指導を與へ、それがドイツの演劇にとつて有害と信ずるときには、解散を命ずる權能を與へられてゐる（第七條）。

右に掲げた啓發宣傳省の任務のうち（２）の舞臺監督以下の任用の認可と（４）の觀劇組合及び素人劇團の取締りの外は、第一施行令第一四條により、ドイツ文化院またはその演劇院に委任されてゐる。

この啓發宣傳省の演劇部の事務範圍は、（１） 國內外の劇場經營の監督、（２） 脚本顧問、（３） 藝術舞踊の監督で、指導者はドクトル・シュレッサーである。

なほ、ドイツ・オペラ劇場、ドイツ劇場、國民劇場、國民舞臺、ヴィースバーデン・ドイツ劇場の五つの國立劇場が、この部の監督下にある。

イ、ドイツ・オペラ劇場は、從來市立歌劇協會の經營であつたのを三四年七月一日に國立營造物

に改められた。

ロ、國民劇場は三四年一月一八日以後宣傳省の監督下におかれ、ベルリン大管區の歡喜力行團の劇場文化奉仕のために劇と歌劇作品を上演する。

ハ、ヴィースバーデン・ドイツ劇場は三五年八月一日以後宣傳省の管轄下におかれ、歌劇、オペレッタ、演藝を上演してゐる。

ニ、西部劇場に於ける國民歌劇は三五年七月二日以後宣傳省の監督下におかれ、歡喜力行團ベルリン大管區の劇場文化奉仕のために作品を上演してゐる。

第七部は外國部で、事務範圍としては、(1) 外國に於ける政治的虚言の防止、(2) 啓發、(3) 對外諸關係の促進の仕事が屬し、ハーゼンエールルが指導者である。

第八部は著作物部で、事務範圍に屬する仕事は、(1) 國外に於けるドイツ著作物の保護、(2) ドイツ圖書宣傳のための國立研究團體及びライプツィヒのドイツ文庫の監督、(3) ドイツ文書局の管理であつて、指導者はドクトル・ヴィスマンである。

イ、ライプツィヒのドイツ文庫は一九一二年一〇月三日にザクセン、ライプチヒ、ライプツィヒの書籍店取引組合間の協定によつて成立し、一九一三年一月一日以降、國內外のドイツ語の書籍及び國內の外國語文書が完全に蒐集されてゐる。この蒐集の外、ドイツ書籍の文獻的開發、文獻案内、ドイツ圖書貸與、並にこれに關聯する文庫内閱覽圖書館公開の仕事をしてゐる。文庫長はドクトル・ウーレンダール。

ロ、ドイツ文書局は、ドイツ圖書のための實際的宣傳を行つたり、出版者、著述家に助言を與へたり、國民文學及び占星圖書のための研究團體相談所を監督する。

第九部は造形美術部で、國內外に於ける造形美術の保護獎勵、殊に美術展覽會の保護を任務としてをり、この部の下に「藝術的形成のための全國委員」がゐる。

「藝術的形成のための全國委員」は三五年一〇月一四日の總統令によつて設置されたもので、ナチス國家がその世界觀を一定の藝術的形成として表現しやうとするときに（主として、公共建造物、記念碑、旗、制服、貼札、郵便切手等を作成する際に）助言を與へ、協力することを任務とする。

第十部は、音楽部で、國內外に於ける音楽の保護獎勵を任務としてゐる。

ベルリン・フィルハーモニー有限責任會社はこの部の指揮監督下にある。

ベルリン・フィルハーモニーは一九〇三年十二月二日オーケストラの會員によつて有限責任會社として設立され、三四年六月二十八日に至つて政府に移管された。この會社はベルリン及び外國に於ける藝術的音楽演奏の目的に従つてオーケストラ團體を構成することを事業の目的とし、利益を意圖せず、公益の立場から音楽獎勵に盡してゐる。その内容については音楽の部で紹介する。

尚クルーゲ・クルューガーによれば、以上十部の外に、

第十一部として國民文化勞作部がある。これは三七年三月第三部のラヂオ部から分れたもので、この部の指導者は同時に歡喜力行團の職務上の指導者で、これによつてこの部はドイツ勞働戰線(DAF)の國民文化部との緊密な關係を獲得する。

尙、一九三七年一月三〇日の法令は、ドイツ國民に對してノーベル賞の受領を禁じ、「藝術・科學

のためのドイツ國民賞」を制定したが、啓發宣傳省はこの法令の實行を委ねられてゐる。この國民賞は年々三人の功績あるドイツ人に對して、それぞれ十萬ライヒスマルクの金額で、ナチス黨大會當日盛大な儀式を行つて授與される。

宣傳省の地方局

一九三三年六月初め、宣傳省には三一の地方局が設立された。地方局は國內の一定區域を擔當して、その任務に觸れる總ての問題について宣傳大臣を補佐し、またその命令を實行する。

宣傳省の地方局指揮者は、同時に、その區域に對して、文化院の地方文化管理者である。(國內に於ける文化院の活動に關する地方局指揮者の監視に關す命令——一九三四・一一・一二)。これについては後述。

宣傳省の地方局

- 1、オストプロイモン
- 2、ベルリン

-
- 3、ブランデンブルグ邊境國
 - 4、シレジア

- 5、ボメルン
- 6、マグデブルク・アンハルト
- 7、ハレ・メルゼブルク
- 8、ツューリンゲン
- 9、シュレスヴィヒ・ホルシュタイン
- 10、ヴェーゼル・エムス
- 11、東部ハノーファー
- 12、南部ハノーファー・ブラウンシュヴァイヒ
- 13、ヴェストファーレン・北部
- 14、ヴェスファールン・南部
- 15、クルヘッセン
- 16、ヘッセン・ナッサウ
- 17、ケルン・アーヘン
- 18、コブレンツ・トリエール

-
- 19、エッセン
 - 20、デュッセルドルフ
 - 21、ミュンヒエン・オーバーバイエルン
 - 22、シュバールメン
 - 23、バイエルン東部國境地方
 - 24、フランケン
 - 25、マインフランケン
 - 26、ザールファルツ
 - 27、ザクセン
 - 28、ヴュルテンベルク
 - 29、バーデン
 - 30、ハンブルク
 - 31、メクレンブルク・リューベック

ドイツ文化院

ドイツ文化院の任務

啓發宣傳省がドイツ文化の積極的促進及びドイツ民族竝に國家生活に於けるドイツ文化の精神的整頓を任務とすることは、前述のとほりであるが、この重大な任務を遂行するために、啓發宣傳省は、一九三三年九月二二日のドイツ文化院法によつて、一つの外的・組織的限界を創設した。

ドイツ文化院法は僅か七ヶ條の謂はば大綱を定めた法律である。

この文化院法によつて、國民啓發宣傳省は、その任務範圍たる活動部門の所屬員を公法團體に結成すべき授權及び委任、それ故に、同時にその權能及び命令を賦與された（第一條）。ゲッペルスによれば、「ドイツ文化院は第一に、精神的文化統一に於ける凡ゆる創造者の結合である」（三三・九・一五、ドイツ文化院開設に際しての演説）。即ち、一つの文化組織體である。然し、それは全ドイ

ツ文化の組織體ではない。何故なら、文化創造及び文化生活の重要な部分、特に科學及び教育の領域がこれに編入されてゐない。即ち第一條によつて明かであるやうに、ドイツ文化院の對象とする範圍は國民啓發宣傳省の任務範圍と一致し、それ以外のものを含まないのである。次に、ドイツ文化院は、國民啓發宣傳省の任務範圍たる活動部門の所屬員を公法團體に結成したものである。當時、文化の領域では、臨時映畫院が三三年七月二二日の法律によつて公法團體として設立されてゐたほか、文化關係業者はいづれも私的な組織を多數に形成してゐたに過ぎなかつた。しかも、その多くは利益團體で、なかには労働組合的な性質をもつたものや、マルクス主義的影響を受けてゐたものもあつたが、それらのものが公法團體に結成されて、ナチスの文化政策を擔ふことになつた。

かゝる公法團體として、ドイツ著作院、ドイツ新聞院、ドイツラジオ院、ドイツ演劇院、ドイツ音樂院、ドイツ造形美術院の六つの院が設立された(第二條)。このほかに、既に三三年七月一四日の法律によつて公法團體として設立されてゐた臨時ドイツ映畫院をドイツ映畫院と改稱し(第三條)これに加へ、合計七つの公法團體を以てドイツの文化院を構成することになつた(第五條)。但し、三九年一〇月二八日のドイツ文化院法第五次施行令によつて、ドイツラジオ院は廢止された。

ドイツ文化院は職業職分的構成の一部である(第四條)。職業職分的構成とは、啓發宣傳省のシユ

ミット・レオンハルトによれば、「國家に編入された民族の協同體に於ける一切の勞働集團及び職業集團の總括及び指導の狀態」であつて、それ故「その狀態は、個人の國家に對する自由及び表面上の自然的對立を、國民及び國家の肢體の關係へ、從つて一體の關係へ、即ち私的及び公的任務の一體の關係へ置き換えた狀態である」。

啓發宣傳大臣は、經濟大臣と共同して、命令の方法により、營業條例をドイツ文化院法と一致させる權限を賦與された（第六條）。一八六九年の營業條例は、營業自由を基礎としてゐたが、營業自由とは「個人が經濟的創造の自然的且つ保護された擔當者として、全體に對して、國家に對して、對立してゐる狀態を示すものであつて」例へば、意見發表、出版、結社、集會、建築、契約及び所有權の自由のとき、政治的自由の組織と共に、自由主義的國家觀、法律觀及び世界觀の基礎觀念であつた。從來、この營業の自由を基礎とする營業條例に於て取り扱はれてゐた文化職業は、もはや單なる營業ではなく、「同時に精神的な、且つまた精神的作用を及ぼす所の職業であり、即ちナチス的意味に於ける政治的活動の職業」と解せられることになり、かゝる文化職業を律するには營業條例では間に合はなくなり、これをドイツ文化院法と一致させる必要が起つてきたわけである。

啓發宣傳大臣は、ドイツ文化院を監督する（第二條、第五條）ほか、施行規則を公布する權限を

賦與されてゐる（第七條）。

では、何故文化院を設立する必要があつたのか。文化院に統制することによつて、ナチスは自ら文化の創造者とならうとしたのであらうか。この疑問にこたへて、ドイツ文化院法と同時に發表された啓發宣傳省の理由書には次のやうに述べてある。

「文化を上から創造しやうといふが如きことは、國民社會主義國家の意圖するところではない。

文化は本來國民のなかゝら生れて來るものである。……啓蒙期以後の總ての舊式な國家解釋は、文化を全く個人の案件と考へ、文化を國家と或る種の對立關係に置いて顧みない。この考へによつて飽くまで貫かれてゐないまでも、文化は本來特に繊細さと多様性とを身上とするものであるから、出來るだけ國家中央機關の干涉を伴はない。極度に中央集權を廢した國家保護を求めるものだと解する。……國家の任務は、文化の内部に於て、有害なる勢力を克服し、民族協同體に對する責任感を規準にして價值ある勢力を促進せしめることである。この意味に於て、文化の創造は飽くまでも個人的であり、自由である。然るに、ドイツ文化政策なるものを行ふためには、恐らく、現にドイツ文化の凡ゆる領域に於て創造に従事しつゝある人間を、國家の指導のもとに、一つの統一ある意志形成を目指して、統括する必要があらう。この目標は、常置的な機構によつてのみ達成せられる。而し

て、常置的機構は各個人の把握を意味する。また、これは國家内部に於ける組織でもなく、況して國家と並ぶ組織でもなく、新しい形式に於ける國家そのものである。從來、中心に立つてゐた法治國家的な諸制度（例へば、法律、裁判權、警察）が不要になるのではない。さうではなく、これらの制度は、國民同胞の意志の把握を直接の課題とするこの組織の背後へ後退し、そして強制及び權力の手段として作用するのである。」と。

一九三三年十一月一日のドイツ文化院法第一次施行令によつて、ドイツ文化院の任務及び構成が具體的に明示された。

即ち、第一次施行令第三條によれば、文化院は「これによつて包括される凡ゆる活動分野の所屬者の協同によつて、啓發宣傳大臣の指導のもとに、國民及び國家に對する責任に於いて、ドイツ文化を促進し、且つ文化職業の經濟的及び社會的事項を統制し、更にそれに所屬する凡ゆる努力の間に調節をはかるべき任務」を持つてゐるのである。

施行令の第四條によつて、文化財の生産及普及に従事するものは、總てドイツ文化院に所屬せねばならぬことになつた。文化財とは何か。第五條によれば、ドイツ文化院法に所謂文化財とは、藝術の創作または行爲にして公衆に傳達されるもの、及び藝術以外の精神的創作または行爲にして公

衆に傳達されるものである。詳しくは後述。

一九三三年十一月九日の第二次施行令によつて、一九三三年十一月一五日にドイツ文化院が設立された。

當日、ベルリンのフィルハーモニーに於ける祝典には、ヒットラー總統が臨席、大臣ゲッペルスが演説を行ひ、ドイツ文化院及び七つの個々の院の設立を公表した。ゲッペルスの演説要項は右のやうなものであつた。

「吾々は總ての領域に於けるドイツ藝術及びドイツ文化の善き保護者であり度い。ドイツ國民を捉えた飢饉は胃袋だけを襲つたのではない。それは同時に精神の飢饉である。この精神の飢饉をも停止せしめたい。眞の革命と同様、我々の革命もまた我國の文化的職業と精神的創造行爲の革新的な新形成を目指すものである。我々はドイツ國民の創造力を再び開放した、願くばこの創造力が障げられることなく伸長し、新たに結成される民族の大本に豐饒な果實をつけて貰ひたい。これがまたドイツ文化院の眞の意義でもある……文化院は創造する總ての者を結成して一つの精神的文化統一體を作らんとするものである……創造する人間は再びドイツに於ては統一體であることを感すべきである。かくして、從來創造する人々を國民とその推進力とから切離してきたあの慰めのない空虚

感が取除かれることにならう。我々は藝術的文化的發展を狭めやうとするのではない。これを促進させることが我々の意志である。國家は保護の手を差延べやうとしてゐる。ドイツの藝術家達に國家の庇護のもとに保護されてゐることを感じさせ、そして藝術家が國家の物質的存在の價值を生産するものと同様必要缺くべからざるものであるといふ幸福感を取戻してやらうとしてゐる。

頭腦の勞働者と腕の勞働者とが互ひに握手して一團となり、未來永劫に亘つて解き放たれないものとならねばならぬ。創造する總ての者の共同體が實現するのである。各人は國民とその將來のために行はんと決心したものを各自の職場に於て行ふのである。

新設されたドイツ文化院は現在の反動的な流行遅れの概念を超越するもので、文化院の仕事は青年及び青年の健康な力に道を塞がうとしてゐる反動的な後退を嫌惡するものであると同様に、藝術上の無爲無能を巧みに蔽ひ隠してゐる一見モダンに思はれる尊大主義に對しても好意を持つものではない。

ドイツの藝術は新鮮な血液を必要とする。我々は若い時代に生きてゐるのであり、それを擔ふものは若く、それを充たす理念は若いのである。これらのものは我々の背後に去つた過去とはもはや何ものも共通に持つものではない。この時代に表現を與へやうとする藝術家もまた若々しい感受性を

もち新しく形成しなくてはならぬ。靜止ではなく、發展に資する筈のドイツ文化院の設立が若しも、これによつて職人根性を増長させ、青年の登龍の道が塞がれたといふ風に考へられるならば、これ以上甚しい誤解はあるまい。……

新しい國家は獨自の法を持つてゐる。最初の一人から最後の一人に至るまで萬人これに服従する。藝術家もまた、これらの法律を承認し、これを創造的行爲の規繩とする義務を有する。然し、それを超えたところでは、藝術家は自由であり、何等の拘束も受けない。……

然し、だからと云つて、眼に角を立て、諸君の物の考へ方を嗅ぎ廻はるわけではない。我々は寛大であり度い、そして我々の寛大さが藝術家社會の同じ寛大さを以て報ひられることを我々は切望する。我々は諸君に我々の全心を擧げての配慮と促進的な保護とを與へたいと思つてゐるのである。ドイツの新國民藝術は、自己の國民性といふ母なる大地にしつかりと且つ離せないやうに深く根をおろしてゐるときに初めて、世界に於て、尊敬を受け且つ我々の國土の境界を超えて、新興ドイツの眞の文化意思を實證することが出来るであらう。ドイツ的で且つ眞正なるものを、世界に新たに體驗させなくてはならぬ。ドイツの藝術は、むしろ、民族へ歸つて來たことによつて、むしろ、民族が再び藝術へ復歸するといふ最も美しい報酬を受けることにならう。この切望は我々の協同作

業のほんの挨拶である……。」

ドイツ文化院の任務について、ゲッペルスはいふ「ドイツ文化院の任務が藝術を制作することであると考へるのは根本的な誤謬である。文化院はさういふことは爲し得ないし、將來もしないであらうし、またしてはいけない。なぜかといへば、藝術は決して諸々の組織によつて創作されるものではなく、つねに各個人によつて制作されるものだからである。文化院の任務は、藝術の創作に従事する人々を統合し、これを體系的に區分し、彼らの内部に、また彼らのあひだに現はれてくる諸々の障壁や對立を除去し、そして彼らの援助を得て、現存の文化財や、出來上りつゝある文化財や、將來創作されるであらう文化財やを、ドイツ民族の利益になるやうに、合目的に管理することである。これがドイツ文化院の任務であつて、それ以外のものではない。それ故、なんらか或る藝術方向を主張することが、ドイツ國文化院の任務であるかのやうに考へることも根本的な誤謬である。」

中央部の組織

文化院の總裁は啓發宣傳大臣である。即ち、ゲッベルスは大臣たる資格に於いて同時にドイツ文化院の總裁たる任を引受けた。かやうに、事務大臣と啓發宣傳省の任務範圍に屬する職業職分上の指導者とが同一人であることは、省と職業職分的組織との不可分の内部關係を反映するものである。ゲッベルスは、一九三五年一月一五日ベルリンに於ける文化元老院開設に際して、次のやうに説明した。「ドイツ文化院總裁は、一人兼攝で、黨の全國宣傳指導者の職と、國民啓發宣傳大臣の職とを引受けてゐる。この三位一體のなかにこそ、職業職分的組織と黨と國家との摩擦のない協働の絶對的保證が與へられてゐるのである。かゝる機構に立脚する三位一體の政策は、眞にナチス的世界觀の擔ひ手である人間のみが我々の文化生活に作用を及ぼし得ることを保證するものである」と。總裁として的大臣は、一人または二人以上の代理を任命することが出来る。さらに、個々の局總裁を任命する（第十三條）。

個々の局總裁は文化顧問會を構成する（第十一條）。

更に獨逸國文化元老院を設け、國民及び文化に盡瘁した卓越した人物を院總裁が元老院顧問に任命し、元老院をして各局總裁を補佐させることにした（第十三條）。この文化元老院の設立は、實際には、文化院設立第二年目の一月十五日に行はれた。

文化院の決定する意思を擔ふものは院總裁である。院總裁は各局總裁間に意見の相違が生じたとき之を裁決することは勿論、各局總裁間に意見の相違がないときでも、數局間に共通の案件について裁決することが出来る（第二一條）外、各局の決定を破棄し、自己の裁決によつてこれを決裁することも出来る（第二二條）。

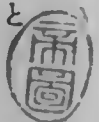
その他、ドイツ文化院總裁は、次の權限を有する。

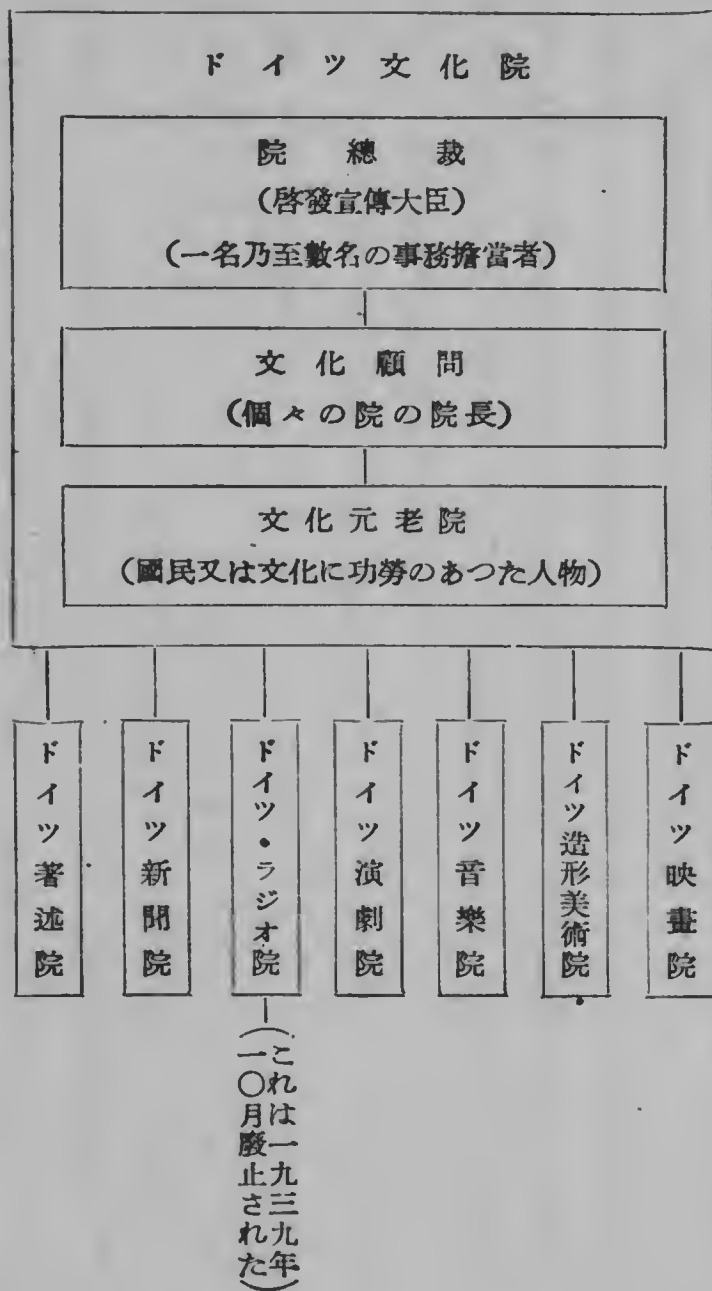
（イ）ドイツ文化院の定款を定める（第一九條）

（ロ）ドイツ文化院の豫算を定める（第二三條）

（ハ）第二五條に基づく措置をとる。即ち、その管轄領域内の營業條件、企業の開始及び完了を定め、右領域内の重要問題特に總括する活動集團間の契約の種類及び狀態に關して命令を發することが出来る。この第二五條に基く措置によつて、たとひ沒收されるやうな羽目に陥るものがあつても、これを理由にして、賠償を要求するわけには行かない（第二六條）

次に、前述のやうに、ドイツ文化院總裁はドイツ文化院の法定代理人ではあるが、しかしドイツ文化院及び個々の院とドイツ政府との交渉をなすものは啓發宣傳大臣に限られてゐる（第二七條）尙、ドイツ文化院の經費は個々の院から臨時會費として徵收することになつてゐる（第二四條）





ドイツ文化長老院

三三年一月一日のドイツ文化院法第一施行令第一二條は、ドイツ文化院内にドイツ文化長老院を設けることを得る旨を規定してゐたが、ドイツ文化院總裁は文化院の構成工作を終つた後、即ち文化院設立第二年目の三五年一月一日、訓令を以て、この第一二條に基くドイツ文化長老院を設置、文化院總裁たる啓發宣傳大臣ゲッペルスが總統の臨席を得て、ベルリン・フィルハーモニーに於て大々的に設立祝典を行つた。

ドイツ文化院總裁は民族及び文化に盡瘁した卓れた人物を長老院顧問に任命するもので（前掲第一二條後段）、ドイツ文化長老院はドイツの文化生活に對する最大の代表的な審判機關であつて、總裁及び國民に對して、國民の文化的生活の計畫的發展に對する最後の責任をとるのである。

差當つて、ドイツ文化長老院は、副總裁長及び三八のドイツ文化管理官、總裁顧問會の全會員及びこの院の總裁並びに幹部を以て構立されてゐる。

ドイツ内系省發行「ドイツ要覽一九三六年」によれば、文化長老院を構成してゐるメンバーは左

の通りである。

(ドイツ文化院から) ワルター・フンク(副總裁)。ドクトル・シュミット||レオンハルト(ドイツ文化管理者)。フランツ・モララー(ドイツ文化管理者)。ハンス・ヒンケ(ドイツ文化管理者)。

(ドイツ音楽院から) ベーター・ラーベ。ドクトル・パウル・グレーナー。ハインツ・イーラー。ドクトル・フリッツ・シュタイン。ホルスト・ザンダー。フランツ・アダム。ヘルマン・ミュラー||リョーン。クレッパス。ヘルマン・シュタンゲ。ヴィルヘルム・バッツクハウス。ドクトル・ヴィルヘルム・フルトヴェングラー。ハンス・フィツナー・クレメンス||クラウス。ゲオルク・シューマン。ハインリヒ・シュルスヌス。

(造形藝術院から) オイゲン・ヘーニヒ。ワルター||ホフマン。アドルフ・ツィーグラ。ハンス・シュヴァイツァー。(以下十一名)

(ドイツ演劇院から) ドクトル・シュレッサー。オイゲン・クレッファ。 (以下十三名)

(ドイツ著述院から) ハンス・ヨースト。ドクトル・ヴィスマン。(以下十六名)

(ドイツ新聞院から) マックス・アーマン。ドクトル・オット・ディートリヒ。(以下十五名)

(ドイツ放送院から) ドレスラー。オイゲン・ハダモフスキー。(以下十三名)

(ドイツ映畫院から) ドクトル・レーニツヒ。ヴァイデアン。(以下十三名)

一九三六年四月四日には更に、ベルンハルト・ルスト(教育大臣)、コンスタンチン、ヒールル(勞働次官)、ドクトル・ローベルト・ライ(黨組織部長でドイツ勞働戰線の指導者)、フィリップ・ボウラー(總統官房で、ルドフ・ヘスの幕僚の一人、同年四月十八日以後ナチス文獻擁護のための黨審査委員會の委員長に就任)、ヴィクトル・ルツツエ(突擊隊參謀長)、ハインリッヒ・ヒムラー(親衛隊全國指導者、國家祕密警察指導者、全國警察長官)、バルドゥール・フォン・シーラッハ(前任全國青少年指導者、一九四〇年以後ウィーン縣黨支部長兼オストマルク都督)が文化長老院に任命された。

各院の任務と組織

次に、例へば新聞院とか、著述院とか音樂院とか、造形美術院といったやうな、ドイツ文化院を構成する個々の任務を組織とを覗いてみることにしよう。

1. 個々の院の任務

個々の院はその所管領域、例へば新聞、著述、音楽など専門の領域に於て、前に述べたドイツ文化院の任務、即ちドイツ文化院法第一施行令第三條の任務を遂行することを任務とする。繰返して云へば、ドイツ文化院は「これによつて包括される凡ゆる活動分野の所屬者の協働によつて、啓發官法大臣の指導のもとに、國民及び國家に對する責任に於て、ドイツ文化を促進し、且つ文化職業の經濟的及ぶ社會的事項を統制し、さらにそれに所屬する團體相互間の凡ゆる活動の間に調節をはかるべき任務」及び啓發宣傳大臣に委託された特殊の任務を有するのであるが、個々の院はこの任務をその所管領域に於て實現することを任務とするわけである。

この任務遂行のため、個々の院は「その管轄領域内の營業條件、企業の開始及び完了を定め、右領域内の重要問題に關し、特に包括する活動集團間の契約の種類及び狀態に關し命令を發する」權限を與へられてゐる(第二五條)。この權限に基いて、各種の院令が發せられてゐることは、後述の通りである。尤も、この院令については制限が附されてゐて、個々の院は「院令によつて國際協定を侵犯することが許されない」のは勿論、「書籍販賣、美術品販賣、ラジヲ販賣の領域に於て、ここでいふやうな院令を發令するときには、啓發宣傳大臣の同意を要する」ことになつてゐる。

かやうに、個々の院がこの第二五條に基づいて、必要に應じて發布する院令の實施には、警察當局があたる（第二九條）

さらに、裁判所及び行政當局は個々の院に法律上及び行政上の援助を與へなければならぬ（第二九條後説）

各院の中央部の組織

個々の院には院長がある。

院長を任命するのはドイツ文化院總裁である（第一三條）。但し人選の範圍は院總裁の自由に委されてゐる。たゞ、事實問題として、例へば著作家集團の一員であるハンス・ヨーストが著述院の院長に任命されたやうに、その院によつて包括される職業に従事するものから任命される場合が多く、またその方が實際上の利便が大きいと云はれてゐる。

院長を輔佐する機關としては、院長顧問と行政顧問との二つがある。

院長顧問（第一三條）は「少くとも二名の院所屬員」を以て構成されることになつてゐるが、現在

では事實上、十人から十二人の所屬員を以て構成されてゐる。院長顧問を任命するのは院總裁であつて、個々の院の院長ではない。

行政顧問(第一四條)は、院の包括する個々の職業集團の代表者を以て構成されるもので、行政顧問を任命するのは個々の院の院長であつて、院總裁ではない。行政顧問は重要な問題が生じた場合に意見を求められるし、また積極的に院長に提案をすることも出来る。但し、この行政顧問制は第一施行令に規定されてゐるだけの話で、實際にはまだ、どの院にも設置されてゐない。

個々の院の院長は、代理及び事務執行者を一名または二名以上任命することになつてゐるが、その人選の範圍は制限されてゐる。即ち、ドイツ文化院總裁が前述の院長顧問に任命した者のなかから任命しなくてはならぬ(第一三條)。

次に、個々の院の院長はどんな権限を持つてゐるか。

(イ) まづ、個々の院の定款を定める。但し、この場合にはドイツ文化院總裁の同意が必要である(第一九條)。

(ロ) また、個々の院の豫算を定める。この場合にもドイツ文化院總裁の同意が必要である(第一三三條)。

(ハ) 第二五條に基く各種の措置をなす権限を有する。

(ニ) 院加入の申出があつた場合、その個人または専門團體を院に加入させるか否かを裁決する(第一六條)。

(ホ) 第四條によつて院に加入すべき者に對しては、加入の申出がなくても、院所屬の専門團體または専門分科會に加入することを要求することが出来る(第一五條)。

(ヘ) 院の所屬員でなくて、院の包括する仕事の一つを行つたり、所屬員または専門團體の代表者で院の命令に違反する行動をしたり、或ひは院に對して虚偽の報告をした者に對して、秩序違反の罰則を規定することが出来る(第二八條)。

(ト) さらに、専門團體またはその地方團體の指導者及び事務執行者の任免を求めることが出来る(第二〇條)。

(チ) 會費を徴收する。但し會費徴收規定には啓發宣傳大臣の檢閲を要する、啓發宣傳大臣は財政大臣と協議して裁決する(第七條、第二四條)。

院所屬の専門團體または専門分科會

個々の院は、その包括する活動部門に屬する専門團體または専門分科會に分れる（第一五條）。

専門團體は民法上の社團で、公法上の團體ではない。

専門分科會の方は、民法上の社團でもなければ、公法上の團體でもない。これはむしろ個々の院の純粹な一部で、何ら獨立の法的性質を有しない行政部分である。

個々の院の任務を達成するためには、かうした専門分科會の方が適當である。従つて、最初、専門團體として院に包括されたものも、その後徐々に専門分科會に改造されて來てゐる。

尤も、専門團體も、獨立の社團とはいふものの、その定款の作成には個々の院の院長の同意が必要であるし、何よりもまづ、その定款をドイツ文化院法、同法施行令及びドイツ文化院並に個々の院の定款に一致させる義務を負はされてゐる（第二〇條）。

院 加 入 の 條 件

文化財の創作、再現、精神的または技術的加工、頒布、維持、販賣または販賣の仲介に協力する者は、その活動領域を管轄する個々の院の會員にならなければ、適法に仕事を行うことが出来ない（第四條）。

若し個々の院の會員にならずに、その院の管轄領域に屬する仕事をする者があれば、院はこれに對して秩序罰を課することが出来る（第二八條）。

但し、右の第四條に規定された活動を行ふものであつても、その者の活動の程度が僅少であるか、または臨時に行ふものである場合には、個々の院の院長は、その者に對して院の會員たる必要がない旨を規定することが出来る（第九條）。

（イ） こゝで文化財といふのは、すべての藝術創作または業績にして公衆に傳達されるもの、及びその他すべての精神的創造または業績にして、印刷・映畫・またはラジオによつて公衆に傳達されるものである（第五條）。

（ロ） また頒布といふのは技術的頒布手段の制作及び販賣をも含むのである（第四條）。

（ハ） 協力するといふのは、その活動が一、營利的または公益的に、二、個人により、または私法上の社團、協會、施設により、若くは公法上の社團または機關によつて、三、内國人または外國

により、四、企業者または雇傭者によつて行はれる場合に限るのであつて、純然たる商業上、事業上、技術上または機械的活動に關する場合は協力と云ばない（第六條）。

第四條列擧の活動範圍は、一九三四年五月一五日附のドイツ文化院法補充法によつて、さらに擴大された。これは演劇法第六條の第一節第三項と第二節の規定を音樂及び造型美術にも適用したものであつて、その結果、ドイツ國內で維持される演劇、音樂または造形美術の施設、またはこれらの藝術の一つを教授する施設がそれぞれ個々の院に加入しなければならぬことになつた。

この第四條及びドイツの文化院法補充法の規定による要件を具備する者が加入を申出た場合には個々の院長が院加入を許可する。

但し、その者が院の活動を遂行する上に必要な確實性もなく、また資格もないことを明示するやうな事實が存在するときには、個々の院への加入を拒絶することが出来るし、また一旦會員となつたものでも、右の事實が存在するに至れば、これを除外することが出来る（第一〇條）。

第四條列擧の活動をなす者でも、その活動の程度が僅少な場合、または臨時にこれを行ふに過ぎない場合には、個々の院の院長はその者に對して院の會員たることを免除する旨を規定することが出来る（第九條）。

第十四條列挙の活動をする者で、特に第九條の免除規定に該當しない者 については、その者の院加入の申出を待たずに、個々の院の院長がその者に對して院加入を要求する。

専門團體から個々の院に對して加入の申出があつた場合には個々の院の院長が裁決する。

院長は、(イ) その専門團體の所屬員が第四條によつて個々の院に所屬すべき義務を負はされてゐる場合、(ロ) その専門團體の定款が第二十條の規定によつて既にドイツ文化院法、同法施行令及び院定款に一致して作成してある場合、(ハ) その専門團體が委託された任務を遂行し得ると認められた場合には、加入を許可しなくてはならぬ(第一六條)。

若しも加入を拒否された場合には、その専門團體はドイツ文化院總裁の裁決を求めることが出来る。

所 屬 關 係

専門團體が院に加入した場合、その専門團體の所屬員は、第一次的には加入専門團體の直接會員であつて、個々の院に對して、従つてドイツ文化院に對しては、間接會員となるのである。

また、院加入の義務を有する者が院加入を申出た場合、個々の院の院長はその者を院加入の適當な専門團體に加入させる。この場合にも、勿論、加入者は第一次的にはその専門團體の直接會員であつて、個々の院に、従つてまたドイツ文化院に對する所屬關係は間接的である。

但し、個々の院に加入すべき適當な専門團體のない場合には、個々の院の適當な専門分科會に加入することによつて、個々の院の直接の會員となる。而して、個々の院の直接の會員となるのは、この場合に限られてゐる。

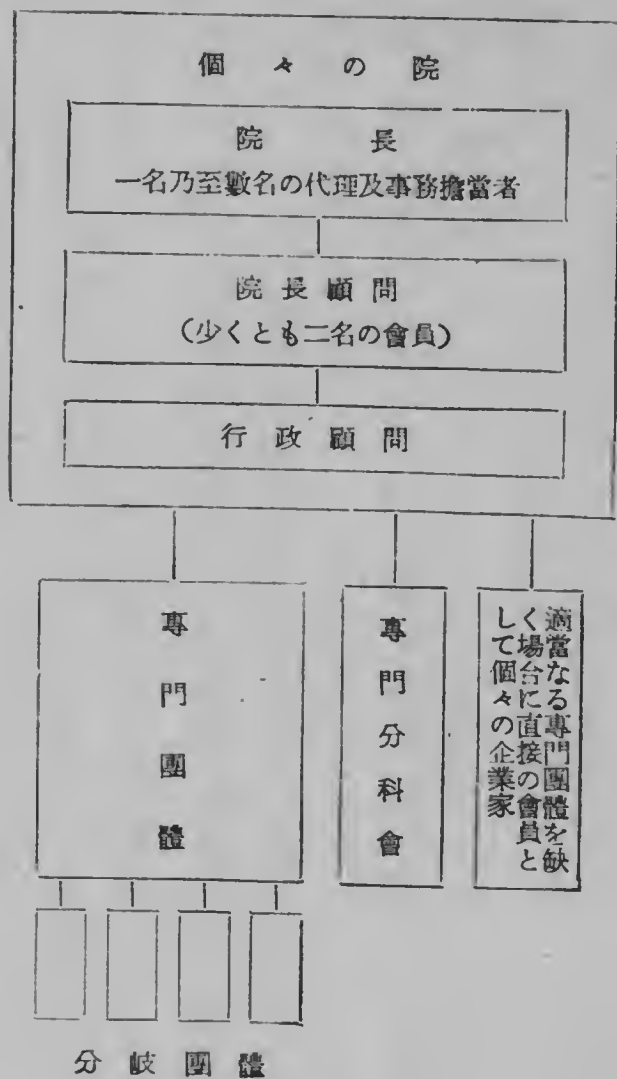
かやうに、加入者は院所屬の専門團體の直接會員であるか、適當な所屬専門團體のない場合には個々の院の直接會員となるかの何れかであつて、専門團體にしても、その所屬員にしても、個々の院の直接會員にしても、ドイツ文化院そのものの直接會員となることは許されない。

院 加 入 の 効 力

個々の院の直接會員及び間接會員は會費を納入しなくてはならぬ。二つ以上の院に加入する者は、これらの院の一つに支拂ふべき最高會費以上の會費を支拂ふ必要がない。つまり何れか高願の方の

會費を支拂へばよいのである(第二四條)。

個々の院の構成



文化院の地方支部

文化院の各院及び専門團體は、地域的には、宣傳省の地方局に對應して三十一の管區に地方支部を設け、これらの地方支部は各院の院長及び専門團體の指揮者の指揮命令に従つて活動してゐるが、さらに一九三四年一月一二日の「ドイツ國內に於ける文化院の活動に對する宣傳省地方局指揮者の監視に關する總裁命令」によつて、宣傳省地方局指揮者が地方文化監理官の職を兼務して文化院地方支部を監督することになった。

地方文化監督官の職を宣傳省地方局指揮者に兼攝させる理由について、ゲッペルスはこの總裁命令の前文に於て、かう説明してゐる、「黨及び國家の歸一の原則に従ひ、一般に黨に於ける任務と國家に於ける任務とが同一な場合には同一人によつて處理されるやうにしくはならぬ。従つて黨の大管區宣傳指揮者はまた宣傳省地方局の指揮者である。この建前に従ひ、文化院もまた黨及び國家の統一に従はなくてはならぬ。従つて、余は、宣傳省地方局指揮者及び大管區宣傳指揮者が爾今地方文化監理者として各自の管區内に於ける文化院の活動に對して監視を行ふことを命ずる」と。

文化院の個々の院及びその地方團體は、國內に於ける地域構成及び組織を宣傳省地方局及び大管區宣傳部のそれと一致させるやうに命じられた。

文化院の個々の院の構成上、地方文化管理官の占める位置、役割については、同じく一九三四年一日一二日の總裁命令に詳細に規定されてゐる。

これによれば、地方文化管理官は文化院總裁にのみ從屬するのであつて、これに指揮命令を與へる權限を有するのは文化院總裁またはその代理に限られてゐる。

文化院の個々の院及び専門團體の地方支部は、従前通り個々の院の院長及び専門團體の指揮者に從屬し、且つこれらの地方支部の指揮命令の權限にも何らの變化がない。たゞ、個々の院の院長はその命令のうち重要なものは地方文化管理官に報告しなければならない。

また、個々の院の院長は地方文化管理官に個々の指命を與へる權利はないが、しかし地方文化管理官の管轄區域内に於て個々の院の院長によつて發せられた規則、就中文化院法第一施行令の二十五條に基いて發せられる院長命令は、地方文化管理官をも拘束するのである。即ち、この點に於ては地方文化管理官は、これらの命令の施行に關し一切の官廳及び黨機關を援助する任務を有してゐるのである。

文化院の個々の院及び専門團體の地方支部は、前述のやうに、個々の院の院長及び専門團體の指揮者の指揮命令に服する以外に、さらに地方文化管理官の監督に服する。かやうに、地方文化管理官の監督に服させる目的は、人的及び物的事情並に地方の特殊事情に精通したこれらの管理官を加させることによつて中央の政策を徹底させることにある。文化管理官の任務は、何よりも先づ、個々の管區内の文化活動の統一と一貫した民族社會主義的文化政策の實現を、宣傳省の指揮のもとに確保することである。

勤勞戰線と文化院

全國指導者ドクトル・ローベルト・ライは一九三三年五月勞資協調の精神を具現すべく『獨逸勤勞戰線』を結成した。一九三四年十月二十四日の『ドイツ勤勞戰線の本質及び目的に關する法律』によれば、この獨逸勤勞戰線は精神的並に團體的勤勞に従事するドイツ人の結合であつて、特に舊勞働組合、舊被傭者組合及び舊企業家組合の所屬員がこれに所屬し（第一條）、所屬員各自をしてその精神力量に體力に應じ國民經濟生活に於て各にその所を得させ、最高の能力を發揮させ、且つ國民共

同體のため最大の利益を得させることを任務とする（第二條）ナチス黨の一機構である（第三條）。

この勤勞戰線は、精神的並に團體的勤勞に従事する一切のドイツ人の結合である所から、ドイツ文化院、その各院並にそれに聯繫ある組織及び専門團體に所屬する創作業務に従事する一切のドイツ人も勤勞戰線に加入すべきや否やが問題になつたが、この問題については一九三四年二月一三日國民啓發宣傳大臣ドクトル・ゲッベルスと勤勞戰線總指導者ドクトル・ライとの間に「獨逸文化院と勤勞戰線としての間に協定」が成立し、獨逸國文化院は獨逸勤勞戰線の團體的一員であるから、文化院及び所屬團體に所屬する文化勤勞者は改めて勤勞戰線の所屬團體の會員になる必要がないものと決定した。

歡 喜 力 行 團

所で、前の三四年一〇月二四日の法律第八條には、獨逸勤勞戰線は國民社會主義協同體たる「歡喜力行團」<sup>！
デーニフ</sup>（クラフト・ドゥルヒ・フロイデ）を支持すと明示されてゐるが、この歡喜力行團は勤勞戰線内の一部分であつて、その任務とするところはこの名稱からも判るやうに、生産的業務に従

事する者に對して「歡びを通して活力を」を與へるにある、換言すれば、生活の歡びを以て創造の歡びを高め、人間の殊に團體労働者の人格を向上させ、無産者が有産者の下敷きにされるといふ感じを去除き、國民全體をして等しく精神的愉悅を享樂させ、且つ文化的施設の恩恵に浴させ、そして國民全體が目的を一つにして協同勞作してゐるといふことを體得させることにある。三五年七月の「歡喜力行團」全國大會に於けるドクトル・ライの説明によれば、「ナチス協同體『歡喜力行團』は恐らく最も端的に且つ直截な形式において國民社會主義の意慾を表現するものであらう。……それは國民社會主義が獨逸に全世界に與へる具象的な世界觀であり、過去一世紀に亘つて世界と我が民族とを支配してきた人生否定にかはつて今こそ我々の五體に脈々と波打つ人生肯定を表現する」ものである。

この歡喜力行團は、組織部、會計部、宣傳部、旅行・徒步・休養部、スポーツ部、勞働美化及び工場班部、教育及び成人教養部の五部であるが、その事業のうちで特に文化と關聯あるものを擧げると、この團體の會員には劇場、映畫館、展覽會等の入場について種々の特典が與へられ、精々税金程度の低額で一般勤勞者が從來は鑑覽出來なかつた本格的な歌劇や演劇や音樂などを享受することが出来るやうになつたし、また講義や講習會なども催されるし幾臺かの劇團列車やトーカー自動

車も持つてゐて遠隔の地に行つて目的を達しやうとしてゐる。また労働者に造型美術に馴れさせる目的で工場美術展覧會も催されてゐる。

こんなことをして勤勞者を美へ導いて行く間に彼らを甘やかしてはしないか。「否—」とドクトル・ライは云ふ、「私は勤勞者がこの事のためにもとのやうにちやんとした氣持にならなかつたといふことを嘗つて耳にしたことがない。寧ろ、自分達も今や凡ゆることに參加することが出來たのだと感謝する述べる數千の手紙を私は貰つてゐる」といふ。しかし、一體勤勞者には文化がわかるのか。これに對しても役はかう答へる、「金持は大抵文化を理解しない、彼らにとつて文化は流行である。これに反して、國民の廣い範圍は文化に關心を持ち、藝術家が與へるものの總てに對して感謝することを知つてゐる」と。

一九三七年このナチス歡喜力行團と前記ナチス文化團とは統一された。

ヒットラー・ユーゲントと文化政策

ナチス獨逸が若い世代に對し異常な關心を示し、ヒットラー・ユーゲントを組織し、全獨逸青少年に對し、全國青少年指導本部が中心となつて、ナチス的世界觀による廣義政治教育を施し、肉體的、精神的强健を目標に、將來の獨逸を擔ふべき資格の培養に努力し、驚歎すべき成果を收めつゝあることは周知の通りである。バルドゥール・フォン・シーラッハは一九三一年ヒットラー總統の命を受けてヒットラー・ユーゲントの結成に着手、遂ひに三三年全獨逸青少年指導者に任ぜられたが、その後全國青少年指導本部の機構を愈々整備し、團員一千萬を數えるに至り、後事を實行家肌のアルツール・アックスマンに託し、今夏、ウィーン縣のナチス黨支部長兼オーストリア都督に榮轉した。我々が今ヒットラー・ユーゲント指導の實績として知るのは殆どシーラッハの業績である。

一九三五年シーラッハは全國青少年指導本部に『文化局』を新設し、これによつて青少年が獨逸の文化を生活に對しても全面的に参加することを確保した。ナチス文化を通して眞に國民社會主義的世界觀に徹した未來の獨逸國民を——そしてまた心底から國民社會主義的世界觀に徹した青少年

によつて眞にナチス的な文化を——といふのが文化局設立の主旨である。文化局は勤勞協同體「若き創造」を守り立てゝゐるが、これは藝術的乃至學問的に活動する若い世代のなかで、ヒットラー青少年團の體驗、ひいては國民社會主義運動の體驗を藝術なり學問なりの形に形成しやうとする意慾と適性とを備へたすべての者を協同者としてゐる。文化局はこの目的達成のために音樂課、造形美術課、文學課、祝典、團樂課、演劇・舞臺藝術課の五課を設け、一九三九年三月のラジオ局廢止に伴ひ、さらにラジオ課を新設して、現在は六課になつてゐる。

音樂課はヒットラー青少年團の音樂上の仕事を掌り、歌謡運動として公開の唱歌會を行ひ、新しい歌曲の形式や内容の創造に努力すると共に、管絃樂團や演奏隊や音樂班の形で器樂の仕事もあり、毎年開かれるヒットラー青少年團の音樂祭には、若い世代の作品中最も優れたものが巨匠の作品に伍して演奏されてゐる。造形美術家はヒットラー・ユーゲントの一般藝術教育と共に、特に講習會等の形式で若い建築家、畫家、彫刻家、製圖師の教育を行つてゐる。文學課の第一の仕事は新しい青少年文學に關する配慮で、一九三八年初頭には青少年讀書會を設け、出来るだけ總ての青少年に廉價で良書を手に入れる機會を與へやうとしてゐる。若い素質のある著作家は相當の援助を受ける。祝典・團樂課は年中行事生活行事の實施に際して支援を與へることを任務としてゐる。ヒッ

トラージ青少年が人形芝居を邊鄙な土地にもつて行くことは前にも述べたが、この仕事もこの課が擔當してゐる。演劇・舞臺藝術課は要するに劇の問題を取扱つてゐるわけであるが、ヒットラー青少年全國演劇大會、ヒットラー青少年團青年戲曲家週間などがあつて、活發に活動してゐる。それからラヂオ課であるが、この課の前身ラヂオ局はその成立から云へば文化局よりも古く、實は政權掌握後直ちにヒットラー青少年團はその部内から青少年放送指揮者を獨逸放送局に差し向けたのであつて、文化局のために實は色々な意味で準備工作をして來たのである。

所で、演劇・舞臺藝術課の仕事である全獨逸ヒットラー・ユーゲント演劇大會の第一回は一九三七年ポフム市に於て開催、第二回はハムブルグに於て開催され、第一回を凌駕する盛況であつたが、ポフム市の第一回大會ではゲッベルス、フォン・シーラッハその他の責任者達が若い人々の技能養成のために劇場を建て、劇團を作り、またワイマールに俳優學校を設置するなど種々の具體案を發表し、これを速かに實現する旨を聲明した。三八年のハムブルグ大會に於ては、フォン・シーラッハは青年に見はなされた演劇を痛撃し「その責任は、青年のなかに信徒を持つよりも、文學的耽美主義者の小さなサークルに於て認められることにより、多くの價值を置いてゐた演劇指導者達にある」と云ひ、未來の演劇については「我々自身が過去と現在との、我々に傳承された演劇を畏敬

を以て愛護し且つそれを保持する限りに於てのみ成立するであらう。何故なら、感謝を以て過去を把握する者にのみ未來はあるからだ」と云ひ、七つの上演目録の中、シラーの「群盜」グラッペの「ナポレオン」の二つの古典作品を選び、かういふものをお手本にして新しい作品を作らねばならぬと實地に示した。

所で、この文化局指導の下に『文化勤勞』^{クルツェアルバイト}といふ一つの組織がヒットラー・ユーゲントのなかに作られてをり、その主要な任務としては、何かの祝典日や、ヒットラー青少年が本來の仕事營んでゐる日々の休息時間や自由な時間を最も有効に利用することを考へ且つそれを實行することである。ちやうど勤勞戰線に於ける歡喜力行團の關係である。ヒットラー青少年の「文化勤勞」は大體二つの方面に分れてゐて、その一つは演劇とか映畫とか文學とか其他藝術文化の方面の知的訓練、即ち文化の正しい理解を訓練することであるが、併し單に理解や鑑賞の域に止らず、第二の方向としては、さらに積極的に、ヒットラー・ユーゲント自身が藝術を營む、自分達の手で作り出す、自分達の手で芝居を作る、或ひは小説を作る、歌詞を作る、作曲をし、演奏をやる、かういふ創造的な仕事をも志してゐる。特にこの方向に指導部は力癥を入れ、フォン・シーラッハはヒットラー・ユーゲントの文化指導を獨逸國演劇顧問であり國民啓發宣傳省の演劇部長たるドクトル・ラ

イナー・シュレッサーに依頼してゐるほどである。

この文化勤勞の實踐組織の一つとして『ヒットラー・ユーゲント催物聯盟』が作られてゐるが、これは演劇、音樂、文學、映畫、講演、舞踊等の開催の實踐を任務とする。この催物聯盟のなかに有力な部門として『觀客聯盟』なるものがある。これは滿二十一歳までの獨逸青少年の觀劇聯盟であつて、一九三八年九月の本部指令によれば、五千人の人口を有する所で必要な條件が備はつてゐれば、どこでもこの『觀客聯盟』を作つてもよいといふことになつてゐる。意圖するところは、出來るだけ安く出來るだけ屢々演劇に親しませ、青少年を藝術的體驗によつて國民文化の理解と、更に新しい建設へ誘導することである。

ところで、もう一つ、——ヒットラー青少年指導本部の文化的方面の活動として見のがせないものに、文化局の仕事と並んで、出版・宣傳局の仕事がある。出版・宣傳局の仕事は、ヒットラー青少年團の任務と目的に對して獨逸民衆を啓發し、あらゆる部門に亘つてヒットラー青少年團のために勸説を行ふことで、この啓發並びに勸説の重要な手段として民族社會主義的青少年出版物を守り立てゝ行く任務がある。九つの課があるが、そのうち組織・新聞教育課、映畫課、圖書・出版事業課の三つについて簡単に紹介しやう。組織・新聞教育課はヒットラー青少年團の新聞事業に従事す

る青少年の創造力を總て、この新聞部門に集めて、これに統一的方向を與へることを任務としてゐる。圖書・出版事業課はヒットラー青少年團の出版事業一切を監督し、ヒットラー青少年團の各雜誌、新聞の擁護に當つてゐる。

最後に、映畫課の任務は『獨逸青少年映畫の時間』の組織であつて、この時間には最も優秀な創作映畫が特別の團樂時間内に上映される。もう一つの任務は、ヒットラー青少年團の仕事と任務とを表明したヒットラー青少年團自身の映畫を製作することである。ところで、一九四〇——四一年度の『青少年映畫の時間』は、この九月二十九日午前、國民啓發宣傳大臣ドクトル・ゲッペルスがウィファ・バラスト・アム・ゾオの會場に臨み、「戰時に於け青少年の義務」といふ一場の演説を行つて開會した。演説に次いで獨機ロンドン爆撃のニュースがあり、トービス映畫「ハンガリー歩兵レンク」が上映され、大喝采を博した。

新聞政策

ユダヤ人と新聞

ワイマール体制のドイツでは、一流新聞の大半がユダヤ系の諸政黨と公然または隠然たる内部關係を持つてゐた。反ユダヤ運動の創始者とも云ふべきテオドル・フリッチュは、「ユダヤ人問題要覽」のなかで、ユダヤ系の新聞はユダヤ人の利益のためにドイツを喰ひ物にしてゐたと極言した。

一九二三年三月、スイスの或る新聞は「ドイツは聲帯の破れた國民だ」と云つた。ドイツは眞にドイツ及びドイツ民族の利益を代表すべき大新聞を持たなかつた。

一九二六年、ユダヤ人新聞『ライブチヒ・イスラエル家族新聞』でラッピナーフィシュルといふユダヤ人が「新聞は崇高なユダヤ思想及び我々ユダヤ民族に絶えず加へられる不正とを世界に告げる唯一の手段だ」と豪語した。「我々の闘争の目標は、我々個人の生存だけではなく、我々全ユダヤ民

族の生存であり、二千年前我々から奪ひ去られた権力の回復である。我々の肉體にユダヤの魂と血が流れる限り、我々は自らを否定することを欲しない。我々は全世界に於いてユダヤ的に思索し、またユダヤ的思想を傳播することを欲する」と。

世界支配を目指すユダヤ人が、經濟支配に邁進する一方、思想支配に全力を傾注、新聞によつて、ドイツの國民思想を毒し、國民的良心を麻痺させ、反國民的平和主義精神の鼓吹に努めて來た。

しかも、その方法は巧妙を極めた。ヒットラーは云ふ「ユダヤ人はあまりにも賢明で、すべての新聞を擧げて、ドイツ國民文化を攻撃するやうな愚は敢えてしなかつた。一方ではこれを攻撃し、一方ではこの攻撃に對して、これを掩護することを忘れなかつた」と。この言葉は、ユダヤ人の戰術の特徴を云ひ當てゝ餘りがある。

「分裂せしめよ、そして支配せよ！」これこそ、ユダヤ民族の世界支配のためのモットーなのだ。このモットーは、ビスマルク帝國の建設以來、出版に於ける自由主義の名のもとに、流行的となり戦後ドイツを思想的に混亂に陥れた。では、どんな新聞がユダヤ勢力の支配下にあつたか。

まづ、『フランクフルター・ツァイツング』がさうだ。この新聞は有名なベルリン暴動のあつた一八四九年、純然たる經濟・取引所新聞といふことを表看板にして、ユダヤ商人の牙城と云はれた

フランクフルト・アム・マインから發行された。一八五六年、ユダヤ人銀行家レーブ・ゾンネマンが「物質的進歩によつて精神的進歩へ貢獻する」と稱して、その經營を引受けた。ゾンネマンは一時プロイセンを避けて、民主的なシュトゥットガルトへ移つたが、ビスマルクの斡旋で再びフランクフルトへ舞戻るや、こんどはビスマルクのドイツ建國の偉業に旺んに水を入れ、憶面もなく敵國の利益を代表するやうな非ドイツ的な行動を敢へてした。これには流石のビスマルクも腹を立て、この新聞の發行人は有給のフランス特派員だと云つたといふことが、ブロックハウスの「ビスマルク對談一八七一——八年」(一九二九年刊)に書いてある。發行部數約七萬餘。舊民主黨系。

『フランクフルター・ツァイツング』と竝んで、ユダヤ系新聞の双璧と云はれたのは『ベルリーナー・ターゲブラット』だ。これは一八七一年、ユダヤ人ルードルフ・モッセによつて創刊された。モッセといふのは、ルーベン・モーゼスといふのが本名で、プロイセンに移住してから、ドイツ流に改名したのださうだ。一八六七年ベルリンに廣告取扱所を開業し、ついで内外のあらゆる交通の中心地に支店を設け、遂にその數が二百五十以上に及んだが、前記『ベルリーナー・ターゲブラット』の創刊後、一八八九年から『ベルリーナー・モルゲンツァイツング』『ベルリーナー・フォルクスツァイツング』『アハト・ウーア・アーベントブラット』などの有力新聞のほか、數種の大雜

誌を發行し、傍ら通俗科學書等の出版に從來し、モッセ出版コンツェルンを作り上げた。

『ベルリーナー・ターゲブラット』の創刊趣意書やユダヤ人宛の勸誘狀には「ユダヤ民族の利益促進のために創刊する」旨がはつきり書いてあつたと、フリッチュは云つてゐる。民主黨系の新聞で、最盛時の發行部數は三十一萬を遙かに突破したと云はれてゐる。『ベルリーナー・モルゲンツァイツング』は、一般讀者を狙つた新聞だが、發行部數は七萬八千。

『ベルリーナー・フォルクスツァイツング』はマルクス主義勞働者を狙ひ、四十二萬部にのぼつた。

『アハト・ウーア・アーベント』は十七萬臺であつた。

このモッセ出版コンツェルンの双璧をなすものは、ユダヤ人紙商レオボルド・ウルシュタインの所謂ウルシュタイン出版財閥だ。

ウルシュタインは一八七七年ウルシュタイン出版所を設立し、同時に『ベルリーナー・ツァイツング』を創刊して 旺んにビスマルクを攻撃すると共に、マルクス及びラサールの社會民主黨を聲援した。

一八八七年には『フォッシェ・ツァイツング』を買収。一七〇四年以來プロシア國家の機關紙

であつた同紙を瞬く間に極端な反獨親佛政策の宣傳機關に塗りかへた。三二年頃は平日七萬三千九百、日曜八萬七千餘。この新聞は一九三四年まで存続した。

同じくウルシュタイン系の新聞としては、『ベルリーナー・アルゲマイネ・ツァイツング』（五萬部餘）、『正午版』（十六萬部餘）、『テムボ』（十二萬部餘）、『グリュエ・ポスト』などがあるが、最も發行部數の多かつたのは一八九八年に創刊された『ベルリーナー・モルゲンポスト』だ。

『ベルリーナー・モルゲンポスト』は中産以下の家庭を狙つた民主系の新聞で、平日は五十七萬二千餘、日曜版は六十五萬八千餘に及び、ワイマール中間國家の新聞發行部數の最高を示した。

この外『ベルリーナー・イルストリールチ・ツァイツング』（月刊百七十五萬部）、『ディ・デーメ』（四萬八千部）、『ウフ』（一四萬五千）等の通俗雑誌、單行出版物等が發行されてゐた。

『ローテ・ファーン』や『フォーアヴェルツ』を筆頭に、共產黨、社會民主黨、民主黨の機關紙は悉くユダヤ人が經營し、ユダヤ人の編輯局員が牛耳をとつて、ナチス運動に徹底的に抗争した。そのほか、多數のカトリック新聞がナチス運動に反對し、特にその人種政策を攻撃した。

尙、一九二八年の『シェーネレン・ツークンフト』紙所載のヴィルヘルム・ゼンといふカトリック牧師の言葉によれば「ユダヤ人の支配下にあつた大部分のドイツ新聞にはユダヤ人問題について

は沈黙を守るといふ默契があつたさうだ。」

ユダヤ勢力の排除

壓倒的なユダヤ勢力の眞只中にあつて、自由と財産を擲つて、敢然これに抗したのは、テオドル・フリッチュとユーリウス・シュトライヘアだ。

テオドル・フリッチュは、百姓の子供で水車小屋の建築技師であつたが、ラガルデ、デュリング、リーベルマン・フォン・ゾンネンベルク、ベッケル、シュテッカーといった有名な反ユダヤ主義者と、一八八〇年以來相交はり、一九〇二年には「ハムマー」紙を創刊し、ラナウナ、バリン、ワールブルグ等ユダヤ資本家の幅を利かしてゐた當時、經濟、政治、文化、宗教の分野に亘つてユダヤ人の行狀を暴露しつゞけ、體刑や罰金刑を繰返し、ユダヤ新聞からは旺んに誹謗された。

またユーリウス・シュトライヘルは、一九一九年以來、反ユダヤ新聞を刊行、これが一九二三年以後は、『^{シュツルマー}突撃者』と改題されて發行された。ユダヤ共和制のなかにあつて幾度かの投獄を繰返へし

つゝ、ユダヤ人の社會惡を曝露、これによつてユダヤ人間題に對する國民啓發の進展に寄與するところ甚大であつた。『突撃者』の發行部數は四十五萬を遙かに越えて、全世界に行き亘つてゐた。

一九一九年から一九三三年まで、一聯の新聞が人種鬭争を支持してユダヤ勢力竝にユダヤ人排斥のために闘つた。ミュンヘンの『フェルキッシュエ、ベオバハター』、ベルリンの『ドイッチェ・ツァイツング』が筆頭であるが、一九二三年から二四年にかけての謂ゆる第一回の民族的高揚の時代には、ベルリンに『ドイッチエス・ターゲブラット』、ミュンヘンに『グロースドイッチエ・ツァイツング』、マグデブルグに『エルブヴァハト』、ベルンブルグに『フライハイツカムプフ』、エアランゲンに『フレンキッシェア・ビオバハター』等の日刊新聞のほか、ベルリンに『フリデリクス』、『デア・ヴェルトカムプフ』、『ドイッチュランツ・エアノイエリング』、『ハイムダル』、『ディ・ゾンネ』、『エヌ・エス・日刊』等の週刊・月刊雑誌が簇出して反ユダヤ戰に氣勢を擧げたが、その大半は經營難のために間もなく廢刊になつた。

黨 機 關 紙

『フエルキッシェ・ベオバハター』

國民社會主義ドイツ労働黨の前身ドイツ労働黨が一九一九年一月五日に設立され、ヒットラーが七番目の黨員として入黨したが、入黨するや、ヒットラーは先づ力強い目的設定と宣傳に全力を傾注、フューダー及びトレクスレルの支持の下に先づ黨綱領二十五ヶ條を起草し、一九二〇年二月二十四日ミュンヘンのホーフブロイハウスの宴會ホールで開催された大衆集會で發表し、大衆の絶大な支持によつて、運動の基礎を確立する一方、一九二〇年十二月十七日には、友人であり黨員である國民詩人ディートリヒ・エッカルトの援助の下に『フエルキッシェ・ベオバハター』を黨の味方に引入れた。

初代の編輯長はヘルマン・エッサーで（彼は一九三三年四月一二日バイエルン政府の經濟相に任命された）、一九二二年八月一日から、ディートリヒ・エッカルトがエッサーに代つた。

エッカルトは「ドイツよ、目覺めよ」等のナチス黨爭歌の作者としても有名だが、かれがドイツ

労働黨に加入したのが一九一九年の夏で、既に五十一歳に達してゐた。彼はローゼンベルグが編輯長になつてからも、ずつと『フェルキッシュ・ベオバハター』の仕事をしてゐて、十一月八日のオデオン廣場の恐怖もローゼンベルクと共に體驗したが、一三年十二月二十六日ベルヒテスガーデンに没した。エッカルトの死を惜んで、ローゼンベルクは『ディートリヒ・エッカルト』遺言狀（NSDAP 中央出版部）を書いてゐる。

『フェルキッシュ・ベオバハター』は當初週二回發行であつたのが、一三年二月八日から日刊になり、ずつと飛んで三八年三月十六日からはウィーン版を發行してゐる。

アルフレッド・ローゼンベルクが編輯長になつたのは、一三年三月十日だ。しかし、彼は既に一二年二月以後同紙に執筆してゐたことは、彼の論文集（主としてフェルキッシュ・ベオバハターに掲載されたもの）『政權獲得黨爭』カムフラウム・ディ・マハト（NSDAP 中央出版部）によつて明かだ。

ローゼンベルグは一八九三年一月の生れ、高等實科學校を経て、一九一〇年からモスコウ工科大學で建築學を學び、一九一八年に既にユダヤ人闘争を開始、二四年の黨解散當時は『ヴェルトカム・ブフ』に據つて、闘争をつゞけた。ローゼンベルグの思想的業績については、既に述べたので、こゝではヒットラーが二ケ年間の演説禁止に會つてゐたとき、ナチスの思想を大衆に正しく傳へてゐ

たのがローゼンベルグの論説であつたことを附記するに止めやう。

『フェルキッシェ・ベオバハター』は朝刊だけ。發行部數は北ドイツ版二十七萬餘、南ドイツ版十萬八千、これにウイン版が出來たから、約五十萬に達するものと見られる。

「デア・アングリッフ」

フェルキッシェ・ベオバハターがミュンヘンを中心とするナチス黨機關紙たるに對し、これはベルリンを中心とするナチス黨機關紙として活動したが、現在ではその特色を失つてゐる。ゲッベルスの創刊。

ヨーゼフ・ゲッベルスは一九二二年頃からナチスに近づいたが、ゲッベルスはエルベルフェルトにあつて、一九二四年『フェルキッシェ・フライハイト』紙の主筆となり、一九二五年には『ナショナルゾチアリスティッシェ・フリーフェ』誌の創刊者として登場した。一九二六年十一月一日に、ベルリン大管區指導者に就任するや、赤色ベルリンの獲得闘争を開始、二七年二月十一日のファルスゼーレでの會場闘争に於て共產黨のテロ行爲を粉碎したことは有名だが、その後二七年五月六日から二八年三月二十八日まで、ベルリンに於ける黨の運動は禁止された。この禁止期間内に、ゲッベ

ルスは『アングリッフ』紙を創刊した。これがベルリン獲得闘争において最尖鋭な武器の一つとなつた。

創刊號は一九二七年七月四日發行、月曜週新聞であつたが、三二年頃には日刊新聞になつた。突撃、また突撃、發行禁止に切齒扼腕する有様が「ホテル・カイザーホーフから首相官邸へ」の三年の日記に躍如としてゐる。

ナチスの三大機關紙としては、もう一つ一九三〇年に創刊された『エッセナー・ツァイツング』がある。エッセンを中心とする工業地帯に於けるナチス黨機關紙で、發行部數は約十四萬三千。

ところで、『デア・ツァイトシュピーゲル』誌十四號（一九三二年）の統計によると、一九三二年にはドイツに總計四六四七種の新聞があつた。内、政黨別にしてみると

ナチス黨系

一二一

ドイツ國民大眾黨系

八一

ドイツ社會民主黨系

一九七

中央黨及バイエルン大眾黨系

五九六

ドイツ大眾黨系

一四

ドイツ共產黨系

五〇

ドイツ民主黨系

八

經濟黨系

一一

さらに、これを傾向別にしてみると

國粹的なもの

五六二

ブルジョア的なもの

三六三

自由主義的なもの

六四

共和制的なもの

一九

民主主義的なもの

五八

社會主義的なもの

九

官廳的なもの

二二一

超黨派的なもの

一、八一四

その他のもの

三三七

となつてゐる。

ヒットラーの政權掌握直後、一月足らずのあひだは、まだ反ナチス派の新聞が尙ほ存続してゐたが、二月二十七日の議事堂放火事件を契機にして、ユダヤ新聞、即ち反ナチス系新聞の大清掃工作が一舉に行はれた。

即ち、ナチス政府は共産黨の新聞發行並びに選舉宣傳を四週間禁止した。また、社會民主黨系のものを二週間の發行禁止に處した。その後、これらの發行停止期間は延長に延長を重ね、つひにこれらの新聞は發行を斷念せねばならぬことになった。かうして、社會民主黨機關紙『フォアヴエルツ』、共産黨機關紙『ローテ・ファーン』は抹殺された。

また、新聞の所有、發行、編輯部門からもユダヤ人が追ひ出されることになり、ベルリン最古を誇つた『フォッシュ・ツァイツング』は一九三四年以後全然姿を消すに至り、また「ベルリーナー・クルゲブラット」もウルシュタイン出版社も、ユダヤ人所有者から合法的に取上げられて、ユダヤ人でない社員の共同經營監理に移され、『フランクフルター・ツァイツング』のごときもユダヤ人でない編輯者の指揮のもとに一大轉換を試みることになった。

三三年七月の新黨禁止法によつて、舊政黨が完全に清算され、これによつて舊政黨紙が全部姿を消すに至つた。かうして、一九三四年には、ドイツの新聞總數は三〇九七種に減じた。

ナチスは、この生き残つた部分のドイツ新聞を指導して、國家指導の有用な手段に作りかへることに努力した。

純ドイツ新聞の創造

ナチス の 要求

ナチスは綱領第二十三條でドイツ新聞の創造を可能にする要件として、次の三つの事を要求した。

1、ドイツ語で出版される新聞の主筆及び編輯員はすべて國民同胞でなくてはならぬ。

2、非ドイツ新聞を發刊するには國家の認許が必要である。たとひ國家の認許があつた場合でも、非ドイツ新聞はドイツ語を以て印刷することは出来ない。

3、最後に、ドイツ人でなければ、ドイツ新聞の財政に關與することが出来ない。違反すれば、その新聞が閉鎖されるのは勿論關與した非ドイツ人は即時追放に處する。

併せて、公共に反する新聞を禁ずる旨を宣言してゐる。これらの要求は次の二種の立法によつて實現した。一つは、三三年十月四日の編輯人法及び同年十一月十九日の同法施行規則中の關係條項

で、これによつてドイツ新聞の編輯人はドイツの國籍を有すべきは勿論、血統及び配偶者がアリア系でなくてはならぬことが規定された。他は、三三年九月廿二日のドイツ文化院法中新聞院に關する規定及び同年十一月一日並に廿九日の施行規則で、ユダヤ人は新聞院から除外されるに至つた。

出版の自由の謬見打破

然し、ユダヤ人を一掃するだけでは、まだ純粹のドイツ的新聞は生れない。それには、國民にとつて有害で、意味をなさない新聞の自由といふ謬見を打破する必要がある。

フランス革命が出版の自由を人權の一つに加へたことは云ふまでもないが、プロシア王フリードリッヒ・ヴィルヘルム四世治下の一八四八年のドイツ革命もまた出版の自由、特に新聞に對する檢閲の撤廢を要求した。一九二〇年のワイマール憲法もまた原則として言論の自由を認めてゐる。一八七四年の新聞紙法もまた自由主義的である。

編輯人法の法律理由書によれば、「自由主義は印刷による意見の發表を個人の精神活動の最も有意義且つ重要な手段の一つとして取扱ひ、この意見の發表の原則的自由を國家の權威に對する個人

の基本權利として要求するものであつて、精神的展開の擔ひ手としての個人と、秩序の監視者としての國家と、——國家に危害を及ぼす限界に至るまでは、絶対に個人の精神の自由を求めることと、——この自由の領域を出来るだけひろくし、精神の自由が國家に及ぼす危險の範圍を出来るだけ狭めやうとする努力と——、この自由主義的な國家觀及び文化觀の根本態度から生れたのが（一八七四年の）現行新聞紙法である。従つて、現行法の内容は、一部は印刷による精神活動に對する自由の保證と特別の特權であり、一部は印刷による意見の發表が特別に強烈な効果を及ぼすために蒙らねばならぬ保安警察並に刑法上の拘束である。」

編輯人法が内閣で決定された三三年十月四日の晩、宣傳大臣ゲッペルスは該法律と共に基礎的項目に對する説明を新聞に發表した（獨法令集一七七一三頁に收録）。そのなかで、ゲッペルスは云ふ、「新聞紙は絶対に自由であるといふ考へ方は、明かに自由主義的である。この考へ方は、全體としての國民を出發點としないで、個人を出發點としてゐる。この考へ方を押し進めて行くと、吾々は思想の自由といふものが國民にではなく個人に與へられたばかりに、國民全體の利益にとつてはむしろ有害になつたといふ事實を確認しなければならぬ。國家國民の利害から解放された思想の自由などが存在し得るなどといふ信念、この信念は全般的に後退させられた。精神の自由と思想

の自由とが國民及び國家の權利義務と衝突する限界に達せざるを得ないことは、ドイツのみでなく、世界到る所に於て見極められてゐる」と。

言論の自由主義の名のもとに、これまでの新聞は、無責任な執筆者やユダヤ人にスペースを割き、計畫的にドイツ精神を毒する權力を握らせた。ナチスは、このやうな誤つた自由概念の横行を終熄させやうとした。綱領第二十三條に「公共福祉に矛盾する新聞は禁止せらる」と明示されてゐる所以である。

新聞は政治的教育機關だ

ヒトラー總統は『我が黨争』のなかで、國民が拙惡な、無知な、惡意の教育者の手に陥ることを防止することこそ、第一の國家的國民的關心事であり、それ故國家には國民の教育を監督し凡ゆる不正を阻止すべき義務があると云つた。彼によれば、この問題については特に新聞に對する監視を嚴重にしなければならず、新聞の領域に於てこそ、國家は一切の手段を一つの目的に役立てねばならぬといふことを忘れてはならず、況して「新聞の自由」などといふ世迷言にまどはされて、國

家の義務を怠つてはならず、進んで國家は斷乎たる決意を以てこの國民教育手段を確保し、これを國家及び國民に奉任させなくてはならぬのである。

編輯人は何を爲すべきか

では、編輯人は積極的に何を爲すべきか。ゲベルスは編輯人法の公布された三三年一〇月四日ドイツ新聞團體を前に次のやうな演説を試みた。

「教育を監視し且つそれが全體の福祉、國家の利益は勿論現在の國民の一般的道德的見解にも適應する方面を辿つて行はれるやうに面倒を見ることが國家の最高の權利であることは、何びとも明白な且つ議論の餘地のないところである。この故に國家は子供を精神的に後見するのであるが、しかし子供が極めて感受性が豊富になれば、國家はその後見を解いてやる。ナチス黨員はこの點に於ても全體的觀點に立つもので、自分に云はせれば、子供が大人になつたからと云つてその瞬間に急に若い人間を國家の後見から解放して、物を書く人間の個々の實驗に委ねることはしない。

それはさうと、或る編輯人が今日私に向つて、ナチス政府は我々から意見の自由を奪ひ取つたのではないかと抗議を申込まれたが、我々は何にも新聞の専門家面をして自分で何かやつて見せやうなどといふ考へは毛頭もつてゐない。たゞ、私は何處の編輯人でもよい、雇主の意見に反して敢えて自由な意見を主張し、しかもその場合やはり獨逸には精神の自由が支配してゐると主張できる人間に、一度でいゝからお目にかゝりたいと思ふ。ところで、國家が發行者にかはれば、何か編輯人の體面にかゝはることもあるのだらうか。

公衆の意見を支配するとまで云はないにしても、少くとも公衆の意見の形成されるに當つて或る程度これを監視し、そして公衆の意見が國家國民は勿論一般人にとつても有害なものにならないやうに面倒を見ることは、國家の至上權である。今日、ジャーナリスト仲間のあひだには、獨逸の新聞が一色になつてしまつたといふ不平が持上つてゐるやうだが、かやうな不平に對して私は寧ろ、これは政府の意圖した所でなかつたと抗議せずにはゐられない。以前ナチス運動に突撃した新聞が今日になつてパプストよりもパプスト的であらうとしても、私はそれに對して何事もしてやれない。我々は然しそれらの新聞を強制して特色を失はせるやうなことはしないし、また彼等が心から萬歳を叫びたくならない限り、無理に萬歳を叫んで貰ひたいとも考へない。我々の望むところは、

たゞ、彼等が國家の利益に反するやうなことをして貰ひたくない。

輿論形成の多種多様さは一向差支えない。この權利を行使するのは個々の編輯者の想像と天分にかゝつてゐる。

このやうに輿論形成は多彩であつて差支えないが、勿論、これは今日我々が獨逸國民と共に觀念のなかで展開して行かなくてはならぬ偉大な仕事と衝突することは許されない。幾百萬人が信頼して諸君を見、そして諸君の新聞のなかで日日の精神的興奮を見出すのであるから、諸君が編輯人の仕事と結びついてゐる大きな責任をつねに意識してゐなくてはならぬことは判り切つたことだ。權威のある國家に生きてゐる限り、苟もその權威に參與するものが、その權威に對してそれ相當の責任を負はなくてはならぬからだ。

新しく出來た編輯人法は、諸君を責任負擔から解放せんとするものではない。反對に、この法律は諸君に責任を負はせやうとするものである。我々が欲するのは區々たる意見ではなく、公の誠實な言葉である。新聞もまた自らさういふ行動をとらねばならぬといふことを理解して貰ひたい。我々は最も完全な魂と完全な責任とを以てこの國家に奉仕する正しい人間が欲しい。何故なら、このやうな人々は特定の狀況から見て可能であると見える最上のものに對してこの國家を保持するから

である。獨逸の新聞の色彩がどんなに多彩であらうと、その纏つた國民の意思は統一したものでなければならぬ、と。

三三年一二月一三日、新聞院總裁マックス・アマンはベルリンの新聞團體を前に恁ふ云つた――。

「獨逸新聞の大部分即ち新聞で仕事をしてゐる大部分のものが、未だに新しい任務を少しも明瞭に理解してゐないのは勿論、況んや實行されてもゐないが、この新しい任務は既に國民社會主義革命から新聞及び新聞に働くものに課せられてゐるのである。しかし、この新しい任務は、獨逸新聞の大多數がその内容を多かれ少かれ一つの意圖に従つて同一の調子に合はせ、かくして同じ形になることで達成されはしない。現在全般を支配してゐる單調性、特に獨逸の日刊新聞のそれは、政府の處置の結果ではなく、また國民指導の意思に適應するものでもない。この單調さの原因はむしろ今日新聞で精神的な仕事をしてゐる人間が國民社會主義的思想財に對して内的な親しみを持つてゐないことである。總統が云はれたやうに、新聞は國民社會主義國家にあつては國民の自己教育の機關であるから、何よりも先づ、新聞で仕事をしてゐる人間はこの教育機關に對する前提を精神的に

且つ性格的に取得すべきである。専門雑誌の領域でも形成の多様性は當然保存さるべきである。全獨逸國民を國民社會主義へ教育することが獨逸新聞に與へられた一つの大きな任務であり、個々の任務がそのなかに包含されるものとすれば、一つの黨爭目標が問題になつてゐることが同時に明かになり、そして同時にまた究極の勝利は全ての黨爭者が同じ大道を進んで目標に迫るときよりも、一つ目標に向つて凡ゆる道を辿る場合にのみ得られることが指示されてゐるわけだ。」

一九三五年の黨大會で新聞院總裁マックス・アマンは恁ふ語つた。「西歐流の民主主義の意味での「新聞自由」の概念は我國には存在しない。この概念若くは狀態の除去は決して國民社會主義革命の偶然の結果ではなく、むしろ黨綱領の意欲の實現なのである。國民社會主義は新聞に國民指導手段としての最高任務を賦與することによつて、新聞が國民全體に對して或る特殊な關係に立つものであることを表明したのであつた。自由を云々する場合には、その自由が何によつて與へられてゐるか、また如何なる目的のために與へられてゐるかといふ問題が生ずる。蓋し、自由はつねに或る拘束關係を前提とするからである。新聞は今では決してそれ自身のために存在するのではない。従つて自己目的ではない。それ故新聞の自由は獨逸國民の福祉と結びつくものである」と。

編輯人法

法律理由書は自らこの點について次のやうに云つてゐる。「新聞は國民に對し精神的影響を及ぼすための手段であり、文化の手段であり、教育特に國家及び國民教育の手段であつて、學校、ラヂオ、演劇、映畫とその性質を同じくするものである。即ち、新聞はその本質に於て公共事業であり、自由主義思想及び自由主義立法の解するところとは正反對のものである。新たなる法律上の取扱ひはこの見解に従はねばならぬ。新法はもはや單なる自由の保證や警察法規に非ずして、組織法である。

法律を以て新聞を公的責任を擔ふ者の範圍に組入れることが新法の意圖するところである」と。

理由書は、更にこの精神に基く法律の特色として、

第一に、公共の利器と見るべきものは定期刊行の新聞及び政治的性質を有する雜誌に限り、從つて適用範圍もこれに限るべきこととし、如何なる雜誌を政治的と見做すかは宣傳大臣が決定し、専門雜誌については所轄上級官廳または地方官廳がこれを決定すべきこと。

第二、新法に基く義務と特權を有すべきものはドイツの新聞に限り、外國新聞は單に警察取締の

對象たるに過ぎず。

第三、また新聞従業者のうち、編輯人即ち新聞の精神内容の製作に與る者のみが右の意味に於ける公共の任務の擔當者として新法の統制を受くべきで、新聞の經濟的經營方面の従業者には及ぶべきではないこと。

第四、特にイタリアの立法に従ひ、編輯人の登録制を採用したこと。

の諸點を擧げてゐる。

1、編輯人の定義。本職として若くは編輯長として、論說、報道または圖畫を以てドイツ國內に於て發行する新聞または政治的雜誌の精神的內容の作成に參與する者を云ひ、通信社に於て同一業務に従ふ者も編輯人に準ずるものとしてゐる（第四條）。

2、編輯人の資格。編輯人たり得るのは、（イ）ドイツの國籍を有し、（ロ）公民權及び任官能力を有し、（ハ）アリア人種にして且つ非アリア人を配偶者とせず、（ニ）滿二十一歳に達し、（ホ）行爲能力を有し、（ヘ）一年以上ドイツの新聞又は通信社に於て編輯人の業務に従事し、（ト）公衆に對する精神的指導の任務に必要な資格を具ふる者に限り。（第五、第六條）形式的條件としては編輯人名簿に登録されることによつて、編輯人の資格を取得する。

3、編輯人名簿。編輯人名簿は地方新聞組合に於て調整し、登録は申請に基いて、組合長が行ふ。登録後、上記の要件を缺いたり、要件に關する申告に不正があつたことが發見され、または登録された者が廢業したときは、組合長は登録を取消すことを要するが、登録の拒否または取消に不服があれば組合裁判所に抗告することが出来る（第八、第二〇、第二一條）。登録は編輯人たる絶對の要件で、登録を受けないで編輯人の業務を行ひ、または編輯人の名稱を稱した者は處罰される（第三六、第四三條）ばかりでなく、これを編輯人に使用した發行人も處罰を受ける（第三七條）。

4、編輯人の權利義務及び責任。編輯人の權利といふのは編輯人の業務を行ふことであるが、地方新聞組合の一つに登録された者は全國にわたつて業務を行ふ權利を取得する。（第二一條）。

編輯者の義務については、（イ）その取扱ふ事項に關して眞實を傳へ、最善の知識を以て批判すべきこと（第一三條）、（ロ）私益の主張と公益の主張とを混淆して公衆を誤るやうな事項や、内外に對するドイツの國力、ドイツ人の協同心、ドイツの武力、文化、經濟等を弱め、また信仰心を傷けるやうな事項や、ドイツ人の名譽品位を傷ける事項や、不法に他人の名譽または幸福を毀損し、信用を害し、愚弄輕侮にわたる事項や、その他不徳義な事項やを新聞雜誌に掲載しないこと（第一

四條、（ハ）職務の内外を問はず、編輯人たるの品位を傷ける行爲を爲さざること（第一五條）を擧げてゐる。

即ち、編輯人は一種の公務執行者として官吏類似の義務を課せられてゐるが、最初の二點は殊に新聞統制の中心を爲すものであるから特に嚴重で、編輯人がこれに違反する行爲に對して利益や報酬を要求し、約束させ、または收受したとき、及び編輯人または發行人に對して利益を提供し、または強迫を用ひて右の行爲を爲さしめ、または之を忍容させやうとした者は、何れも禁錮または罰金に處せられる（第三八——第四〇條）。

編輯者は、原則として、新聞の内容につき、自ら作成し、または掲載を決定した限度に於て、民事刑事並に職務上の責任を負ふ（第二〇條一項）が、編輯長は例外で、編輯長は新聞雜誌の全内容について責任を負ひ、且つ編輯事務及び責任の分擔を定めて毎號紙上に表示し、利害關係者の要求するときは之を告知する義務を負ふ（第一九、第二〇條二・三項）ことになつてゐる。

編輯人が公務の執行者と認められるのは、新聞雜誌の内容作成の上だけであつて、發行人に對する關係は依然私法上の雇傭關係に止まる。この公法竝に私法上の義務の調和をはかるために、法律は次のやうな規定を設けてゐる。

第一に、編輯人の任用は文書を以てすることを要する（第一七條）。

第二に、發行人は法律の規定する編輯人の義務に牴觸しない範圍に於て、任用に際し、新聞編輯方針の大綱を示してその遵守を命することが出来る（第一六條）。法律の規定する義務に牴觸しないことと方針の大綱に止まることが本條の眼目で、その趣旨は一方に於て編輯人の職務に或る程度の獨立を保障すると共に、新聞雜誌の個性、傳統、讀者層等をも保存せしめて、社主の經濟的利益をも保護せんとするものである。

第三に、編輯人を解雇するときは理由を附して文書を以て告知することを要し（第二九條）、且つ記事の内容を理由とする解雇は、たゞ法律の定めてゐる編輯人の義務または發行人の定める編輯方針に違反した場合に限り、解雇されたものが組合裁判所に抗告することを得る（第三〇條）。

ドイツ新聞院

新聞院の成立

ドイツ文化院法は啓發宣傳大臣に對して、その職務範圍に屬する新聞の領域についてドイツ新聞院を設立すべきことを委託したが、啓發宣傳大臣はドイツ文化院法第一施行令によつて、從來のド

イツ新聞雜誌労働組合を公法團體とし、これにドイツ新聞院といふ名稱を與へた。

包括する領域。

ドイツ新聞院に包括されるのは、定期刊行物の製作及び販賣に協働するすべての者であつて、院はすべての職業團體を獨立の専門團體に結成してゐる。

イ、編輯人。編輯人の概念は編輯人法で述べたやうに、本職として若くは主筆としてドイツの新聞または政治雜誌の本文の作成に協働する者を指すのであつて、その協働が直接に新聞の經營に於て行はれるとはまた間接に材料の提供によつて行はれるとを問はない。これに反して長篇小説や詩歌や短篇小説の作家は、たとひその作品がこれらの新聞雜誌に掲載されるにしても、編輯人として新聞院に屬するのではなく、著述院に屬する。

ロ、出版者。新聞雜誌の出版者は、その印刷物が編輯人法の規定に含まれるか否かを問はず、すべてドイツ新聞院に屬する。

しかし、(1)一定の團體の所屬員に限つて配布される團體報知、(2)製造品や業績について顧客に報知するための顧客雜誌、(3)専ら企業の製造品、業績または作業協働體内部の出來事に關する報告をする作業雜誌は、定期に發行されるものでも、院に所屬する必要がない。

出版書肆の所有者のほか、被傭者も院に屬する。

ハ、新聞雜誌の速記者。

ニ、新聞雜誌の販賣に協働するすべての職業集團、これには、(1)販賣商人—卸商人、小賣商人
(2)雜誌回讀會主、(3)購讀者募集人がはいつてゐる。

新聞院の構成

院長はマックス・アーマン、副院長ドクトル・ディートリヒ。ドイツ新聞院は職業集團のすべてを獨立の専門團體に結成してゐる。

ドイツ新聞團體は編輯人の専門團體であるが、公法團體で、この點でドイツ文化院に於ける専門團體中特殊の地位を占めてゐる。即ち、このドイツ新聞團體に對するドイツ新聞院の院長の權限は他の専門團體に對する場合と比較して著しく縮小されてゐる。

残りの専門團體も、主として次のやうな登記社團である。(括弧内は指導者)

ドイツ新聞發行者團體 (プリンクマン)

ドイツ雜誌發行者團體 (ビショップ)

新教新聞團體 (ヒンデラー)

舊教新聞専門分科會（アドルフ） 兩者は宗教新聞大専門分科會を構成してゐる。

ドイツ新聞雜誌卸商團體（シュナイデルハイנטツェ）

ドイツ驛賣書籍商團體（ヴスト）

ラジオ新聞團體（フランケ）

ドイツ新聞雜誌小賣商團體（シュタインホイゼル）

廣告雜誌専門分科會（シュテュルツェル）

出版社被傭者専門分科會（コルテイ）

ドイツ新聞記者専門團體（ヴェンドリッヒ）

ドイツ通信、情報専門團體（ドクトル・アルブレヒト）

ドイツ雜誌回讀會主専門團體

新聞院の仕事。

ドイツ新聞院は、新聞の領域に於て、「啓發宣傳大臣の指導のもとに、院の包括する全活動部門の従業者の協同によつて、國民及び國家に對する責任に於て、ドイツ文化を促進し、文化事業の經濟及び社會問題を規定し、加入團體相互間の一切の運動の調節を計る」ことを任務とするもので、（ド

イツ文化院法第一施行令第三條)。「その所管範圍内の營業條件、企業の開始及び完了を定め、またその所管範圍内の重要問題特に院の包括する活動集團間の契約の種類及び狀態に關して命令を發する權能」を與へられてゐる(同二五條)。

この權能に基いて、ドイツ新聞院は諸種の命令を出してゐるが、勿論、これによつて編輯人法に觸れることは許されない。

新聞豫約確保の廢止に關する命令(三四・八・三一)によつて、數ヶ月間、募集員による豫約者募集を禁止。募集員に對して許可制を採用した。これにより、募集員は選拔、監督を受け、且つ募集方法も規定された。尙この命令の施行に關する告示(三五・一・二)は例外的に、ドイツ新聞發行所全國組合加入の純娛樂的な日曜新聞、週刊新聞については豫約募集の繼續を許してゐる。

重要なのは、一九三五月四月二四日の「新聞發行制度の獨立性保證に關する命令」である。これは新聞發行者の職務行使に關する規定を含んでゐるが、注目すべきことは、第二條によつて法人——公法團體も、株式會社も、有限責任會社も、組合も、財團法人も、——さらに職業的、職分的または宗教的見地から、構成された團體も、新聞發行者としての活動から除名された。この命令の目的はかつて新聞發行制度を支配してゐた匿名を廢止するにあつた。また、新聞發行に對するすべての

權利者——所有者の外、用益權者、賃借人、質權者など——につき院に届出る義務を負はしてゐる。權利者の變更には許可を得る必要がある。さらに、新聞のコンツェルン結成にも反對してゐる。

同日の第二命令は、正常な競業條件及び健全な經濟關係の誘致上必要なときには、院の院長に對して多數の新聞發行所を有する地區内に於て特定の發行所を閉鎖すべき權限を與へてゐる。

同日の「煽情的新聞の除外に關する命令」によつて、スキャンダル新聞の發行者は院から除外された。

雜誌の領域でも、一九三五年四月三〇日の命令によつて、發行者から匿名が取除かれることになった。

通信社その他

通信社

ナチスは所謂D・N・Bの名で知られてゐるドイツ通信社と「トランス・オツ・エアン」通信社を通じて、宣傳省情報部指導のもとに、對外宣傳を行つてゐる。

ドイツ・ナハリヒテン・ビュロー
「デー・エヌ・ペー」は一九三三年一月五日、大陸通信社であるヴ
テレグラフィー・エス・ビュロー
オルフ通信社と國際

通信社であるテレグラフィー・ウニオンが合同して成立したもので、勿論私的な會社として設立されたが、その實、半官半民的な色彩を帯び、その株は全部政府が買ひ上げ、政府が直接所有しない株も、實際はその信託的所有であると云はれる。D・N・Bは國內外のニュースの配給と募集のために、自己直屬の支局、代表者、通信員などを各地廣く配備してをり、またドイツ國內の新聞は、直接にか間接にか、このD・N・Bと連絡がある。この通信社の主要な任務は、新聞用無電、電話、

電信などにとつてニュースを迅速に配布することである。

「トランス・オツェアン」は「デー・エヌ・ペー」と同様に、對外通信を目的とし、南米などで發行される親獨的なドイツ語新聞に記事を供給するとか、無電で英、獨、佛、西の四ヶ國語でドイツの國內事情を外國に報導してゐる。

その外、「ドイツ政デフプロマティッシュ・ポリティッシュ・コレスボンデンツ治外交通信社」「オーストエクスプレス」ナチオナル・ゾチアリス・タイシエン・バルグイ

「コレスボンデンツ通信」、それに十餘の小通信社があつて、それぞれの分野で活動してゐる。

そのうち「ドイツ政治外交通信社」は外務省の機關であつて、外交問題を取扱ひ、「オーストエクスプレス」はソ聯と東歐問題を取扱ひ、また「ナチス黨通信」は黨の通信を取扱ひ、主として國內の新聞の指導に當つてゐるが、「デー・エヌ・ペー」が一般の政治經濟を取扱ふに對して、この通信は黨に關係のある通信だけを取扱ふ。

これらの通信社は單にニュースを供給するといふだけではなく、ナチスの世界觀樹立のために一役を買つてゐることは勿論である。

雜誌

一九四〇年夏改訂された「在外ドイツ語新聞要覽」によれば、ドイツ語新聞を發行してゐる國は四十一ヶ國に達し、その發行所數は一、二二六にのぼつてゐる。

現在發刊されてゐる雜誌には次の如きものがある。

「デア・ドイッチェ・フォルクスヴィルト」週刊、經濟雜誌

「デア・ステュルマー」週刊

「ベル・リーナー・モナーツヘフテ」月刊戰爭研究雜誌

「オイロペイシェ・レヴュー」月刊、外國政治評論

「ホッホラント」月刊、カトリック系

「オスト・オイローパ」月刊西歐問題研究

文學の領域では、

「ダス・インネレ・ライヒ」(一九三四年發刊)「ディ・ノイエ・ルンドシャウ」「ディ・リテラトゥー

ル」等がある。

其 他

ドイツ・イタリヤ兩國では今回歐洲大戰勃發と同時に國際問題や國內の重要政策について國民の啓發機關として壁新聞を採用、殊にドイツでは占據地域に必ず一週間と經たないうちに壁新聞が目見得して難民や本國人に新事態の正しい認識を深めさせてゐる。

ドイツの壁新聞の一例としては、「チャーチル對チャーチル」の標題の下に次のやうな記事が巧みに編輯されてゐる。

一九三九年一月八日チャーチルは英國下院で説明した「かつて英國が行つた戰爭中これ程海洋が我々の自由になつてゐるのはその例を見ない」といふ記事をかゝげ、それから三日後に「我々はドイツの潜水艦を制壓して我々の支配下に置いた」といひ、さらに一九四〇年一月二一日彼はなほも誇示して「ドイツの潜水艦隊は完全に撃破された」といふ演説を歴史的に示した後、しかるに一九四〇年一月五日には早くも彼が下院に於て「海洋の危険は恐るべきものがある、吾人が若しこ

れを忽せにする時は、遂ひに國家の咽喉はしめつけられてしまふであらう、大西洋上のわが船舶の航行に對してドイツ潜水艦の攻撃が日毎に増大することは空爆のそれ以上に容易ならざる事態で、このことはわれわれにとつて堪えがたい苦しみである」と音をあげたといふ具合に相手國の弱音を巧みに引用して、最後に「チャーチルよ、期待してゐるがよからう、ドイツは今度こそこの點に關してありとあらゆる手段を盡して容赦しないであらう」とドイツ政府の決意を書き加へてゐる。

また、兵士間の新聞が昨夏あたりからどんどん發行されてゐる。兵士間の雜誌としては「コペンハーゲン・イルストリールテ」が立派で、これは在デンマーク・ドイツ軍隊の兵士雜誌で、何れも國外で働いてゐる部隊をつねに祖國へ結びつける重要な役割を果してゐる。

造形美術

ドイツ造形美術院

造形美術院の成立

ドイツ文化院法は啓發宣傳大臣に對して、その職務範圍に屬する造形美術の活動部門について、ドイツ造形美術院を設立することを委託したが、啓發宣傳大臣はドイツ文化院法第一施行令によつて從來のドイツ造形美術聯合を公法團體とし、これにドイツ造形美術院といふ名稱を與へた。

包括する領域

ドイツ造形美術院の構成及び組織については、三五年四月一〇日の第一命令と三五年六月一六日の第二命令とがある。これによると、ドイツ造形美術院には次のものが包括されてゐる。

イ、文化財の生産面では、建築家、築庭師、畫家、線描家、彫刻家、實用線描家、實用宣傳家、

工藝職人、圖案家、室内裝飾家。

ロ、文化財の複製、保存及び管理面に於ては、複製家、^{コレリスト}損傷した美術品の修復人。

ハ、文化財の精神的または技術的加工、普及、販賣または仲介の面に於ては、美術商骨董商、美術出版者、美術印刷物、實用及び宣傳美術仲介者、美術家協會、美術協會、美術工藝協會、キリスト教美術全國福音協會、キリスト教美術全國カソリック協會。

ニ、美術教育の面では、造形美術施設。この美術教育施設が院に所屬するのは、前にもちよつと觸れたやうに文化院法の補充法にもとづくのである。これによつて、院は美術教育、即ち將來の藝術家に福音を與へることが出来る。

院加入の資格

ドイツ造形美術院に入會させる資格については、「ドイツ造形美術院加入の許可及び拒否に關する命令」がある(第一命令三五・四・一、第二命令三五・六・一六、第三命令三五・七・三二)。大體は、既に個々の院の加入義務について述べた内容である。

院の構成

院の構成については、「ドイツ造形美術院の構成及び組織に關する命令」がある(第一命令三五・四

一〇、第二命令三五・六・一六、第三命令三五・七・三二。こゝで注意すべきことは、既に見られたやうに、他の個々の院が未だに専門集團と専門分科會とを以て構成されてゐるにかゝはらず、この院は非常に理想的に全く専門分科會のみを以て構成されてゐるといふ點である。次に紹介するドイツ造形美術院の各部がこの専門分科會に對應するわけである。院は次のやうに組織されてゐる。

統轄部、指導と組織にあたる、この下に左の七部がある。

第一部は、行政、人事、會計、法律の四課に岐れ、法律課は後に述べるやうに院の様々の命令作成を相當してゐる。

第二部は、出版と宣傳の二課に岐れる。

第三部は、建築術、築庭及び室内造形の三課に岐れ、これには建築家、築庭師、室内造形師が屬してゐる。

第四部は、繪畫、線畫、彫刻の三課に岐れ、畫家、線畫家、彫刻家が屬してゐる。

第五部は、實用線畫と圖案の二課に岐れ、實用線畫家と圖案家がこれに屬してゐる。

第六部は、文化獎勵と文化管理の二課に岐れ、美術協會、美術家協會、美術競賽を指導監督してゐる。

第七部は、美術出版、美術販賣、美術競賣の三課に岐れ、美術出版者と美術販賣商がこれに所屬してゐる。美術の出版者、販賣商はドイツ著述院には屬してゐない。

ドイツ造形美術院の地方的編成は、他の個々の院と同様である。即ち、黨の原則に従つて大管區の區分により編成し、且つ啓發宣傳省の地方局指揮者が地方文化管理官に任命されてゐる。大管區には院の地方指導部があり、地方指導部は院の構成を模寫して構成されてゐる。即ち、院の八部に相應して八つの専門範圍に岐れてゐる。そして、この八つの専門部門に應じて八人の係員が設けられてゐるが、八人の係員を設ける必要のない地方では、二つ以上の専門部門を一人の係員が取扱ふことも出来るやうになつてゐる。

院の仕事

ドイツ造形美術院は、他の個々の院の任務について述べたと同じやうに「啓發宣傳大臣の指導の下に、院の包括する全活動部門の従業者の協同によつて、國民及び國家に對する責任に於て、ドイツ文化を促進し、文化事業の經濟及び社會問題を規定し、加入團體相互間の一切の運動の調節を計る」ことを任務とするもので（ドイツ文化院法第一施行令第三條）、「その所管範圍内の營業條件、企業の開始及び完了を定め、またその所管範圍内の重要問題特に院の包括する活動集團間の契約の

種類及び狀態に關して命令を發する」權能を與へられてゐる（同第二五條）。

この權能に基いてドイツ造形美術院は次のやうな院命令を發布してゐる。

名譽裁判所設置及び名譽裁判手續確立に關する第一命令（三五・四・一）同第二命令（三五・六・一六）
ドイツ造形美術習加入許可及び加入拒否に關する第一命令（三五・四・一）同第二命令（三五・六・一六）第三命令（三五・七・三二）

美術展覽會及び美術市開催に關する第一命令（三五・四・一〇）同第二命令（三五・七・三二）

ドイツ文化院の構成及び組織に關する第一命令（三五・四・一〇）第二命令（三五・六・一六）第三命令（三五・七・三二）

競業に關する第一命令（三四・三・二三）同第三命令（三五・六・一六）第四命令（三五・七・九）

建築家の職業及び職務執行の保護に關する第一命令（三四・九・二八）第三命令（三四・一一・二〇）第六命令（三五・六・一六）

築庭師の職業及び職務執行の保護に關する第一命令（三四・九・一）同第二命令（三五・六・一六）實用線畫家の職業及び職務執行の保護に關する第一命令（三四・八・二四）第二命令（三四・九・二一）第三命令（三五・一・一五）第四命令（三五・六・一六）第五命令（三五・七・一七）

圖案家の職業及び職務執行の保護に關する第一命令（三五・六・二八） 第二命令（三五・六・二八）
美術・骨董商の職業及び職務執行に關する第一命令（三四・八・四） 第二命令（三五・七・三一） 實
用宣傳家の職業及び職務執行の保護に關する第一命令（三四・八・一） 第二命令（三五・七・一八）
右のうち、樂庭師、實用線畫家、意匠家、美術販賣商、骨董商並びに工藝職人の職業及び職務執
行の保護に關する命令は、何れも、職務執行の要件を規定し、藝術的業績の概念を區分し、職業義
務を指示し、且つ競業の形式や、委任者との契約内容の規準を含んでゐる。

また、樂庭師、實用線畫家、意匠家のための費用令は、これらの藝術家に支拂ふべき適當な謝禮
についての法的基礎を與へてゐる。

尙、建築家については、前述の「建築家の職業及び職務執行の保護に關する命令」のほかに、三
六年七月二八日の建築令と費用令とがある。

この建築令は、建築にたづさはるものを三つの集團に區別してゐる。第一は、設計の責任を負ひ
且つ自らこれを實現する建築企業家であり、第二は傭はれて仕事をする建築家であり、第三は建築
の受託者である。

建築の受託者といふのは、この法令によれば、本來、建築の美術的形成に責任を負ふものであつ

て、一つは建築物の所有者に對して責任を負ふと共に、一つは國民に對しても責任を負ふのである。何故なら、彼は國民の建築文化に形成的に協力するからである。

停車場、郵便局、兵營、市町村役場など、國家及び自治團體の建築計畫に、從來以上に造形美術家を引き入れる必要があることを、啓發宣傳大臣は指摘してゐるが、一方また、一九三五年五月一日の總統令によつて設置された「藝術形成委員」が啓發宣傳省の監督下にあつて、ナチス國家がその世界觀を一定の藝術的形成として表現しやうとする際に（主として公共の建築物、紀念碑、旗制服、貼札、郵便切手等の作成の際に）つねに助言を與へ、協力することは、前に述べた。

造 形 美 術

ヒットラー總統とローゼンベルクが共に建築家出身であることは周知の通りであるが、ナチス文化はまづこの方面に美事な成果を見せた。

ドイツは軍備擴張のため經濟的困難に面しながらも、各種の大土木工事を行つて來た、ライン、ドナウ運河計畫、全國を貫く大自動車道路、現に着工されてゐる大ベルリン市の改造都市計畫も極

めて大規模なものである。

造形美術の領域に於ける文化政策について、國文化管理官たるシュミット・レオンハルトは云ふ。「造形美術の孤立と衰微は、音楽文化の没落に劣らず明かであつた。未來派及びダダイズムは、眞の藝術とは無關係であつた。これらの傾向の作品に表現された病的な精神は藝術生活全體を支配してゐた。藝術の何たるかを眞に理解し、この職業の大きな責任を自覺してゐた少數の藝術家がその圏外に立つてはゐたが、ユダヤ人の藝術批評家や美術販賣の仲介によつて、これらの眞の藝術家は國民から隔離されてゐた。

一方、音楽にあつては、偉大な大家が素朴なドイツ民謡と同様に、教育で害されない人間の心に接觸する道を依然として見出し、またこれによつてジャズ化に對して勝利を得たのに對して、建築文化をも含めて、造形美術の方は、國民の精神生活との一切の結合を失つてしまつた。人間の永遠への憧憬が表現を得んとする藝術は、その神聖が冒瀆され、腐敗と墮落の道具に低下した」と云つてゐる。

この状態は、勿論、ナチスのこの領域に於ける文化政策の解決すべき課題を示してゐる。

ナチスの造形美術の領域に於ける文化政策は、美術家をアトリエの中に屏息させるやうな職人根

性を否定する形として現はれた。美術を單に社會的に解放するばかりではなく、美術家に對しては新文化建設のために同じく國民の一人として勇ましく戦ふ闘士であることを自覺させやうと努力してゐる。

また、國民的團結性、技術的健康性、時代のリズム、一般に理解されることが、過去の巨匠時代に代つて、前面に押し出されて來た。

また、そのスタイルから云へば、ゲルマン的な様式が民族性の本質に對する反省として再現され、健康性と活力とが、消極的な悟道や諦觀的な題材に取つて代つた。

藝術家の教育は勿論、一方、藝術鑑賞者の教育にも意をそゝいでゐる。兩者が一致するのでなければ、藝術を國民に近づけることも、國民を藝術に近づけることも出来ない。

同時に總ての國民は、國民の文化財及び文化業績に關與すべき可能性を獲得すべきである。こゝで、展覽會政策や販賣政策が重要な役割を演ずることになる。

建築の方では、シュペーア・マルシュ、ザケビール、グルンド、クライスなどが有名である。

既に完成された建造物では、ニュルンベルクの黨大會々場、ミュンヘンの國王廣場、ミュンヘンの藝術の家、ベルリン航空省のオリムピア會場、新しい總統官邸などがある。これらは徹頭徹尾偉

大であつて、極めてザハリツヒに建築され、同時に數學的であり、素朴、壯嚴であり、虚飾を排し絢爛を壓量感に置きかへてゐる。

ナチスの彫刻家のなかで、比較的若くて、著名なのは、ブレーカーとトラークの二人である。二人とも巨人彫刻を本領としてゐるが、ブレーカーのものは細つそりとして情熱的であるに反し、トラークのものはむしろごつごつした謂はゞ「電撃的緊張の前に破壊せんばかりの」記念碑である。

アルノー・ブレーカーは一九四〇年七月一九日第四十回の誕生日を迎えたばかりであるが、彼の巨大彫刻は、統一された大ドイツを記念する造營物のなかに極めて適切な役割を果してゐる、ブレーカーは盤石のやうな力強い意力を示し、まさにナチスの若い彫刻家達の指導者の觀がある。彼はかなり長いこと外國にあつたが、一九三三年にベルリンへ歸つて來た。一九三六年、プロイセンの委嘱に應じて製作した作品によつて初めてナチスの彫刻界に紹介された。オリムピックの銀牌に刻まれた「十種競技者」その對ををす「勝利の月桂樹を冠つた乙女」を製作したのは彼である。何れもドイツ運動競技場の「ドイツ・スポーツの家」のなかに飾るブロンズ像であつた。最近、年間に制作したものの中には、ドレスデンにある「イカルス」、ゲッペルス宣傳相のために作つた「プロメトイス」、新總統官邸のために作つた群像「黨と軍」とがあり、浮彫では「戦士と守神」、等身大

のブズでは「冒險者」、「秤る人」、「典雅」などがある。ブレーカーの巨大彫刻は、興隆する大ドイツの勇ましい壓倒的な精神にふさはしい典型的なものとならう。

しかし老大家のなかでも、コルベ、シャイベ、クリムツシュ、ワッケルレ、ゲッレなどは最近圖熟した紀念碑的結構の彫像 創作して、大いに氣を吐いてゐる。

・繪畫の方面では、ゼップ・ヒルツやアモールバッハの多彩絢爛な農民風景、美しい詩的な英雄的な風景、正確な肖像畫、アントン・パドゥワの卓れた風俗畫やモデル畫、アルフルド・クリーゲルの靜かな田園風景など、ナチスにとつて大きな收獲であらう。デュセルドルフ市の四〇年度コルネリウス賞を贈られたカルル・ヴァイスゲルバー、三五年度デュラー賞のフリーゴ・ペーシエル、四〇年度のゲーテ財團のエルヴィン・フォン・シュタインバッハ賞を授けられたパウル・レシホホルンなどの中堅畫家の製作活動も活潑である。

戦時下、四〇年七月二七日にはミュンヘンの「ドイツ美術の家」で第四回の「一九四〇年度大ドイツ美術展」が行はれ、造形藝術の現状及び將來の概觀を與へ、この方面に於ける戦時ドイツの偉大さが併せて誇示された。出品一千五百點、最初の十日間で五萬以上の入場者があつたと報ぜられてゐる。

その他造形美術の展觀會を算え上げたら際限がない。そのなかでも巡回美術展觀會や軒並に並んでゐる大商店の飾窓を利用した謂はゞ街頭展覽會などが注目を惹いたが、特に戰線との結びつきについては、例へばミュンヘン市がエルンスト・リーベルマンとハイリッヒ・クライの繪畫を美術印刷にして一萬五千枚を陸海空各部隊に分配したことや、西部戰線の或る師團が軍事郵便葉書の圖案を前線將兵から募集したことなど記憶さるべきであらう。

ラジオ政策

ラジオの任務

ナチスは政權獲得まではラジオの利用が許された、一九三二年の大統領選舉戰に際しては航空機を利用、有名なヒットラー飛行さへ案出されたのであつたが、ラジオの影響力が新聞よりも遙かに大きいことはこの間に散々見せつけられて來た。

ゲッベルスは云ふ、「新聞が十九世紀に對して果たした役割をラジオは二十世紀に對して果すことになる。ナポレオンは新聞は第七の偉力なりと云つたが、この言葉をもちつて、我々はラジオは第八の偉力なりと云へるだらう。人間の現實の社會生活に對して、ラジオの發明と形成は誠に革命的な意味をもつ。恐らく後世の人々は、かつて印刷術の發明があつて宗教改革が行れたやうに、ラジオが我々の時代の大衆に精神的竝に心的影響を及ぼすための手段方法に新なる進歩發展をもたらし

たと断言するであらう。……一旦政府が國民相互をがつかちりと團結させ、世界政策上の偉大な決意を貫徹させるに當つて、強力な力の中樞體としてこれに物を云はせることを目標にした以上、國民のすべての生活表現をこの意圖と傾向に従屬させ、或ひは少くともそれに積極的に關係をもつ權利及び義務をもつてゐる。ラジオについても、さう云へる。廣汎な國民大衆に意識的に及ぼす影響が大きければ大きいほど、益々さう云へるし、また國民の將來に對して負ふべき責任も大きくなるわけだ……。

政府部内の我々を煩はす問題は、取りも直さず今日街頭の人を煩はす問題である。我々がラジオ演説、挨拶の形でエーテルを介して國民と話し合ふ問題も國民にとつて緊急の問題なのである……我々がもとわるものは、國民と共にあるラジオ、國民のために働らくラジオ、政府と國民の仲介者たるラジオ、さらに國境を越えて全世界に我々の遺方や生活や仕事の全貌を如實に傳へるラジオである。」(一九三三・八・一八、ベルリン・ラジオ展覽會の挨拶より)

前ラジオ院長ドレスラー・アンドレスは云ふ「ドイツのラジオの國民社會主義的指導はラジオ放送の形成を益々自由主義的な個人主義原理から解放し、國民社會主義的全體主義を番組編成に適用することを任務とするに至つた。將來のラジオはもはや個々の審美的なグループの仕合場ではなく、

國民全體の公器であり、ドイツの國民情操、ドイツの文化、藝術生活の媒介者であり、形成者である。かうしてラジオは國民文化及び國民藝術、すなはち國民のなかに生れ出づるが故に國民のあらゆる層に理解される藝術の開拓者とならう。」（一九三四・一・一、放送演説より）

また、別な機會に、「ヒットラー總統は、獨裁手段で治めやうといふのではなく、國民の信頼に聽かうといふのであつて、ナチスのラジオ機關が政治的に、また宣傳的に、成功した證據はこのためである」と云つてゐる。

ラジオの所管官廳と黨機關

ドイツのラジオ放送は、ナチスの政權把握までは、逓信省が監督してゐた。即ち、一九二八年一月一四日の通信施設に關する法律第一條の廣義解釋の結果、放送局は國のみに歸屬する施設として、逓信省が全放送設備を所有し、技術的な放送經營に當つたが、放送番組の編成は官廳に適しない仕事として民營放送會社に一任されてゐた。かうして技術的設備と番組編成とは一應分離されたが、番組編成の權能しか與へられてゐなかつた民營會社も放送自體のために或る技術的條件を作る必要

に迫られ、通信施設に關する法律第二條によつて、技術設備に權能の一部が民營會社に委任された。しかし民營企業として番組編成を民營會社に一任しておくことは、とかく私益追求に煩はされて、ラジオ本來の公益的機能を發揮し難いものがあり、この缺陷に鑑みて既にナチス政權の出現前、これらの各放送局内に官民合同の番組編成委員會に設置され、公益利益の調整が試みられたのであるが、見るべき効果はなかつた。

國民啓發宣傳省が成立するや、一九三三年一月三〇日の權限令によつて、從來これらの民營放送會社のもつてゐた番組編成並にこれに伴ふ技術施設の權能は一括して同省に接收されるに至り、肅正の可能性が與へられるに至つた。

放送事業の監督官廳たる啓發宣傳省は同省ラジオ部を通じて、政治・社會・文化・各般にわたる放送政策を指導監督するばかりでなく、同省ラジオ部の所管範圍が外國向放送、ラジオ商工業、放送法規、放送技術政策を包含し、更に今次戰爭勃發後ラジオ部内に放送司令本部が設置され、放送に關する一切の中央に於ける指令がこゝから發せられることになつたことは既に述べた。

なほ、逓信省は、放送の技術的設備の建設、保守、運用の衝に當り、また聴取加入竝に聴取料收納事務、聴取障害防止事務を擔當してゐる。

黨の組織としては、ナチス黨全國宣傳局内にラジオ部があつて、各地區にラジオ本部を配置して、政治的の中繼放送が行はれるやうな場合には團體聴取の便宜を圖つてゐる。これが強制聴取制度である。

強制聴取制度といふのは、例へばヒットラーが演説をするとか、政府當局が民衆に何か呼びかけたいと思ふやうな場合に、ラジオの監督官が出張して、町の廣場に擴聲器を据え、會衆や、工場の従業員や、學生などの全部に強いて放送を聴かせやうとする仕掛で、この制度によれば、都合のためには放送を聴き減らすといふやうなことはないわけで、例へば、擴聲器の設置が終つてサイレンが鳴り響くと、それまで働いてゐた人達は一齊に仕事を中止して、この放送に聴き入るわけである。

その他、黨宣傳局ラヂオ部は、聴取者の希望を容れてプログラムの改善をしたり、逓信省と連絡して聴取障害の除去に努めたり、またゲッペルス・ラジオ寄附金を社會政策に用ひて貧困者その他に受信機を給するなどの放送事業と聴取者との間の媒介の役目を果してゐる。

舊ドイツ・ラジオ院

三三年九月二二日のドイツ文化院法第二條及び第一施行令第一條の規定に基いて、ドイツ文化院内にドイツ・ラジオ院が設置された。

ドイツ・ラジオ院は放送藝術家の職業的地位を保護すると共に、マイクロフォン適性審査によつてこれを統制し、またラジオ商工業と共同委員會を構成してラジオの政治的指導とラジオ商工業との連繫にあたり、さらに全国的に聴取者獲得に努力して來た。

ドイツ・ラジオ院の構成を見るに、(イ)放送藝術家よりなる専門分科會、(ロ)ドイツ放送會社(RG)、(ハ)ドイツ・アマチュア放送率仕團の三ツから成り、最初はこの外にラジオ聴取者協會、ドイツ・ラジオ加入者聯合團體、ラジオ・ファン協會及びドイツ・ラジオ技術團體等が、團體たる會員としてラジオ院に所屬してゐたが、これはその後解散させられてしまつた。

イ、放送藝術家は個々に院に所屬せず、放送藝術家を合一して職業職分的専門分科會が構成され、かゝるものとして院に所屬してゐる。また、放送藝術家と稱せられるものうち、ラジオによつて

活動する俳優、音楽家及び著述家はラジオ院に所屬しないで、それぞれ演劇院、音楽院、著述院に所屬する。

ロ、次に、ドイツ放送會社（エルエルゲーRRG）であるが、これは有限責任會社であつて、全國十一の放送局の番組編成の規準を作り、且つこれに要する資金を各放送局に分配することを任務とする。各放送局はドイツ放送會社の謂はゞ支局であつて、獨立の法人格を有せず、その幹部はドイツ放送會社によつて任命されてゐた。また、この會社の配當は啓發宣傳大臣の名に於て國に歸屬した。

ハ、ドイツ・アマチュア放送率仕團は公許された一切のアマチュア放送局の聯合で、アマチュア放送權のための認可獲得のための修業を保護し、且つ技術的な點に於てアマチュア放送を監督することを任務としてゐた。

尚、第一次施行令第四條第二項の「文化財とは技術的頒布手段の生産及び販賣をも含む」といふ規定に従へば、ラジオ器具の製作及び販賣は當然これに該當するわけで、ラジオ器具の商工業はドイツ・ラジオ院に所屬しさうに考へられるが、これらのものは既に商工經濟の協會に屬してゐた關係上、重複的編成禁止の原則に従つて、さらにこれをドイツ・ラジオ院に抱入することは斷念しなくてはならなかつた。

ドイツ・ラジオ院は管理、宣傳、經濟及び技術、法律、文化の五部より構成されてゐた。

宣傳部はラジオ展覽會、宣傳用自動車、一般宣傳の三課に分れてゐたが、この部は非常に重要なはたらきを爲遂げた。受信器を各戸に備えさせたいといふ總統の意志にもとづき、ラジオ商工業と商議の上、低廉にしかも最少額の分割拂ひで受信機が手に入るやうにした。

一九三二年末に四三〇萬であつた聴取者の數は、三三年には五〇〇萬、三四年には六一〇萬、三五年五月には六七〇萬に増加、飛んで三九年末には一四四六萬七千と飛躍的增加を示してゐる。

國民大衆への普及を計るために、さらに、品質のよい「國民受信機」を製造して、安價に提供して來たが、三八年には新に節約普及型の小型受信機が制定され、三八―三九年度に於て、國民受信機と節約普及型との賣上高合計一四〇萬臺に達し、外に一般市販品の賣上數は一六六萬臺にのぼり、計三〇〇萬臺の賣上げを見てゐるのでも、受信機の普及ぶりが察知されやう。

なほ、第五部の文化部は、文化的形成、マイクロフォン上級検査所、ドイツ語發音、ラジオ専門分科會の四課があつた。

ドイツ放送協働聯合

三九年一〇月二八日、ドイツ・ラジオ院は解消して、新たに「ドイツ放送協働聯合」が設けられた。
ルンドフンクアルバイツマインシャフト

この「ドイツ放送協働聯合」は、ドイツ放送會社、ドイツ・アマチア聯合、電氣工業經濟聯合、同聯合のラジオ専門グループ、輸出入卸業經濟聯合ラジオ専門グループ、小賣業經濟聯合ラジオ専門グループ、市場販路開拓代表者専門グループ、下級ラジオ専門グループの七團體を加盟團體として新たに結成されたので、これがドイツ・ラジオ院の從來の任務の大部分を引き繼ぐことになり、ドイツのラジオ及びラジオ商工業のために共同の宣傳を行ひ、またラジオ聴取者の増加と維持のために努力することになった。

また、ドイツ・ラジオ院のもつてゐた權利義務の一部はドイツ放送會社に移された。

以上、宣傳省、遞信省、黨全國宣傳局及びドイツ放送協働聯合の指導を受けて、前述の「有限責任ドイツ放送會社」が放送事業に従事してゐるわけであるが、同會社は中央指導部の下に全國監

督・總務課、全國放送指導・プログラム課、技術課、監理課の四部門があり、同じく四系統に分れて運営される凡ての放送局を統括してゐる。

放 送 番 組

かやうに、ドイツの放送事業は、政治的には中央集權化されてゐるが、文化的にはむしろ地方的特色を發揮するやうに管理されてゐる。

即ち、特別な場合には、ドイツ放送會社 R R G の全國放送指導部が直接番組を編成したり、中央局に放送事項やテーマを指定して編成させたりするが、一般には各中央局は局長の責任に於てその放送地帯の風土、文化、住民の職業、言語、氣質などの特性を考慮して獨自のプログラムを編成したゐた。

別に全國長波放送局があつて、これらの中央局の番組を總括すると共に、別個はドイツ民族全體のための番組を編成して來た。

然るに、今次大戰の進捗と共に、重要な戰況ニュースを即時に全國に傳へるためプログラムを一

層嚴格に統制する必要が生じ、四〇年五月一日からは全國の放送局が一部のものを除き、大部分共通のプログラムを放送することになり、放送内容は從來よりも軍一化されるに至つた。

次に、放送プログラムの内容を検討してみよう。

政權獲得當時、ナチスは「國民の時間」を設け、音楽を放送したが、放送プログラムには嚴密にドイツ的な作曲家の手になる優秀な音楽が採り入れられた。しかも、音楽の放送される前には、前以て宣傳的な解説を付け、大いにドイツ的なものを讚美し、民族の優秀性を反覆強調したが、時には音楽を聴くためにスイッチを入れた人達を政治的目的に利用しやうとして、予定のプログラムを俄かに變更することもあつた。

また、ニュースは新政府の活動狀況の報道に重きがおかれてゐた。

また「失業者の時間」が挿入されてゐて、失業者も老兵も共に熱心なヒットラー支持者であることを説いたり、その他、ヒットラーを以て神の使徒なりとす、牧師の説教や、突撃隊員の組織する弦樂四重奏の音楽放送、ヒットラーの生活とナチス運動を劇化するラジオ・スケッチなどの放送種目が好んで選ばれた。

これを見ても判るやうに、當時は黨ならびに政府そのものの宣傳に集中されてゐたが、これにつ

いてゲッペルスは云つてゐる。

「ラジオが宣傳化した結果、退屈になるとか、近代的テムボが失はれるなどと云はれるが、むしろ近代的のテムボを興へやうとするのが我々の主旨であつて、一月三〇日以来各週のラジオ宣傳は模範的のものと云へる。聴衆が退屈のあまりスキッチを切るといふことも起らないのみか、何百萬の新聴取者が加入した。それといふのも、ラジオの宣傳を、大衆の集つた大氣のなかから放送した結果に外ならない。かくて、聴取者は誰れも直接この事件の参加者となつた。近來の眞のラジオとは、時代精神を斟酌し、國家的責任を意味したラジオであつて、誰にも國家的大事件を知らせなくてはならない。例へば、新議會の開院式とか、ポツダム教會の感謝祭とか、總統の面前で行ふポツダム聯隊の觀兵式などの國家的式典が、一萬人や一萬五千人の面前で行はれるといふことは、近代的でない。技術の援助がある以上、國民をこのやうな出來事に直接させたり、共に聞くやうにすべきだ。若しテレヴィジョンがあれば、さらに全國民がはつきりこれを目撃することができやう。凡ゆる手段で、政府の意圖を國民に知らせなくてはならぬ。その上、ドイツの藝術、科學、音樂のラジオによる獎勵も心掛くべきだ」と。

勿論、ナチスの國內放送は國民社會主義に基く民族的協同體の結成を究極の目標としてゐるもの

であり、戦争勃發後は戦争目的遂行のために國民精神の總動員を主眼にして行はれてゐることが殊に目につく。

現在の放送番組の内容を見るに、筆頭は音楽であつて、これによつて聴取者に勞動後の休息と慰安とを與へることを目標としてをり、戦争勃發後は戦線向の音楽放送や、戦線兵士出演の音楽放送、戦線で製作された軍歌の放送などを行つて、前線銃後を結びつけることを目標とし、演奏曲目は輕薄なダンス音楽などを避けて、輕い古典音楽や娛樂音楽や行進曲、民謡などを選んでゐる。

講演は意外に尠く、僅かに學校放送、ヒットラー青少年團員、婦人或ひは農民を對象とする放送に見受けられるに過ぎない。婦人・農民向放送は戦時生活の指導を中心として編成されてゐる。また、戦時種目としては毎週空軍、海軍、陸軍の活動に關する講演がある。

ニュース放送は、戦時に入つて、國民生活にとつて重要かくべからざるものとなり、現在一日八回も放送されてゐる。そのうち四回は獨伊兩國軍のニュースを含むもので、そのうち一回は戦線兵士にこの國防軍ニュースを速記させるために特にゆつくり再放送される。ニュース放送のためには娛樂プロの中断を止むを得ぬことゝしてゐる。

さらに注目すべきは録音放送であつて、毎日放送される戦線録音及び日常生起する事象の録音は

聴取者に強い現實感を與へてゐる。戦争勃發と共に、戦線と銃後とを結びつけるために、マイクを手にした兵士やアナウンサーが戦線に派遣され、いはゆる宣傳中隊（P.K.）となつて、第一線に進出して、聴取者向きの報導を編輯してゐるが、これについてドイツ放送會社全國放送部長ハダモフスキが四〇年一月、宣傳中隊の取扱ふ實況リポートはセンセイショナルなものを目指さないで、即物的手法で行はなければならぬことを特に強調した。

この外、軍事通信、政治狀勢概観、新聞・ラヂオ政治評論、戦線銃後だより等の種目がある。尙、餘暇善用原生團體、労働戦線、全國食糧生産者團、冬期救濟事業などナチスの組織及び事業と結びついてプロが編成されてゐることは云ふまでもない。

對 外 放 送

政權掌握と共にナチスの國家政策は國內放送のみでなく、對外放送にも徹底的に實現された。即ち、國內放送が國民社會主義にもとづく民族協同體の結成を目標とするやうに、對外放送の主たる目的もアメリカ、アジア、オーストラリア各大陸に散在するドイツ人を民族協同體の一環とするに

ある。

對外放送は、勿論、これ以外に、自國の國情や文化を外國に理解させ、さらに自國の世界觀や政策や主義主張を對外に宣傳するための有力な手段として利用されてゐる。

ナチスは一九三三年四月一日北米向け世界放送を開始し、三四年二月一日にはアフリカ向、二月二日には南米向、二月三日には東アジア向、翌三五年一月一日には南アジア及びオーストラリア向五月一日には中米向、さらに三九年三月一日からは南米ブラジル地帯向の世界放送が開始された。

ドイツが短波放送に現在使用してゐる外國語は英・佛・西・葡・和の五ヶ國語にアフリカンス語とアラビア語を加へ合計七つに上つてゐる。

ドイツの世界放送のプログラムが聴取者心理をよく考慮してゐること、娛樂的要素と宣傳的要素とを巧みに結合してゐることは、注目すべきであつて、特定の地帯向けの放送プログラムは、音樂が大部分を占め、これに巧みにニュース、外國語、時事トピック、録音及び外國語の講演が配されてゐる。

音樂の領域では娛樂音樂、輕音樂、管絃樂、オペラの外、ドイツの擁する豊富な音樂財を縱横に駆使してゐる。

報道の領域では、各般にわたる新興ドイツの建設と事業を録音によつて紹介する「ドイッチュラ
ンド・エヒョー」があり、時事トピックを録音によつて傳へる「ツァイトフンク」があり、さらに
各國の新聞の政治的動向を解説する「新聞評論」がある。

ドイツ語ニュースが一方二回乃至三回であるに反して、外國語ニュースは一方三回乃至五回
も行はれ、對外宣傳を重要視してゐることがわかる。

ニュース取材の蒐集、編輯は宣傳省自ら行つてゐる。

對外放送としては、短波放送の外に、中波による外國語放送がある。對外放送のために中波局を
動員する傾向は、三八年秋チェコ問題を繞つて歐洲政局が緊迫して以來、特にヨーロッパ各國に於
て顯著となつたのであるが、一九三九年に入つて次第に定期放送となり、歐洲戰爭勃發と共にその
活動は益々熾烈となつた。

中波外國語放送は主としてニュースであるが、ドイツが現にこれに使用してゐる外國語は四〇年
五月末に於て一九ヶ國語に上つてゐる。

一九三九年八月末、ドイツの放送は、西部に於ては英佛の反獨放送、東部に於てはポーランドの
反獨放送を受けるといふ一つの戦線に當面してゐたばかりでなく、英佛の影響を受けて多かれ少な

かれ反獨宣傳を行ふ數々の中立國の放送に取まかれてゐた。就中、その典型的なものはベルギーとオランダの放送局であつた。ルクセンブルクの放送局も、英佛側の廣告放送による支援によつて、一時は英佛側の反獨宣傳の前哨放送局たる役割を演じてゐた。

ドイツは先づポーランド進駐によつて、ポーランド放送民を空爆し、またはポーランド自らドイツの利用を虞れてこれらの放送局を破壊した。次いで、デンマークが占領されるに及んで、カルン・ドボルク放送局の態度が一變し、またノールウェー放送局も一部はドイツに占領され、一部はその空爆によつて壊滅に歸した。

このドイツの反撃に對應して、英佛側はベルギーとオランダの放送局を通じて躍氣になつて反獨宣傳を試みたが、遂ひにベルギー、オランダの放送局もドイツの手によつて沈黙せしめられた。

そのうちに、獨佛の停戰協定が成つて、フランスの反獨放送が沈黙したので、英國の放送局がひとり取殘されるに至つた。しかも英國はイタリーの參戰と共に、一年前とは反對に、北はノールウェーの最北フィンマルク放送局から南はイタリーのアジスアベバ放送局に至るまで、新興獨伊兩國の反英放送に取りまかれるに至つた。

テレヴィジョン

テレヴィジョンに關する權限は、まづ一九三五年七月一二日の總統第一告示によつて、航空大臣に移つり、航空大臣はこの權限を遞信大臣と協調して行使することになつた。

次いで一九三五年二月一日の總統第二告示によつて、テレヴィジョンに關する航空、遞信及び宣傳の三大臣間の權限分配の細目が規定された。これによると、航空大臣は航空、防空及び國防の保全のため必要は總ての處置につき權限を有し、遞信大臣は技術的發展及び市民の需要の總ての技術的事件の處置について責任を負ひ、啓發宣傳大臣は啓發宣傳の目的のためのテレヴィジョン傳播の演出形成に關して權限を有することになつた。

正式放送ではないが、一九三八年八月から、標準方式によつてテレヴィジョン放送が行はれてゐる。今次戰爭勃發當初は一時放送を中止してゐたが、間もなくまた開始した。

ウィツレーベンより放送してゐた時は走査線一八〇本であつたが、標準方式となつてからは、ヒットラー廣場にあるドイツチェランド・ハウス内にスタジオを設け、隣りのアメリカ・ハウス内に

送信機を設置し、ベルリン市内に放送してゐる。

フロッケン山頂テレヴィジョン放送所は試験中で、フェルトベルク放送所は建設中である。

テレヴィジョン電話はベルリンⅡミュンヘン間に開通してゐて、現在は走査線四四一本のもので標準方式に従つてゐるものと云はれ、その他ベルリンⅡハンブルグ間、ベルリンⅡケルン間、ニュルンベルクⅡウィーン間にも布設計畫中と云はれてゐる。

受像機はベルリン市内十ヶ所、ポツダムに一ヶ所の公衆受像所を設け一般に公開してゐる。

受像機はまだ正式に賣出されてゐないが、各社の自由製作を禁じ、五社の協力によつてドイツ國民受像機が製作されてゐる。

文藝政策

ドイツ文藝の擁護

「ドイツ文化建設闘争同盟」がナチス革命の精神と相容れない自由主義者や、平和主義者や、マルクス主義者を排撃したことは前にも述べた。

右翼の大衆作家ワルター・ブレームや、労働詩人マックス・バルテルなどの據つてゐた「ドイツ作家擁護聯盟」も、またフォイヒトワンガーや、エーリッヒ、ケストナーや、エミール・ルートヴィッヒや、劇評家アルフレート・ケルなどを除名した。

「ユダヤ人ジュス」の作者として有名なリオン・フォイヒトワンガーは一八八四年にミュンヘンに生れたユダヤ人であるが、彼は長篇「成功」に於て。ナチスの本據ミュンヘンを中心とするバイエルン地方の戦後の反動を文化の墮落と見做し、ヒトラーを初め實在のナチス黨の人物を揶揄したた

めに最も手ひどく攻撃された。

ミエール・ルードヴィッヒは一八八一年のプレスラウ生れのユダヤ人作家で、小説や戯曲もあるが、むしろビスマルクやワーグナーやゲーテやナポレオンの傳記作家として有名だつたが、好んでドイツ文化の弱點を突き、特にその「ウィルヘルム二世傳」はカイザーを前大戰の張本人であるかのやうに外國人に思はせた點で彈劾された。

アルフレッド・ケルルも一八六七年プレスラウ生れのユダヤ人劇評家で「ベルリナー・ターゲブラット」の劇評を擔當してゐたが、何ら建設的な批評を行はなかつた。

プロイセン藝術アカデミー改組

また、ナチスの政權掌握當時「プロイセン藝術アカデミー文學部」はユダヤ人作家に占據されてはゐたので、ナチスはこれに彈壓を加へた。

抑々、ドイツのアカデミーが、造形美術の保護獎勵を任務として創設されたのは一六九六年のこと、一七〇〇年には別に哲學者ライブニッツの唱導によつて學士院が設立されたが、文學者は長

いあひだその何れにも屬せず、一七八六年名譽會員として少數の文學者がアカデミイに入學し初めてに過ぎなかつた。このアカデミイに文學部が設けられたのは一九二六年秋である。

時の政府の文部大臣ルストがアカデミイ文學部を創設するために、ゲルハルト・ハウプトマン、トーマス・マン、ヘルマン・シュテール、ルードヴィヒ・フルダ、アルノー・ホルツの五人を招請したが、このうちハウプーマンは文學は個人の自由に任かすべきものであると云つて招請に應じなかつたので、後の四人の肝煎りで三十餘名の作家達を集め、シュールツを院長にして「プロイセン藝術アカデミー文學部」を創設した。

最初は自由に各種の傾向をもつ詩人や作家達を集めたので、自然内紛が勵へなかつた。間もなくシュールツが院長を辭し、モローがこれに代り、さらにハインリッヒ・マン、がこれに代つて院長となつた。そこで、アカデミイはハインリッヒ・マン、デーブリン等ベルリン在住のユダヤ文士に乗取られ、しかもかれらは左翼の擁護者であつたため、アカデミイ自體が左翼政治思想普及の機關のごとくなつてしまつた。かれらはドイツ語でこそ著作はしてゐたが、全くドイツ的な要素をもたない都會文學を作り、却つてドイツ的なものを輕蔑し、一九三一年には郷土文學者を罵つたことから、コンパンハイヤーや、ヘルマン・ヘッセ、エミール・シュトラウス等地方在住の純ドイツ系作家が噴

慨して脱退するに至つた。

三三年政權を掌握したナチスは、同年五月六日「プロイセン藝術アカデミー」に大彈壓を加へ、自由主義的・ユダヤ的巨匠を悉く非ドイツ的なりとして辭職を強要した。

最初に院長ハインリッヒ・マンが退去した。ハインリッヒ・マンやトーマス・マンはユダヤ人ではないが、反ナチ斯的行動が著しく、且つ作家としてもコスモポリタンな、しかも頽廢的な文學の代表者であるために追はれた。ついで、表現派の代表的詩人戯曲家と謳はれたフランツ・ヴェルフエルや、ゲオルク・カイザーや、小説家のヴァツサーマン・デブーリン、シュテファン・ツワイク、アーノルト・ツワイク、レオンハルト・フランク、アルフレット・モンベルト、フリッツ・フォン・ウンルー等、自然派表現派以後の世界的に文名を馳せた多くのユダヤ系の作家や詩人などが、或ひは自發的に或ひは強制的に辭去して、多くは國外に去つた。

かやうにナチスがユダヤ系の作家を排撃したのは、勿論、彼らが非ドイツ的非國家的だといふ政治的理由にもとづくのではあるが、一面に於て、かれらが國民の精神的健全さを蝕む頽廢的な都會文學の作家であつたがためであることは勿論である。

ドイツ文學アカデミーの新設

これらの作家が失脚したのを機會に改組が行はれ、會員の三分の二が新たにされ、名稱も「ドイツ文學アカデミー」と改められ、美術や音樂から完全に獨立した。院長には表現主義の代表作家でナチス戯曲「シュラゲーター」の作家ハンス・ヨーストが就き、會員中には自然主義系統のハウプトマン、ヨハネス・シュラーフ、マックス・ハルベや神祕主義的なヴィルヘルム・フォン・ショルツ、浪漫的な詩人シュミットボン、郷土主義的なヘルマン・シュテール、グスタフ・フレンセン等の老大家が相當ゐるし、また表現主義の流行兒ゴットフリード・ベンや新浪漫派のエドワルト・シュッケン・ルドルフ・ゲー・ビンディング等がゐて、ドイツ文學の良き遺産と實力が正しく承繼されてゐる。

新しく會員になつた作家のなかには、ナチスの勞働詩レルシュや、「冬」のグリーゼや、「土地なき民」のグリムや、神秘的作風のマックス・メルなどがある。

「ドイツ文學アカデミー」は「大きな決定的な問題についてドイツ文學の意見を同胞に告げる」

ことを任務とするが、文學的創作の最高水準を示すのが目的であつて、實際的活動は文部省の文化局に委ねてゐる。

「プロイセン藝術アカデミー文學部」に對する大彈壓に次いで、ナチスは三三年五月十日、ベルリン國立オペラ劇場廣場に於て焚書した。

また、ドイツ文化院著述院が成立するや、初代の著述院長で作家のハンス・フリードリッヒ・ブルンクは、ユダヤ系その他非國民文學清掃の目的を貫徹するために、一般の著作から非ドイツ的なものを一々リストに載せて、その全部または一部の出版を禁止した。

ドイツ文化院著述院の設置は、單に著作活動の範圍のみでなく、著作を國民に仲介する出版、書籍販賣の範圍からもユダヤ勢力を掃すると共に、作家並に出版者、書籍商をして、眞に國民文化財の生産普及の擔當者たる自覺を促がし、その活動を指導する機關となつた。

ドイツ著述院

ドイツ著述院は、作家として活動するもの、及び出版者、書籍商、貸本商その他ドイツ書籍の

生産、普及保護の仲介者として活動する總てのものに對する恒久的組織であつて、その任務はドイツ著述院に所屬する職業種類の恒久的整調と、ドイツ書籍の保護清淨である。

ドイツ文化述法(三三・九・二二)は、國民啓發宣傳省の職務範圍に屬する活動部門の從業者を總括して公法團體を設立すべきことを國民啓發宣傳大臣に委託し、(第一條)著述に關して設立さるべき公法團體はドイツ著述院と稱せらるべきことを明示し(第二條)、この公法團體の設立運用のために單獨または經濟大臣と共同若くはその同意を得て命令及び一般行政規程並に追加規程を發布する權限を國民啓發宣傳大臣に附與した(第六條七條)。

國民啓發宣傳大臣ドクトル・ゲッペルスは、右のドイツ文化院法の規定(第六條七條)に基き、經濟大臣ドクトル・シュミットと共同で、ドイツ文化院法第一施行令(三三・一一・一)を發布し、著述に關しては、本令施行當時現存してゐたドイツ著述家全國聯盟に公法團體たる性質を與へて、これをドイツ文化院と稱することとし(第一條)、且つドイツ文化院及びドイツ著述院はその所管領域内に於ける營業條件、企業の開始及び終了を定め、右領域内に於ける重要問題・特にその總括する活動集團間の契約及び狀態に關して、命令を發することが出来るものとした(第二五條)。

ドイツ著述院は、著述家集團と書籍販賣集團とによつて著述家及び文化仲介業者を總括してゐ

る。

著述家は、初めドイツ著述院成立後新たに設立された「ドイツ著述家聯盟」によつて院に總括されたが、後にこの聯盟、獨立性をもたない専門分科會に變更され、それ以來著述家集團としてドイツ著述院に直接所屬してゐるのである。

一、この専門分科會を結成してドイツ著述院に所屬すべき著述家は、非定期著作物の作者、著述家である。

(イ) 非定期刊行物たる新聞または政治的な雑誌の本文の作成に協働する文筆業者は編輯人法に所謂編輯人であつて、登録によつて全國新聞聯合に所屬して、編輯人集團としてドイツ新聞院に所屬する。

(ロ) 新聞及び政治的雑誌に掲載される長篇小説や短篇小説や詩の作家は、ドイツ著述院に所屬するのであつて、ドイツ新聞院には所屬しない。

(ハ) 演劇脚本の作家は作家としてドイツ著述院に所屬し、ドイツ演劇院には所屬しない。何故なら、「戯曲は演劇の藝術的一體の部分でないから」と云ふ建前に立つてゐる。

(ニ) ラヂオによつて活動する著述家はドイツ・ラヂオ院存在當時に於てもドイツ・ラヂオ院に所屬

しないで、ドイツ著述院に所屬する。

(ホ) 映畫脚本作家も亦ドイツ映畫院に所屬しないで、ドイツ著述院に所屬する。

(ヘ) 純然たる科學的著作物の著作者はドイツ著述院に入らない。何故なら「科學的著作物の著述は科學・教育・國民教育省の職務範圍に屬する科學的勞作の一部に止る」からである。

(ト) ドイツ著述院に所屬すべき種類の著作家であつても、内職として著作活動をするに止る者は原則としてドイツ著述院に所屬することを要しないが、しかしその者の著作活動が世間的には引退してゐても尙且つその者の活動の重點となつてゐる場合には、これは本職の著述家と看做され、ドイツ著述院に所屬しなくてはならない。

二、次に書籍販賣集團を結成してドイツ著述院に屬すべき文化仲介業は次の通りである。

イ、非定期著作物の出版者

定期刊行物たる新聞及び政治的雜誌の出版者は、その印刷物が編輯人法の規定に含まれるか否かに關係なく、原則としてドイツ新聞院に所屬するのに反し、非定期的著作物の出版者は原則としてドイツ著述院に所屬する。但し、こゝにも亦例外がある。

1、美術出版者はドイツ造型美術院に所屬する。

2、脚本の出版者はドイツ演劇院に所屬し、ドイツ著述院には所屬しない。何故なら、ドイツでは「通常、演劇脚本の出版者は、自分の出版した脚本の上演權に注意してゐて、劇場の經營に密接に結びついてゐるばかりか、時には積極的にその脚本の上演や脚本作成にすらも關與して、劇場と有機的に一體をなしてゐる一方、殆ど例外なしに、脚本の出版者が脚本以外の著作物の出版に従事しない」といふ實情によるのである。

3、同じ事情から、樂譜出版者も亦ドイツ著述院に所屬しないで、ドイツ音樂院に所屬する。

尙、同一の出版者が定期刊行物以外に不定期刊行物をも出版してゐる場合には、活動の重點を置かれてゐる方を管轄する院に所屬する。

ロ、書籍商

書籍を専門に販賣する者と、別種の商品と併んで書籍を販賣する者とがあるが、後者にあつては書籍販賣に重點がおかれてゐる場合にはドイツ著述院に所屬する。

ハ、書籍仲次販賣、代理書籍販賣、書籍卸販賣及び大古本屋。

ニ、書籍仲介者。

ホ、貸本屋

へ、公衆に著作物を媒介することに關係をもつ局及び集團が、團體にして會員たるものとして、ドイツ著述院に編入される。こゝで問題となるのは著作者の權利であつて、これを認知するために左の三つがドイツ著述院に所屬してゐる。

1、文藝作品の權利を認知するための「ドイツ著作物の著作権利用社團」

2、歌詩作歌の權利を認知するための「ドイツ歌詩作歌職分團」

3、戯曲の上演權を認知する「脚本作家及舞臺作曲家聯盟」がある。

三、しかし、ドイツ著述院は、著述家集團及び書籍販賣集團を總括するだけで満足するものではなく、さらに、文學賞の財團及び分配者團體（ドイツ著述院組織に關する告示の第一一條）文學會及び講演開催者（同第一〇條）、藏書家組合（同第六條）ドイツ職業文庫を管理下においてゐる。

尙、ドイツ著述院長は三三年から三五年までは作家ドクトル・ハンス・フリードリッヒ・ブルンク、三五年以後作家ハンス・ヨーストがこれに變つた。

ナチスが國民社會主義的著作物擁護のために、三四年四月一六日總統代理ルドルフ・ヘスの告示によつて「黨檢閲委員會」を設置したことは既に述べた。黨檢閲委員會の設立後、政治・經濟・文化並に一般に世界觀的問題を取扱つた著作物や、ナチスの指導的人物の歴史的敘述特に傳記的敘述によつてナチス運動の本質及び目標に觸れた著作物は全てこの黨審査委員會に提出されることになり、黨審査委員會はこれらの提出された著作物につき、それが實質的に正しいものであるかどうか、またナチスの文獻として適當なものであるかどうか、さらに特殊な目的のために推薦さるべきものであるかどうかを審査し、所謂國民社會主義的著作物の擁護を任務とすることになつた。

右の黨檢閲委員會に提出された著作物で、同委員會によつて異議を申立てられたものに對してはドイツ著述院長は三五年四月一六日の命令によつて、その頒布を禁止した。

しかし、右の國民社會主義的著作物の範圍に屬さず、從つて黨檢閲委員會に提出する必要のない著作物で、有害にして望ましからぬものがある。ドイツ著述院長は、三五年四月二五日の命令を以て、「ドイツの文化生活を一切の有害にして望ましからぬ著作物から清純に保つことがドイツ著述院の責任である」といふ建前から、ドイツの文化生活にとつて有害にして望ましくない著作物の頒布を禁止した。

以前にも一九二六年一月一八日の「低級猥褻なる著作物に對する年少者保護の法律」があつたが、これは全く自由主義的な、警察取締的性質を有するもので、成年者に對しては有害にして望ましからぬ著作物の選擇は自由に任されてゐた。これはナチスの文化政策と相容れない。そのために三五年四月一〇日にこの法律は廢止された。

ところで、三五年四月二五日のドイツ著述院令によれば、ドイツ著述院は國民社會主義的文化意欲を危くするやうな著作物をリストに作り、このリストに載つた著作物が公開の圖書館や一切の形式の書籍商によつて流布されることが禁じられ（第一條）、さらにこのリストには收録されないが年少者の手に入ることが望ましくない書籍をもう一つのリストに作り、このリストに載つた書籍がシュー・ウィンドーに陳列されたり、移動書籍によつて賣り擴められたり、十八歳未満の年少者に交付されたりすることが禁じられた（第二條）。

この二つのリストに收録する申請はドイツ著述院に提出するのであるが、この申請に基いて、ドイツ著述院長は國民啓發宣傳大臣と協議の上で決裁し、第二のリストの場合にはさらに科學・教育・國民教養大臣の同意を得て決裁をする（第四條）。純粹の科學的著作物はこのリストに載せられないのが原則であるが、科學・教育・國民教養大臣の希望または同意があれば、純粹の科學的著作物であつ

ても、第一のリストに收録することが出来る（第五條）。

標準出版契約の創設

ドイツ著述院長は、出版者が實務に不器用な著作家を搾取することを阻止する一方、出版事業の經濟的必然生を斟酌して、三五年六月三日「著作家出版者間の標準出版契約に關する命令」を發令した。

第一部の一般的及び契約前の義務に於ては、相互に事務の接渉に當つて職業上の名譽を尊重し、著者は著作を印刷可能の狀態に於て出版者に手交し、原稿には著者の姓名住所を明記し、また出版者が原稿を入手した場合には遲滯なくその旨を證明し、その原稿を検討してみても出版の意志の起らない場合は直ちにこれを返却すべきことを規定し、なほ出版者の原稿検討期間は、書面による別段の同意がなければ四週間を越えることが出来ないとしてゐる（第一—五條）

第二部の契約締結に際しての權利義務に於ては、契約の當事者は院令附記の出版契約標準を利用する義務を負はされてゐるが、個々の具體的な場合に特殊の事情に應じて標準規定を變更すること

が許されてゐる、但し、その變更は院令の精神に一致する限り有效であるに過ぎない(第六條)。著者の謝禮は著作物の賣行きに據つて算出さるべく、その率は當事者の自由に委されてゐるが、併し原則として賣上高の一二・五%以下に下ることが許されない。但し、初版二千部に對してはそれ以下に下ることも出来るが、それでも一〇%以下に下ることは許されない。また大衆版といふやうな、院令の精神に反しない適切な理由がある場合には、初版のみでなく、それ以後の版についても一二・五%以下に下ることが許される(第七條)。さらに、出版者は出版契約によつて著者に對し少くとも次の五作品または以後三年間の作品を優先的に自己に提供させる義務を負はせることが出来るとして、出版者にオプションを認めてゐる(第八條)。

貸 本 屋

書籍は書籍販賣商によつて販布されるだけではなく、書籍とは全く關係のない、例へば理髮師とか、煙草商とか、ありとあらゆる商人の手によつて賃貸されてゐたゝめに、貸出される書籍を監督することが困難であるばかりか、どうかすると極めて非衛生的な状態におかれてをり、その上、こ

の種の貸本が過剰を來たしてゐたので、第一にドイツ著述院はその新設立を命令によつて阻止した。三五年二月七日の「貸本營業保護のための第五命令によつて、貸文庫の新設及び再設を禁じ、また貸文庫の譲渡はドイツ著述院の一員または一員たることを拒絶される懸念のない者に譲渡される場合にのみ有效とし、貸文庫の移轉にはドイツ著述院長の許可を要するものとした。第六命令によつて、貸文庫の新設及び再設は三六年三月末日以後はまた許されることになつた。

次に貸本の最低貸賃料を設定して競業を妨止し、貸本營業の經濟的基礎を鞏固にすると共に、貸本商をして一般には入手困難な且つ高價な書籍をも文庫に加へ得るやうにした。

百貨店、連鎖店、均一ストアの貸本屋兼業は禁止され(三五・三・二五)、貸文庫には監視所が設置された。(三五・四・六)

優良娛樂文學促進

ドイツ著述院は「優良娛樂文獻促進のための院令」(三五・七・二四)によつて純娛樂書の出版者、特に「貸本屋關係出版者組合」及び「大衆文學出版勞働團體」に所屬する出版者がこれらの文學作

品を出版するに際して豫め、大衆文學出版者勞働團體によつて設立された相談所にその旨を届出でるやうに要求した。

「書籍商」及び「書籍商人」の名稱保護

ドイツ著述院長は「書籍商及び書籍商人の名稱保護のための院令」(三五・二・六)によつて、「書籍商」及び「書籍商人」の名稱またはこれらの字句を使用した名稱を使用し得るのは、ドイツ著述院所屬の管轄専門團體たる全國ドイツ書籍商聯盟の會員たる資格を得た事業または個人、及びドイツ文化院中ドイツ著述院以外の院の會員たる資格を有し且つ書籍販賣副業として全國ドイツ書籍商聯盟の副業及び小營業の名簿に登録されてゐる事業または個人に限られることになつた。

獻本の制限

院は「獻本に關する告示」(三五・一・二一)によつて、官廳、黨機關及び私設機關が一切の藏書蒐

集の目的を以てドイツの出版者に獻本寄贈方を求める弊風が増してきたのに鑑み、出版者の經濟的基礎を擁護するに努めた。この院令によつて、寄贈本送附願ひは原則として申出人が編輯局の名に於て當該書籍の批評を擔當してゐる場合に限り認めることとし、また寄附のため若くは書評を目的としない人間への寄贈本送附は原則としてドイツ著述院の署名ある申込の場合に限つて行はれるものとした。

書籍商の後進の教育

書籍商の後進養成のためライプチヒにドイツ書籍商學校が設けられ、こゝで四週間の養成を受ける。こゝで書籍に關する傳統的な職業別の施設を教へられる外、文學者の會合に出席させたり、演劇を観せたりして、具體的にドイツの文化領域に通曉させるやうに努めてゐる、この四週間の養成が終ると、州毎に、書籍商によつて行はれる徒弟試験を受けなくてはならぬ。この試験に合格して初めて、書籍商としてドイツ著述院に入會する資格が得られるわけである。

移動式の戦線書籍業

一九三九年戦争勃発と共に、政府は「戦線へ書物を送れ」といふ一大宣傳運動を起し、著作管理局はその蒐集活動を大々的に行つたが、同時に移動式の戦線書籍業が創設され、その最初のものは早くも三九年一二月に戦線に出發し、戦線圖書運搬車が十四臺ほど使用され、現地には常置の書籍店が九軒開業した。戦線の兵士は給料の一部を割いてこれらの店から購入するのである。勿論、移動戦線書店の開業經營には資本が必要であるが、全國組織指導者ドクトル・ライかこの資金を調達した。かうして、戦線書籍業者はポーランドの奥地やハンメルフェルストからピアリッツに至るまで仕事に出かけ、戦線の兵士達に歓迎された。

ナチスの詩・小説・戯曲

ナチス革命前には、ドイツ文學史上空前といはれるほど、小説が優位を占め、大量に生産された

が、それらは多く理智的であり、従つて感激とは反對のものであり、大儒學者的に皮肉であるばかりか、下界の淫蕩な風格を憶面もなく寫すことを事として、屢々虚無的に走つた。このユダヤ的文化破壊者達は、ナチスによつて、アスファルト文學の名のもとに撃滅された。

ナチス文學の精神は「血と土」即ち民族と祖國のために自己を捧げる精神である。この人間の靈性を尊び、烈々たる獻身的精神に貫かれるナチス文學に於ては、浪漫的の詩精神が勃然と起るのは自然であり、昨日の文學が即物的で知性的であつたのと大いに趣きを異にする。また、昨日の文學が近代文明の爛熟したアスファルトを酵母とし、都會的な雜居のなかに益々個人意識のみがとぎ澄まされ、個人の運命が、個人の情緒が、個人の官能や感覺が最高に評價されたのに對して、ナチスの文學は民族及び祖國の運命を個人のそれに優位させ、生活を虚構に、内容を技巧に優位させた。しかも、このナチス文學の傾向は既にドイツ文學のなかに流れてゐたもので、すでに革命前から地味な素朴なドイツ郷土藝術運動が起つてゐて、素地を作つてゐたのである。それ故、「土と血」の文字は、ナチスの掛聲ではじまつたものではなく、ナチスの文藝政策はドイツ文學の遺産のうち最も偉大な、そして最も好ましい部分に太陽と水を與へやうとするに過ぎない。この故に、ナチスの文學は、ナチス成立よりも舊く、ドイツの文化遺産を包藏してゐると云ふべきであらう。

ナチスが國民主義文學の詩神として尊敬してゐるのはシュテファン・ゲオルゲである。ゲオルゲは最も純粹な意味での新浪漫主義の啓發者であつて、十九世紀末の頽廢の時代に際會して、嚴格莊重な詩風を以て國民の精神生活の刷新を計り、特に大戰から戰後の混亂期を通じてつねに現代の最も峻嚴な警告者であつた。最初彼は言語と藝術の革新者たることを以て任じ「頌歌」(一八九〇)、「巡禮者」(一八九一)、「アルガバール」(一八九二)、「羊飼ひと懸賞詩の書」(一八九五)、「たましひの年」(一八九七)、「生命の絨氈と夢と死の歌」(一九〇〇)を發表したが、これらの作品を経て次第に神祕的思索への發展を示し、さらに「七番目の指環」(一九〇七)と「同盟の星」(一九一四)に至つて現實に近づき、前大戰の時代的大轉換期に直面しては、詩人の文化的啓發者としての使命を主張し、詩の政治的指導性を強調した。最後の詩「新國家」(一九二九)に於て彼は新しい高貴なドイツ民族による國家建設を豫言した。これに感激したヒトラーは、ナチスの政權樹立と共にゲオルゲを國民文學の指導者に招かうとしたが、三三年一月四日彼は長い詩作の生涯を閉じた。

ゲオルゲに次いでナチスの忘るべからざる詩人はディートリッヒ・エッカート(一八六八—一九二三)である。ヒトラーは彼の功績を讃えて、「我が闘争」を彼に獻じ、「詩作に於いて、思索に於いて、また最後の行動に於いて、自己の生涯をドイツ民族の覺醒に捧げた最も優れた者の一人」と云

つてゐる。ショーペンハウアーの哲學の洗禮を受けたエックハートはマルクシズムをユダヤ的精神として拒け、一九一八年大戰終末の年には自ら週間雜誌を發行してマルクシズムとユダヤ主義に對する公然たる鬭争を開始した。一九一九年の夏、エックハートは五一歳でドイツ勞働黨に入り、ヒトラーと協力して黨機關紙として「フェルキッシェ・ベオバハター」紙を手に入れ、一九二一年八月一日から同紙の主筆となり、彼にかはつてローゼンベルクが主筆となつてからも協力した。彼には「家庭の父」(一九〇五)や「ホーヘンシュタウフェン家のハインリッヒ」(一九一三)などの作品があつたが、ナチスに投じて以後の詩人的活動が目覺ましく、幾多の鋭い政治詩を發表した。一九二三年四月二〇日の總統の誕生日を祝賀した詩や、黨に贈つた「目醒めよドイツ!」と「嵐の歌」とはナチス鬭争史に永遠に輝く記念碑であらう。一九二三年一月九日ヒトラーとルーデンドルフの卒ゆるナチス黨員の示威行列を觀るためにローゼンベルクと共に「フェルキッシェ・ベオバハター」の編輯室から軍司令部近傍のオデオン廣場に出かけたが、はからずもあの怖るべき慘事に逢遇、捕へられて六週間の拘禁の後、一九二三年二月二六日、ナチス・ドイツの曙光さへも見ないで、ベルヒテスガーデンに歿した。

今は亡きパウル・エルンスト(一八六六生れ)は新しい民族秩序、新らしい民族的ドイツ精神の

偉大な讚美者であつた。エルンストは神學、哲學、國家學、經濟學などを學び、一時社會運動に従事したが、後その信仰を失ひ、九七年以後ベルリンに住み、アルノー・ホルツと交はり、文學に獻身し、ヴィルヘルム・ショルツと共に新古典主義運動に従事したが、ショルツと共に戯曲の主人公として意志の強い人間を主張したことは有名である。「幸福への狭い道」(一九〇三)、悲劇「デメトリオス」(一九〇五)。「カノッサ」(一九〇八)、「ブルンヒルト」(一九〇九)、「ニノン・デ・レンクロス」(一九一〇)、自傳的發展小説「廢跡の縁」(一九三三)「ラウテスタールの幸福」(一九三三)などがある。エルンストにとつては、秩序をもつた十三世紀前半までのドイツ皇帝時代が理想で、後年のブルジョア經濟的世紀は利己心と人間孤立の時代を生んだのである。彼は眞に民族共同體に基礎づけられた新秩序の世界を希求して國民社會主義に走つた。

エルヴィン・ギドー・コルベンハイヤーの作品の目指すものは、新しい生の宗教と民族共同體の倫理であつて、彼の勞作「バラツェルズ三部曲」(一九一七—一九二五)と「パウヒュッテ、現代形而上學の諸要素」(一九二五)は正にナチスの文學竝に哲學を準備したものと云へやう。彼は一八七八年ブダペストに生れ、ウィーン大學で哲學士の學位を得たが、彼にあつて古代ドイツの生命説と近世自然科學的思考とが見事に結晶し、彼獨自の超個人的、神祕主義的自然哲學が生れた。彼にとつて

個は全體の手段たるに過ぎず、共同體こそ個の交替を超えて永久に榮えるのである。この哲學は「バラツェルズ三部作」のなかに遺憾なく闡明されてゐる。「バラツェルズスの幼時」「バラツェルズスの運星」「バラツェルズスの第三帝國」より成るこの三部作に於いて、彼はバラツェルズスといふファウスト的なドイツ人を創造し、近世黎明期の社會を背景にして彼の哲學を表明する浩瀚な散文叙事詩であつて、ゲーテのファウストにも比すべきものとさへ云はれてゐる。作品としては「英雄的熱情」(「ジョルダー・ブルーノの悲劇」の改題)、戯曲「橋」(汝の中の法則)、史劇「グレゴールとノインリッヒ」があり、ほかに「我が解放闘争とドイツ詩藝術」(一九三一年の講演集)などがある。

「土地なき民」(一九二六)のハンス・グリム(一八七五―)の存在は大きい。十數年に亘る南アフリカでの商人生活は彼に外國在住のドイツ人及びドイツの植民地問題に對する眼を開かせた。本國に歸つて前大戰を體驗し、後六年間の勞作をつゞけて「土地なき民族」を公けにした。こゝには、故郷にあつてパンを得られず、社會民主主義者として外國行きを余儀なくされた主人公コルネリウス・フリーボットがアフリカ植民地經營者として辛酸をなめ、初めて國民の生活問題、民族生活圈問題、植民地問題を深く認識するに至る有様が如實に描かれてゐる。生きるべき場所を失つたドイツ人の苦惱を余すところなく現はした謂はゞ民族の書である。グリーには「西南アフリカ短篇集」「沙漠行」

「オレワージェン・ザーガ」「カルの法官」などの作品があり、さらに現實遊離の文士氣質を容赦なく排撃した「文士と現代」(一九三一)やイギリスを攻撃した「余の英人觀」(一九三八)など優れた論文がある。

「土地なき民」で想起されるのはレオンハルト・フランクの「三百萬人中の三人」(一九三一)であるが、失業して海外に渡りながら、やはりそこにも生きる道を見出し得ずに母國に戻つてくる三人の運命に託して、三百萬のドイツ失業者の運命を語るものである。

エミール・シュトラウス(一八六六―)は「祖國」(一九二四)によつて、當時の思潮に反抗して國民主義を主張したが、一九三四年には「リーゼンシュピールツォイク」を完成した。これは最高のドイツ的傳統に立つもので、そこに看取されるのは新しい生活を追求める共同體、變革せる生命ある倫理性、生の自然的改造などである。シュトラウスの作品には南ドイツの郷土的色彩が顯著で、早くから清新な短篇を發表してゐた。「エンゲル館のあるじ」(一九〇〇)や「友人ハイン」(一九〇二)や「赤裸な男」や「いのちの十字路」(一九〇四)やがある。

ヘルマン・シュテアー(一八六四―)はシュレージェンの生れで、先輩ゲルハルト・ハウプトマンと二年しが違はない。彼自身ハウプトマンに私淑して「レオノーレ・グリーベル」を獻じてゐるし、

また彼の作品にはシュレージエンの方言を喋る下層階級の間人が多く取扱はれてをり、自然主義的現實性が色濃く感じられる點もハウプトマンに似てゐるが、しかし彼の本領はシュレージエン地方の神祕主義のもつ神への感情と闘ひつゝ神を追求する果敢な精神のなかに現はれてゐる。このドイツ宗教性の最も見事な表現は、ウェストファーレンの一農夫を扱つた「聖農場」(一九一八)がある。他に「葬られた神」(一九〇五)、「最後の子供」(一九〇三)、童話「ヴェンデルン・ハイネルト」(一九二三)、物語「提琴作り」(一九二六)などがある。三三年にはフランクフルト・アム・マイン市のゲーテ賞、三四年にはヒトラーの驚章を贈られたが、四〇年九月オーバーシュライバーハウで卒中の發作を起したと傳へられる。

ヴィルヘルム・シェーファー(一八六八)はアネクドートの大家で「逸話集」(一九一一)は簡素平易な様式のなかにドイツ民族の大きな運命的な相貌を描き出してゐる。「ツヴィングリ」(一九二六)「ケベニツクの大尉」など主として物語を書き、形而上學的な宗教的なものに對して、現世的なドイツの一面を代表してゐる。

ハンス・カロッサ(一八七八)はナチスのドイツ文藝アカデミーに招かれながら辭拒したが、三八年にはゲーテ賞を贈られるなど、最大の信頼を受けてゐる。「詩人はもうよい加減にその一人よがり

の體驗を仰々しく大切がつたり、氣分の裡に彷徨したりすることをやめるがよい。自分が民族の豫言者、代辯者、使者、警告者、訓戒者、助言者でないと識る者はむしろ沈黙するがよい」とカロッサーは云ふ。彼は民族と宇宙の深部への洞察者として今日のドイツのために多くを貢獻した。處女作「ドクトル・ビュルゲルの運命」(一九一三)は二十世紀の「若きヴェルテルの悲しみ」とまで云はれ、また大戦の従軍日記「ルーマニア従軍」は戦争文學の記念碑として後世まで残る傑作である。

一九四〇年一月第六回目のライン文學賞を贈られたクルト・ランゲンベック(一九〇五―)は現在ミュンヘンのバイエルン州立劇場の脚本部長である。エルバーフェルトに生れ、少年時代を工場に過したが、劇作に志し、ハインリッヒ六世を扱ったアレクサンダー物を書き、悲劇「謀反人」によつて独自の境地を開拓した。最近作は「剣」である。

一九四一年一月ベルリンの首府文學賞を贈られたクルト・クルーゲは、四〇年七月二九日に死んだが、その「魔法のヴァイオリン」は傑作。

同日、フリートリッヒ・グリーゼ、ヘルバート・フォン・ヘルナーの二人も首府文學賞を授けられた。フリートリッヒ・グリーゼ(一八九〇―)は數多くの文學賞や榮譽を得てゐるが、首府文學賞は農民生活を扱つた最近作「白髪」に與へられた。グリーゼはドイツ現代作家中最も強く大地を踏み

しめてゐる一人で、神祕的で且つ平凡な彼のメクレンブルグの郷土風物が作品に美しく取扱はれてゐる。ヘルバート・ヘルナーは若く有望な作家で、「ツァーの女馭者」「最後の弾丸」のやうな物語があるが、首府文學賞を授けられたのは四〇年度の小説「灰色の騎士」でこれは農夫ヴェツルムバの物語。

毎年ブランシュヴァイクの自治團體の出すドイツ文學國民賞は四〇年度はハンス・ヴェナティアーとウルリヒ・ザンダーの二人に贈られた。ヴェナティアー（一九〇三）はプレスラウの生れで、その地の高等師範の助教、小説「ヴォークト・バルトルド、東部行列車」で授賞。ウルリヒ・ザンダー（一八九二）はアンクラームの生れで、授賞作品は「海濱の人」。

戦争小説「クレーリの樹」の作者ヨアヒム・フォン・デア・ゴルツ、「境界と時代の間」のハインリッヒ・ツイリッヒも特筆すべきナチス作家である。

女流作家の大御所では、リカルダ・フーフとイナ・ザイデルを挙げねばならぬ。

リカルダ・フーフ（一八六四）は詩集（一八九四）で詩人として名聲を確立したが、「ルドルフ・ウルズロイの追憶」（一八九二）「凱旋樹」（一九〇二）で小説に轉じ、洗練された心理描寫と彫刻的な美しい表現を特徴とする。「ミヒアエル・ウンゲル」はナチスの代表作。他に「ガリバルディ物語」（一九

〇六―七)「ワルレンシュタイン」(一九一〇)等の歴史小説があり、文藝評論では名著「浪漫派」がある。なほ、リカルダの兄ルードルフ・フリーフ(一八六二―)も小説家で、「リッターヘル」(一九〇八)が代表作。

イナ・ザイデル(一八八五―)も初めは抒情詩人として現はれたが、「洪水」(一九〇二)を境にして小説に移り、「迷宮」(一九二二)「申し子」(一九三三)等愛國的感情に溢れてゐる。「レンナッカー」(一九三八)は宗教問題を扱つた歴史小説。

チェコのスデーテンドイツ人作家フリードリッヒ・ボートンロイドは「ボヘミアの水はドイツに注ぐ」によつて三八年度のシュツッガルト・ドイツ國民文學賞を授けられた。

演劇政策

ドイツ演劇院

ドイツ演劇院の設立前、既に演劇方面には、登録組合、ドイツ舞臺協會、ドイツ舞臺從業者聯合團體、登録組合藝術主腦部聯合、登録組合ドイツ合唱者舞踊家聯盟、舞臺出版業者聯合、登録組合ドイツ舞臺著作家作曲家聯合會、登録組合ドイツ職業音樂家統一聯盟などの諸團體があり、先づこの整理清算のために特別委員が任命され、演劇關係の諸部門に亘つて統合聯繫の仕事が行はれた。

即ち一九三三年八月初めにベルリン國立劇場の俳優であり、ドイツ舞臺從業者聯合團體の會長であつたオットー・ラウビンガーの斡旋に依つて、これ等の七つの専門團體が糾合され、ここに暫定的にドイツ演劇院が成立し、總裁としてオットー・ラウビンガーが選ばれた。そしてこの暫定的な組織が三三年十一月一日公布のドイツ文化院法第一次施行規則第一條により、そのままその名を繼承

して官制的な文化院の一院となり、三三年十一月一日より事務を開始し、ラウビンガーが初代演劇院總裁に任命された。

但し、右の七團體のうち、最後に挙げた登録組合ドイツ職業音楽家統一聯盟は後に分離してドイツ音楽院へ吸収され、残りの六つの専門團體もその後名稱を變更したり組織替へを行つたりした。

演劇院の構成

さてドイツ演劇院は、會計や法律事務の外に五つの部門に分れて仕事をする。一は舞臺専門分科會、二は演藝専門分科會、三は舞踊専門分科會、四は見世物専門分科會、五はドイツ舞臺脚本出版者組合である。第一の舞臺専門分科會は初め登録組合ドイツ舞臺協會、ドイツ舞臺從業者聯合團體登録組合ドイツ合唱者舞踊家聯盟の三つの團體であつたが、三五年の夏これ等の三つの専門團體を總括して舞臺専門分科會となつた。

この舞臺専門分科會には、劇場監督、上級演劇監督、劇場支配人、舞臺監督、俳優、後見役、照

明係等と、それから當初問題になつた劇場樂長、歌劇俳優、最後に演劇の藝術家養成に當る演劇教師がこれに所屬する。これに反して、舞臺美術、舞臺音樂などを業務とするものは、夫々造型美術院、音樂院の所屬であつて、しかも演劇院所管の仕事をなし得るし、また歌劇の場合には獨唱家、作曲家及び作曲作品は音樂院の所管であり、歌劇俳優だけが演劇院に所屬する。また、脚本作家は院に所屬せず、著述院に所屬する。

演藝専門分科會は、藝人、ヴァリエテ及びサーカス企業者を包括してゐる。舞踊専門分科會は、すでに獨立の團體をなしてゐた社交ダンスの教師及びナチス教員聯盟に編入されてゐたダンス教師を以て結成されてをり、舞臺舞踊家及び寄席藝人舞踊家を含まず、舞臺舞踊家は第一の舞臺専門分科會に、寄席藝人舞踊家は第二の藝人専門分科會に所屬してゐる點は注意を要する。

見世物専門分科會は、見世物師、人形使ひ等がこれに合一されてゐる。最後は、ドイツ舞臺脚本出版者組合である。この舞臺脚本出版者組合がドイツ著述院乃至新聞院に所屬しないで、ドイツ演劇院に所屬せしめる理由は、「演劇脚本の出版者は普通自分の出版した脚本の上演權を同時に注意するので、このことによつて劇場の經營と密接に結びつき、屢々脚本の上演及び脚色に關與することすらあるので、有機的に劇場に所屬するし、その上、演劇脚本を出版する者は専門的で他の書籍の

出版に手を出さない」といふ實情による。

演劇院の、仕事

一言にして云へば、ドイツ演劇院の任務は、演劇文化にたづさはる職業人の文化的、社會的及び經濟的地位境遇の促進を企てることである。この院が管掌する實務の主要なものを挙げると、先づ一般の觀客を集めて開催される演劇類の許可であつて、これは後述するやうに三四年五月一五日の演劇法によつて演劇院の重大な仕事となつた。次は、演劇への政府からの給付金、娛樂税に關する事務、それからこの方面の職業人の養成、更に職業人の地位の紹介契約及び老齡者の保護といふやうな職業人の職業的生活全般に關する保護援助乃至監督の一切を管掌してをり、これ等の事項に就いては、文化院法第一次施行令第二五條の規定に基いて院自體が色々な命令を公布してゐる。

演劇學校や俳優學校は獨逸には非常に多い。演劇學乃至劇場學の獨立講座の設けられてゐる大學が既に十指にあまり、その他に演劇のみを専門としてゐる國立の學校又は私立の學校が數多ある。演劇博物館、演劇圖書館も相當にある。かかるものに對し國立の場合には國家の立場から色々世話

をし、私立の場合には適當の補助を給して誘導してゐる。これらの學校及び類似機關の監督と指導の仕事がこの院の所管である。また、一人前の獨立の職業人になる資格の認可も院が與へる。

また職業人の保護としては雇傭契約の不更新又は解約の場合に院がこれに協力する權利を留保し、無言の立役や補役に持役を與へることを禁止したり、大ベルリンのため最低給料の制定に関する特別の命令などを出してゐる。

尙ほ獨逸演劇院の外廓的施設の重なるものを舉げると、第一にはゲッペルスの主唱によつて設立された『舞臺従業者保善會』がある。これは劇場人が老齡のために、もはやその職業を行ふことができなくなり、しかも老後の世話をしてくれるものがないといふ場合の慰安所ともなり保護をしてくれる設備ともなる。これと並んで、航空大臣ゲーリングが個人的な寄附をして建てられた、やはり老後の俳優達のみじめな生活を救済するための『ワイマール收容所』がある。また『藝術家感謝會』はゲッペルスの寄附に基いて創立されたものであるが、これは必しも年をとつたものばかりでなく、現に生活に困つてゐる藝術家達及びこれから修業して行かうとする若い者であるが、その修業の資金を持たない貧困者に對する一つの援助機關である。その他に大學の中に設けてある演劇學の研究所、次に青年達を以て組織され主として學校劇の向上普及を企てつゝある『演劇聯盟青年演

劇團體」もやはり院の外廊の一役を勤めてゐる。

演 劇 法

一九三四年五月一日に公布された演劇法の根本の目標は、演劇を公の任務の擔任者に變へることである。同法理由書に依れば、藝術はただに美學的性質のみならず、また道德的任務の仕事であり、公の利害といふ點からみれば、單に警察的監督の對象として満足すべきではなく、積極的にこれを指導すべきである。特に演劇は民族に對する廣大且つ強力な影響を與へる手段として一切の藝術のうちで卓越した地位を占めるものである。

それはシラーによる「道德的施設」として演劇を觀察する意味である。この新しい觀察は、新しい國家が獨自の世界觀、獨自の高い道義的理念を有し、従つて大衆に對するあらゆる作用はこの世界觀への奉仕におかれることを要求せねばならぬといふ事實の歸結である。

この演劇法によつて、キャバレーの催し物以外、戲曲、歌劇オペレッタの上演には、許可が必要になつた。即ち、演劇上演の開催者たる經濟的擔任者は、公法團體を除くの外、許可を要すること

になつた。ところで、演劇開催者には常設的開催者と臨時的開催者の二つを區別して、許可手續を異にしてゐる。即ち一年間六回以上演劇上演をなすものを常設的開催者として、これに對する許可はドイツ演劇院が直接統一的にこれを扱ひ、一年間六回以下の演劇上演をなすものは臨時的開催者として、これに對する許可手續は地方分權的である。

ところが、三五年六月公布の演劇法第二次施行令によつて、演劇開催者は、さらに各上演につき舞臺監督を任命せねばならぬことになり、且つその任命には認可が必要となつた。

この演劇開催者の許可及び舞臺監督の認可の規準になるのは、申請者の藝術的性向及び道義的性向であるが、經濟的富力も審査の對象とされ、これによつて、開催者の社會的義務、藝術家への給料及び作者の興行料請求權が確保されるわけで、疑はしい場合には事前に供託をなさしめて許可を與へるやうにしてゐる。

尤も、素人芝居については、成る程度まで文化的價值があり、觀劇の娛しみを與へるものであれば、これを獎勵する意味で、特に簡易な手續で許可を與へることになつてゐる。

次に重要なことは、演劇法の第五條で、啓發宣傳大臣は演劇の文化任務の實現のために必要だと考へれば、一定の脚本の上演を一般的に又は個別的に拒否することが出来るし、さらにまた、企業

の擔任者に不當の不利益を及ぼさない限り、一定の脚本の上演を要求することさへ出来る。

この規定は、恐らく國民社會主義的觀點の最も明瞭な表現であらう。この觀念に従へば、文化關係に於ける國家の活動は、もはや消極的に有害なものを阻止することに盡きるのではなく、積極的な指導を表現するものである。しかしかやうな干涉は、勿論少しも用ひられないのが理想で、干涉が不必要になるやうに演劇開催者を教育するのが根本の目標である。この目標は、實に國民啓發宣傳省に設けられてゐるドイツ演劇顧問の仕事と相俟つて達成されるのである。

上演脚本の指導について云へば、その根本方針は宣傳省演劇部の『獨逸脚本顧問』ドイツスド라마トウルクの指定に基いて定まる。所謂檢閲の仕事は治安風俗等に害あるものに對してだけは警察當局が行ふが、文化的な處理は一切檢閲的取締には入らない。かやうなものは上演してよろしい、かやうなものはいけないといふやうな文化的指導の仕事は、どこするのかといふと、それが即ちドイツ脚本顧問の仕事である。

かかる内容の演劇、かかる傾向の演劇は上演してはいけないと、豫め上演の事前において指圖を與へる。そのほか、さらに積極的に、かかる内容の、かかる傾向のものはやらなければならぬ、ぜひやつて欲しいと註文を出すのが脚本顧問の仕事である。映畫に於ける豫備檢閲とほぼ同一の機構

である。

脚本顧問の傍には、作家出身の助手が二人、それから學者達から成る委員會があつて援助する。現在の顧問は二年前に演劇院長官から轉じたライナー・シュレッサーであり、その傍に作家ウォルフガング・フォン・メッラーとジークムント・グラッフがゐる。

ナチスの演劇活動

A ティンクブラッツ劇

ドイツ演劇院は異常な熱意を以て、所謂『ティンクブラッツ劇』の建設に努力してきた。ブラッツは廣場の意味であるが、ティンクは古代ゲルマン人がその種族の間で軍事、政治、裁判等の重大な事件を決するために行つた集會の神聖な儀禮の名である。ティンクブラッツ劇とは、一口に云へば野外劇であつて、現存の一般營利劇場及びこれによる文化の中央集中の弊害を打破せんとするものであり、藝術至上主義をかなぐり棄て、最大多數の國民の生活を高め上げて行くための一つの祭り、儀禮としての演劇たるべきものである。

ティンクブラッツ劇の特色は、戰鬪的、英雄的で、國民意志が表白され、嚴肅で神聖で信仰的であるといふ方向へ伸ばされようとしてゐる。リヒアルト・オイリンガーの「ティンク劇デーゼ」によれば、ティンク劇は大膽に現代を永遠化するものだ、今なほ流れてゐるものを祝祭とするのだ。一箇の詩人が演ぜられ、一箇の作品が上演されるのではない、祭りの日が祝はれるのだ。そしてその演劇には國家が立ち現はれる。國民の行爲が、創造の行爲と犠牲の行動が劇となるのだ。

國民はその犠牲を見、その犠牲を崇める、しかもそれを崇めるのは劇の所作によつてなのだ、と。そして、三四年六月五日、クルト・ハイニッケの「ノイローデ」によつて名實共に最初のティンク劇が上演され、その後リヒアルト・オイリンガーの「ドイツ・パッション・一九三三年」とか、ニールンツの『勞働のシムフォニー』とか。ウィルフガング・メラールの「フランケンブルクの骰子」などの價值あるティンクブラッツ劇が上演された

ナチスは、このナチス新演劇ともいふべきティンクブラッツ劇に對しては、非常に慎重な態度をとり、先づティンクといふ名稱を建物に使用する場合には、國民啓發宣傳大臣の許可を受けねばならぬし、またティンクブラッツ劇と銘打つて發表せんとする作品は、ドイツ脚本顧問により文書を以て認可される必要があり、更にその上演には、ドイツ國演劇院の許可がなければならぬものとさ

れてゐる。

その上、この演劇運動は、一應現在の營利演劇に對抗はしてゐるものの、藝術の實行は飽迄も藝術的天稟を持つ専門的教養を有する人に任かされねばならず、素人の好事的振舞、ディレクタンディズムは藝術の破壊であり、藝術のアナーキーであるといふナチスの見地から、ドイツ國演劇院總裁はティンクブラッツ劇に素人が登場することを禁じ、そのかはり國民の中の若干が、合唱團として訓練されてこの演劇に加はることになつてゐる。

B 野 外 劇

ナチス以前には、野外劇は投機的な企業者によつて濫用されてゐたが、ドイツ國演劇院の初代總裁ラウビンガーはこれに着目し、普通劇場、室内劇場とはおのづから異つた、しかも純正な演劇として國民の生活を豊かにする一つの文化的行爲へと高めることに努力した。しかし、野外劇向上に最も効果的であつたのは『ドイツ全國野外劇民衆劇聯盟』の成立で、これは一口に云へば、營利の意圖を捨てて、藝術保護と國民教養の意味を以て、特に收入の少ない庶民のためを考へ乍ら、ドイツの公益的な野外劇及び民衆劇の促進をはかることを目的とするもので、國民啓發宣傳大臣の指揮監督の下に立つてゐる。

一九三八年には野外劇場の数は二百を越え、観客の数も亦著しく増大した。かくの如き發展は當局の指導宜しきを得た結果でもあらうが、ナチス・ドイツ人の簡素にして非技巧的なもの非虚飾的なものへの憧憬と、野外劇とが一致するところ多いためでもあらう。

前のティンクブラツ劇はナチス世界觀の極めて濃厚なものであるが、野外劇は一般演劇として取扱はれ、ナチスはこれを以て國民の廣い範圍への演劇奉仕の一方法と見做してゐる。

この野外劇に對しても、ドイツ國演劇院總裁はティンク劇に對すると同様、素人の出演を禁じてゐる。これもまた、野外劇場は純粹に演劇でなくてはならぬといふ見解から發してゐるのではあるが、野外劇は専ら夏季に行はれるものであり然も夏季には職業俳優の約五分の四は失職してゐる、それを救済する心づかひも一つの動機になつてゐることは確かだ。

C ワンダービューネ 巡回舞臺

ドイツには一五〇程の市立劇場、三四の公益のための劇場があるが、地方の常設劇場を持つてゐない町村團體も數多い。これらの町村團體が「歡喜力行團」などの世話で、聯繫し協力して、巡回舞臺（ワンダービューネ）を組織する。この巡回舞臺が約四〇ある。然も各巡回舞臺が、一つの俳優團だけでは足りなくなり、今では五つの俳優團を持つものすらでき、全體では巡回舞臺の俳優團

は一〇〇もある。初めこの俳優團を作るときには今まで存在してゐた田舎廻りの旅興行の組織と座員とをそのまま使つて、それを適當に改造し、補充して作つたのもあつたが、時には全く新しく作つて失業俳優を活用したものもあり、今では獨逸全體の俳優の一割五分がこの巡回舞臺の方面に利用されてゐるので、失業俳優はそれだけ少くなつた。

この巡回舞臺は地方町村團體が經營するのであるが、それを指導するのはドイツ國演劇院であり、そして一方歡喜力行團やヒットラー・ユーゲントが見物人の世話をしてくれることになつてゐる。その經費が收支償はない場合に、町村團體が補填することになつてゐる。

かやうにして院巡回舞は獨逸内で劇場のない地方山農漁村へ出かけて行き演劇を享樂させてゐるわけであるが、巡回舞臺の出し物は、低級な、民衆に迎合して格を下げたものではなく、ゲーテ、シラーの古典作品、ハウプトマンの現代物、悲劇もやれば喜劇もやるといふ風にして、よい立派な演劇が國民一般の間に行き亘る方法を、ドイツ國演劇院が企畫し、また地方自治團體がこれに呼應し、その企畫をどしどし實現し藝術文化の普遍化と水準向上に努力しつつある。

C 人形芝居

ところが、劇場などのない、巡回舞臺すらも稀にしか訪れることのない邊鄙な農山漁村に於ける

藝術的な娛しみ、娛しみによる教化の唯一の可能な演劇的な仕事——この機關として人形芝居の活用に着目したのはヒットラー・ユーゲントであつた。

フォン・シーラッハは、ヒットラー・ユーゲントの文化勤勞の一つの目的は地方人の都會流出の防止のために奉仕することだと語つたが、これは人形芝居だけではなく、巡回舞臺その他についても云へることであらう。

ともかく、ヒットラー・ユーゲントは人形芝居の藝術的利用に着手し、人形芝居のために全ドイツ中央事務所をシトツツガルトに設け、人形芝居の内容の方面、藝術的技術的方面の改良向上を研究し指導する機關とし、凡ゆる地方と密接な連絡をとりながら働くやうにしてゐる。その方向の指導をドイツ國演劇院が與へる。

演 劇 人 の 養 成

ドイツ國演劇院は俳優の職業相談所を設け、俳優志願者が、果してその職業に適した才能と素質をもつてゐるかどうかを吟味し、助言を與へる。そしてこの適性試験を通過した後に初めて専門教

育を受ける。

この教育を授けるものは、官立及び公立の俳優學校がある。かやうな機關は、これまでも若干存在してゐたが、近年しきりに増設され、例へば一九三七年には、ミュンヘンに官立俳優學校が、三九年にはボフムに公立のウェストファリア俳優學校が開かれた。専門的技藝と知識のほかに、人間の養成、特にナチス世界觀に基く教育が心がけられてゐることは勿論である。

また演劇に關する學問的教養の機關としては、大學に於ける演劇學の研究設備の外に、一般的乃至特殊な演劇圖書館及び演劇博物館が完備してをり、獨立した演劇學研究所、又は演劇講座を有する大學としては、ベルリン、ミュンヘン、キール、ケーニヒスベルク、イエーナ、ケルン等がある。就中ケルン大學は、ナチス・ドイツの演劇學に於いて最も活躍してをり、ミュンヘンのクラ・ツィークラー演劇博物館と共に、ドイツ國演劇院の外廓團體の一員となつてゐる。

これらの大學、圖書館、博物館は、謂はば演劇の知的方面に於ける活動、例へば演出家、脚本監督、劇評家の養成と教養向上のために動いてゐる。

演劇關係者の保護

演劇職業人に對するナチスの保護政策もほど完璧に近い。その一つは俳優に對する義務保險加入制度であつて、これによつて俳優が職にはなれた場合の生活に備えさせてゐる。當局は保險料捻出の手段の一つとして、一九三八年一月から「文化喜捨」とも云ふべき「クルツールグロッシュン」の制度を實施して、文化政策の兵士たる演劇人に對する感謝のしるしとして、觀客から觀覽料の外に五片を寄附させるやうにしてゐる。

次は「藝術家への感謝財團」で、これは保險にも入ることの出来ない老齡の俳優のために設けられた謂はば養老機關で、一九三六年ゲッベルスの寄附二百萬馬克で設立されたが、三七年には更に百五十萬馬克増額されたといふ。

また、同じく老俳優の救済機關としては、航空相ゲーリングの寄附になる「ワイマル養老院」がある。さらに「舞臺従業者保善會」は、これまたゲッベルスが設立した財團で、主として舞臺人の居住の世話、轉地休養の設備と慰安を行つてゐる。

映畫政策

ドイツ國映畫院

ドイツ國映畫院の前身は臨時映畫院である。臨時映畫院は新ドイツ最初の職業職分的な法律である一九三三年七月一日の臨時映畫院の設立に關する法律によつて設立されたものであるが、それが文化院法第五條によつて映畫院法と改稱された。

この映畫院は、ドイツの映畫及びその配給に協働する者及び企業の結果である。

映畫院は次の十部から構成されてゐる。

一、總務部、これには法律、會計、人事の三部がある。

二、政治及び文化部。これは國內新聞報告所、外國新聞報告所、全國フィルム文書課の三部がある。

三、映畫創作の藝術的保護部。これには映畫劇顧問局と割當局の二つがある。

四、映畫經濟部。ここでは、經濟問題の外に外國爲替、著作権、勞働法及び稅法に關する諸問題が取扱はれる。

五、映畫専門分科會部。これには映畫製作指揮者(製作助手を含む)、映畫監督(監督助手を含む)、映畫美術家、撮影監督(撮影助監督)、撮影技師(助手、スチルマンを含む)、録音技師(助手を含む)、編輯主任及び助手、俳優、メイクアップ係、道具係、衣裳係の團體が所屬してゐる。

六、映畫製作専門團體部。これには劇映畫製作、映畫對外貿易、映畫撮影所の三部がある。

七、國內映畫配給専門集團。これにはベルリン、ハンブルグ、ミュンヘン等五つの地區集團に分れてゐる。

八、映畫劇場専門集團。これにはベルリン以下十四の地區集團がある。

九、技術専門集團。これにはフィルム加工、フィルム特許、フィルムの技術的研究の三つの集團委員會がある。

一〇、文化映畫、廣告映畫及び映畫館専門集團。

以上の外に、有限責任映畫信用銀行、有限責任一般映畫受託會社、有限責任映畫検査會社、ドイ

ツ映畫技術會社、割當局 映畫紹介所の六つの施設が屬してゐる。

映 畫 院 の 機 構

一、事前檢閲制度

一九三四年二月一六日の映畫法第一條は「ドイツに於いて製作される劇映畫は、映畫化の前はその草稿及び臺本を映畫劇顧問に提出してその判定を受くべし」と規定して、映畫所顧問をして、一切の作劇問題について映畫産業を援助し、映畫製作者に助言を與へ、特に時代精神に逆行する材料の取扱ひを早期に阻止させるやうにした。

我が國の映畫法もまたこの制度を採用した。但し、この第一條の「判定を受くべし」といふ規定は、三四年一月一三日の改正法により「判定を受くることを得」と改められた。そして改正法第二條では、ドイツ映畫顧問は、提出された草稿を後援するに足るものと認めたときは、製作會社の申請に基いて、助言及び援助を與へることができるようになつた。

二、檢 閲

公共的な教育又は研究施設に於て學術又は學術上の目的のために上映する場合を除き、國內上映のためには検閲を受ける必要があるものとし、また検閲の対象となるのは映畫そのものだけではなく、題名、テキストの用語並に廣告にも及ぶ。検閲の基準は、映畫が國家の重大な利益又は公秩良俗に反しないか、民族社會主義的、宗教的、道德的又は藝術的感情を毀損させないか。野卑又は風紀紊亂の惧れないか、ドイツの威信又は國際關係を危胎に陥れないかの點である。

これに牴觸すれば、不合格になるが、しかし合格の決定を與へる場合、單に牴觸しないといふ消極的態度ではなく、検閲所は積極的にその映畫が國策上價值ありや、學術上、國民教育上、文化上價值ありや、について積極的に意見を具申しなくてはならぬ。

この第八條の規定は三九年四月一日の第七次映畫法施行令第一條によつて更に擴張、強化された（三九年四月五日效力發生）。また、十八歳以下の少年向映畫と一般映畫を區別し、検閲所は職權を以て判定すべきものとした。

第四次及び第五次映畫法施行令は、さらに、教育映畫の認定及び宗教大祝日祭日に上映するため、の映畫の認定の仕事を検閲所に負はせた。

検閲所の裁決に對しては不服の申立が出來、映畫上級検閲所が最終的裁決をすることになつてゐ

るが、上級検閲所は不服申立人の不利益になるやうな裁決を下すことも出来る。

それから一旦許可を得た映畫でも、啓發宣傳大臣は上映を禁止して、再検閲を命ずることが出来るばかりか、三五年六月二八日の第二次改正法によつて、啓發宣傳大臣は、許可及び再検閲に左右されずに「公の安寧の緊急なる理由に基き」映畫を禁止し得ることになつた。

三五年七月三日の映畫法第六次施行令は、三三年一月三〇日以前に検閲に合格した一切の無聲映畫を失効させると共に、同年同月までに合格した發職映畫をも、三五年一月三十一日を以て失効せしめた。

三、割當令

三六年七月一二日の外國映畫上映に關する命令は、ドイツの映畫製作を保護する目的から、外國映畫の輸入を統制し、割當局をして、各年度に輸入すべき劇映畫の數量を確定し、その七分の四は前年度に於けるドイツ劇映畫の配給量に應じて配給者に分配し、七分の二は映畫上映權を外國に賣渡した者に、輸出販賣收入金の割合に應じて與へ、残りの七分の一は苛酷緩和準備數として、啓發宣傳大臣の自由處分に留保されてゐる。尙、この外國映畫上映に關する法律及び映畫法は、三八年六月一日の命令によつてオーストリアに移入され、また三九年六月九日の命令によつてズデーテ

ン領に移入されることになつた。

四、非アリア人の排除

割當が必要なのは、外國映畫即ち一切の非ドイツ映畫である。三六年の割當令によれば、ドイツ映畫であるためには、ドイツ人若くはドイツ法によつて設立され、ドイツ國內に所在する會社によつて、ドイツ國內に於いて製作され、且つその構想、脚本、音楽がドイツ人の創作になり、製作指揮者、演出者、及びその協同者が全部ドイツ人でなければならぬ。

しかも、ドイツ人とはドイツの血統及び國籍を有するものとしてある。従つて、この割當令は、一方非アリア俳優、製作關係者をドイツ映畫から追ひ出すことにも設立してゐる。しかし、例へば偉大な外國の藝術家をドイツ映畫に關係づける必要から、もしも文化的又は藝術的見地から至當であると認める場合には、啓發宣傳大臣は、この要件を任意に緩和し得ることになつてゐる。

五、映畫信用銀行

これは獨立映畫製作者に對して、資金の融通を行ふ機關であつて、製作者の負擔額三〇％に對して七〇％の補助を與へることを原則としてゐる。

六、映畫の製作業、配給業、興行者

これらは院の許可がなければ營業することが出来ない。巡回興行者も同様である。

七、なほ、映畫法は二本立興行を禁止し、ニールス映畫及び文化映畫を強制上映させてゐる。

ドイツ映畫アカデミー

啓發宣傳大臣ゲッベルスは、ドイツ映畫アカデミーの設立を提案し、三八年三月一八日の「ドイツ映畫アカデミー設置に關する總統兼宰相の告示」第一條に基き「映畫制度特に映畫藝術のナチス精神による發展を確保するために、文化映畫製作所を有するドイツ映畫アカデミーを國の營造物として設置」することになった。同アカデミーは啓發宣傳大臣の監督に歸する。

ドイツ映畫アカデミーは、三八年三月四日ベルリン近郊ノイバベルスベルクのウファ所有地に建設され、翌三九年四月竣工を見た。ゲッベルスは開所式に臨み「このアカデミーに入學した諸君は、國民への奉仕は我々の生活並に仕事を以て最高の名譽であり、最高の義務であることを充分に自覺して貰ひたい」と強調した。

ゲッベルスは、なほ、三八年三月四日の演説に於て、映畫アカデミー開設の趣旨に言及、その任

務とこれに對する絶大な囑望とを次のやうに述べた。

「次に映畫藝術家の後進の問題であるが、自分は映畫の後繼者を舞臺のみに求めることが根本的な誤謬であることを強調する。われわれは若い才能の發見を二度と偶然に委ねることは出来ない。そこで、われわれは映畫アカデミイを創設することにした。

アカデミイは映畫理論の學問的體系化を行ふために作るのではなく、若い才能がドイツ映畫製作の第一課から學び得られるやうに作らうとするのである。われわれが映畫アカデミイを後進者の専門學校として建設し施行する場合、ドイツらしい精密さで彼らを養成するであらう。撮影所の實際家は教師になるであらうし、授業は講堂よりも撮影所のなかで遙かに多く行はれるであらう……。

近い將來の映畫の發展のために、自分は次の三つを要求する。すなはち、何事かを爲し得る能力者の計畫的養成、アカデミイに招聘された教師達による才能ある後進の組織的教育、そして最後に映畫アカデミイ自體の急速な組織的藝術的建設である……。

自分はこの映畫アカデミイに招聘される人達に一つの切實な要求として、映畫技術の最高の完成を望む。

われわれは如何なる領域に於ても他國の優越に堪えることは出来ない。天賦の才能をわれわれは

持ち、組織的な條件は作られた。金銭的手段も準備が出来て、われわれにはたゞこの可能性を利用することが残されてゐるだけである。われわれを映畫の領域に於て世界的存在たらしめることを妨げるものはない筈である。勿論、無用の長物は振り落さなくてはならぬ。かうすれば、無能な連中によつて、眞實の能力者が道を塞がれるやうなこともなくならう。

今や藝術家は前進あるのみである。偉大なる作家、監督、脚色者、俳優は發言し、彼らに期待し、彼らを理解する國民に語らなければならない。自分はさう信ずる。來年度の映畫製作に作家が映畫人と協力して呉れるほど諸君にとつて有難いものはない。未來は諸君のものであり、諸君は祖國を有つてゐる。諸君はその手のなかに若い燃えるやうな心臓を有つてゐる。」

このアカデミイの任務は、ドイツ映畫製作に従事する青年に、藝術的、技術的並に經濟的並びに經濟的方面の實際的訓練を與へることで、藝術、技術、經濟の三分科に分れ、各分科には一人の専任教授がをり、その下には、第一線に立つて現に活躍してゐる各方面の代表者がゐて、その指導に當つてゐる。

附屬文化映畫製作所

アカデミイ附屬の文化映畫製作所は「文化映畫に關する一切の問題についての研究、教授及び相談を任務とし、さらに文化映畫製作者の教育施設及び實際の工場を包括」してゐる。文化映畫製作所のパンフレットには、最も重要な文化映畫素材の組織的一覽表として、世界觀、藝術、科學、哲學、自然科學、技術の六項目が掲載されてゐるが、實に整備を極めた研究振りであり、設備も世界に冠たるものがある。

尙、パンフレットによつて、研究所の目的を詳しく説明しやう。

「映畫の力は不斷に増大して行くが、その間にあつて世界のあらゆる國民が益々多くの意義を認めつゝあるものは文化映畫である。文化映畫は教育及び娛樂上の表現手段として缺く可からざるものになつた。殆んど毎日文化映畫には新しい使命が與へられ、之が解決は特にねばり強く、徹底的、且つ組織的であることを特色とする獨逸人の創造的精神の得意とする處である。これは獨逸文化映畫の規模及び効果を見れば一目瞭然たるものがある。少し數字を擧げてみると、一九三五年度及び

一九三六年度に獨逸文化映畫市場に提供された演劇的内容を含まざる映畫の中、獨逸製作のもの二五〇〇、外國產のもの二〇〇である。然し乍ら獨逸文化映畫が全世界の熱烈なる好評を博するに至つたのは、ひとり數量上數多の生産を爲し得た爲許りではなく、特に深き印象を與ふるに足る構成力を有する爲である。

然も文化映畫の表現能力は未だ漸くその緒に着いた許りである。映畫技術一般、特に學術映畫の進歩發展頗る急激なるものがあるから、文化映畫の今後の發達は益々好都合になる。之と同時に新しき國家政策的認識に促されて殆んどあらゆる國民が文化映畫を一層利用する様になる。文化映畫を國民教育及び確信的世界觀宣傳の貴重な手段と見、之を國民間の理解を計る有效手段と認めるのである。

この爲文化映畫製作者に課せられてゐる重大な責任と國家政策上の義務とが如何なるものかを考へれば、偉大なる地位を占むる獨逸國民が全體の利益の爲に此の方面に一切の力と經驗とを傾注せんとする理由も自ら明白である。獨逸映畫アカデミイ附屬文化映畫製作研究所は斯る目的に奉仕せんとするものである。

文化映畫製作研究所の任務は文化映畫に關する一切の問題に付ての研究、教授及び相談、更に文化映畫製作者の教育施設及び實際の工場を包括する。

一、製作。研究所の中心點を占めるのは製作工場である。獨逸映畫アカデミイの計畫に依り、研究と教授とを、實地と最も密接に結合する爲、此處では優秀なる文化映畫製作の前提をなす一切の施設を自由に利用することが出来る。

二、研究。獨逸映畫アカデミイと協力し、絶えずあらゆる技術方面の改良を試験し、必要ならば之を實地に移す爲研究調査を行ふものである。其の外アカデミイの他の設施と共同し、文化映畫の具象性を高めその經濟性を高める如き新方法を自ら考案する。文化映畫の劇作術、販賣可能性、統計及び歴史に關する問題も亦この研究範圍に這入るのは勿論である。

三、相談。實地と研究とに依つて集めた經驗は専門相談所を設けて研究所來訪者に利用せしめ、獨逸國及び全世界の文化映畫製作者に之を賦與する。

四、教授。然し何よも先づ最も慎重に行ふものは講義及び之と同時に實地上映に依る後繼者教育である。何となれば研究所は後繼者に正しき専門能力と包括的知識とを與へて初めて將來の文化映畫の發展を最もよく促進する様になるからである。

五、フィルム蒐集。製作、研究、相談及び授業を補充する大切な仕事に外に猶二つある。獨逸文化映畫製作の四分五裂を避ける爲研究所は世界のあらゆる文化映畫の蒐集、登記を行ふ。

六、協力。以上と關聯し正規的聯絡網と通信會員とを設けて文化映畫の包括する殆んど無盡藏の素材に關し専門家側より質問ありたる場合直ちに實際的な解答を與へる様にしてゐる。

諸大學、技術、獸醫學、藝術及び其他の單科大學、内國及び外國の研究所、獨逸學術振興カイゼル・ウイルヘルム協會並びに大動物園、水族館、生理學研究所、各種の博物館及び蒐集所と當研究所は活潑に經驗の交換を行つてゐる。學術及び工業關係の會議には研究所では何時も所員を出席せしめてゐる。

ロ、施設

以上の任務遂行の爲研究所には娛樂映畫の製作とは根本的に相違する數多の特別施設が設けられてゐる。準備室及び撮影室の外に次の如き特別施設がある。

特別施設。微速度映畫、顯微鏡映畫、レントゲン映畫、一齣撮影映畫。

更に注目すべきは色彩映畫の研究及び實施並に現像及び焼付技術(字幕製作を含む)を行ふ施設である。各種光學、カメラ、照明具、乾板、音響施設等の倉庫もここに屬する。勿論この方面では獨

逸映畫アカデミイの他の施設と密接な連絡をとつて仕事をするが、文化映畫製作研究所特有のものとしては尙ほ次のものを挙げなければならぬ。

一、映畫圖書館。文化映畫製作研究所圖書館では入手し得る限り一切の文化映畫のネガチーフを蒐集する。

獨逸國では聯邦映畫會議所令により義務的に供給される。外國の文化映畫の焼付若くはダブネガチーフは購入又は交換に依り入手する。然しこの蒐集は記録保管のみを目的とするのではなく、むしろ之等の文化映畫を映畫圖書館といふ施設に依つて實際に活用することを目的とする。それ故ネガチーフの外に上映用プリントも保管する。文化映畫製作の際これを參考とし、之により同一素材を用ひて新しい文化映畫を果して製作し得るや否やを直ちに決定し得るのである。内容及び映畫技術的性能別に總括的登録を爲す爲に原物オリジナルの見當らざる文化映畫では少くともカードの上だけに之を記入する。

二、案内所。案内所は各題目に適當な製作者を専門的に紹介する。かかる方法により文化映畫の種々なる種類及び多種多様の素材に適當な人物を何時にても容易に使用することが出来る。撮影手續及び器具選擇方面の相談に關しても右と同様である。

三、後繼者。本相談所が將來文化映畫界に働かんとする人々を保護することは勿論である。これは獨逸映畫アカデミイ相談所との密接な協力の下に行はれる。特にアカデミイ學生の文化映畫専門班のものは文化映畫研究所に於てのみ行はれてゐる實地練習、研究科及び演習科に出席しなければならぬ。

四、教育。本研究科所で行はれるあらゆる授業に付ては本研究所の講堂に一切の實物教授設備が出来てゐる。然します第一にアカデミイ學生は實驗室及び撮影所の研究及び實地と連絡をとつて研究をする。外部及び外國の學者、研究家及び文化映畫製作家の特別講義はアカデミイ學生及び實際家の専門智識を深める機會を與へる。

教 育 と 映 畫

文化映畫が國民の科學知識の普及に利用されてゐることは勿論であるが、所謂教育映畫の製作利用も、ドイツでは徹底的に行はれてゐる。

教育映畫は學校映畫と大學映畫に分れてゐる。學校映畫の製作には、教育家と文化映畫製作者

と、必要があれば、さらに専門家が参加する。教育映畫局は、自ら教育映畫を製作しないで、文化映畫製作者に依頼して、同時に學校教師を教育的見地から、協働者として任命する。

大學映畫の製作は、文化映畫製作者に依頼するのみではなく、教育映畫局所屬の撮影部・特殊技術部に於て、教授研究所長の指導の下に製作され、單に講義用のもののみではなく、研究用として高速度映畫、微速度映畫、顯微鏡映畫又はレントゲン利用の映畫が盛んに製作されてゐる。

一九三八年三月四日即ち、映畫アカデミイの定礎式の行はれた日、ゲッベルスは、ドイツ映畫院第二回大會に於て、次のやうな演説を行つた。

「映畫は極めて若く現代的で、従つてまた極めて發展性のある藝術である。映畫が國民の社會生活のために一體どこまで伸びるものであるか、直ぐには推量し得ないほどである。今日映畫ほど議論の多い藝術は他にはない。國家の政治問題に關する議論に於ては、從來多くの場合、その本質的な主題にまで鋭く迫り得たものであるが、映畫の問題に關する議論に於ては、今なほ相變らずその表面に觸れてゐるにとどまり、映畫固有の問題に突入することはなかつた。

自分は、實際専門家の前に映畫固有の問題を提出することを自分の主要課題とし、ドイツの映畫藝術のこの問題が明確に認識され、論議の俎上にのぼると共に、近い將來に於てそれが解決される

ことを確信してゐる。」と前提し、ナチスの映畫が如何にあるべきかについて、次のやうに語つた。

「重要なのは、生活から遊離して若くは解放されて、映畫が假象、幻想の藝術を事とする權利をも、つかどうか、或はまた、映畫はあらゆる假象、あらゆる幻想にどこまでも抗して生活と結びついてゐなければならぬかどうか、の問題である。自分はもちろん後者を肯定する。

若しも自分がこの見地から昨年度の映畫製作について批判のメスを下すならば、來年度には、より一層映畫を生活に、その生動する事象に、行動する人間に、近づけて行かなくてはならぬ。

自分は優れた俳優が持役を充分に演ずることによつて、拙劣な映畫を效果多いものにしようとする試みを排撃する。われわれは、生活を映畫に近づけるのではなく、映畫を生活に近づけるために眞面目な努力を拂はなければならない。映畫のなかの人間は、もつと強い形で生活の徳と熱情を持つてゐなければならぬが、その徳は純眞であり、その熱情は眞實のものであることが必要だ。

葛藤の行はれる舞臺が容易に想ひ泛べられることも條件の一つである。そして、映畫はドイツ的な葛藤ばかりでなく、ドイツ的な環境、ドイツ的な場景をもつことが必要である。

映畫のなかで職業人を皮肉に取扱ひ、ひいて各職業に疑惑を與へることは禁物である。

われわれは生活の葛藤を懶惰な人間に扮して演ずることを許さない」

さらに、映畫批評に觸れて、

「ドイツ映畫について僅少の専門知識すら持つことなく、批評のために批評をする人達に抗議する。今や責任に對する勇氣と力を持つ人物が要求されてゐる。論議より實行が必要である。困難を知る者のみが批評をすることが出来る。すべて批評家は、批評が必要とされる時、批評せんとする相手の立場につき得るだけの準備がなければならない。でなければ、批評は不要であるばかりか、邪魔であり、破廉恥であり、僭越である」と。

音樂政策

ドイツ的な音樂

ナチス政權確立と共に音樂でもユダヤ系ドイツ人の排斥が行はれ、表現派のシェーンベルヒ一派、新即物派のヒンデミット一派の追放となり、三六年出版のヨアヒム・モーゼルの『音樂史教科書』の如きはメンデルスゾーン、マーラー、シェーンベルヒ等ユダヤ系音樂家の名をドイツ音樂史のなかから全然抹殺するに至つた。

かくしてドイツの現代音樂は急轉換をして、啓發宣傳大臣ゲッベルスが三三年六月の『ディ・ムジーク』の卷頭で「續く十年間のドイツ藝術は英雄的になり、鐵の如き浪漫的なものになり、偉大なパトスを持つた國民的なものとなるだらう」と述べたやうに、ナチス音樂はバッハ、ベートーヴェン、モーツアルト、ウェーバー、シューベルト、シューマン、ブラームス、ブルックナー等偉大

なドイツ的なものへの反省私淑となり、意識的には再びヴァグナーを出発點として浪漫的音樂を盛り返さんとしてゐる。この新浪漫派音樂運動を代表するのがパウル・グレーナーである。

ドイツ音樂院

文化院法によつて、ドイツの音樂生活に協力する個人及び團體は總べてドイツ音樂院に所屬することになつた。

即ち、作曲家、あらゆる音樂家、指揮者、演奏會の企業者及び仲介者、樂譜出版者及び販賣人、唱歌會、一般竝に宗教合唱團、及び素人オーケストラ、手風琴ハーモニカ團、バンドニオン團、マンドリン・ギター團、チテル音樂團等の所謂國民音樂團體のほか、さらに三四年五月一日の文化院法補充法によつて諸般の音樂施設、音樂教授施設及びこれらの施設に働く人々が、ドイツ音樂院に所屬してゐる。

但し、樂器製作及び販賣は院に所屬しない。しかしこれは音樂管理と密接な利害關係があるので、院に専門的な勞働協同體を設け、院の所管範圍に於いて樂器營業に對し文化政策上の意見を具

申させるやうにしてゐる。

ドイツ音楽院は八部からなる。第一部には、音楽教師や素人音楽家の外、創造的音楽家並びに演奏的音楽家が所屬し、四つの職業集團に應じて、作曲家専門分科會、獨唱者獨奏者専門分科會、オーケストラ専門分科會、娛樂音樂専門分科會の四つの専門分科會がある。

第二部は音楽教育専門分科會。第三部は青年音楽及び國民音樂。第四部は合唱團と教會音樂團でドイツ合唱團、ドイツ國混聲合唱團、福音教會並に喇叭吹奏専門分科會の三つが從屬する。第五部は音樂會制度で、これには盲人音樂局と音樂著作權利用のための會社スタグマが所屬してゐる。第六部は樂譜事務と樂器事務であつて、この部の下部組織としてはドイツ樂譜出版者團體とドイツ樂譜販賣商團體と勞働協同體全國音樂院、樂器營業の三つがある。第七部は經濟で、これには娛樂樂隊中々紹介所が附屬してゐる。第八部は法律で、顧問局即ち音樂會のための官廳施設である。いひかへれば、都市の音樂受託者を保護することを目的とするドイツ音樂院とドイツの市町村會とに共通な施設である。

右のうち「スタグマ」について簡単に紹介すれば、一九三三年七月四日音樂演奏權仲介法が出來て、歌詩の有無を問はず、苟も音樂作品を演奏する權利を營業として仲介するためには啓發宣傳大

臣の認可を要することになつたが、一九三四年二月一五日の同法施行令はこの音楽演奏権の營業的仲介の權能を有する唯一の官廳としてスタグマが認可されたのである。これにより、從來の仲介業者間の競争を一掃した外、國外にあつてドイツ音楽のユダヤ的要素に援助を與へてゐた仲介業者の活動の餘地を無くした。その上、スタグマは經濟的に弱い作曲家の地位の向上を計り、文化政策的な力をなしてゐる。勿論、作曲家も演奏權取得者もスタグマを利用すべき義務はないが、併し作曲家としてはスタグマの提供する特權を確保することに大きな利益があるので、一般には自發的にこれを利用してゐる。

ところで、ドイツ音楽院の第一に當面した問題は職業音楽家の失業救済問題で、その解決策の一つとして音楽家のための勞働條件を規定した。第一次施行令により、私設音楽教授の最低謝禮を規定し、一九三六年六月三〇日のドイツ音譜販賣のための賣買條令、素人オーケストラと職業オーケストラとの不正競争防止のための規定、外國勢力侵入防止のための匿名禁止等の規定が眼につく。院は音楽文化革新の目的から、人口五千人以上の都市には漏れなく音楽管理官を設置した。この音楽管理官は、特に地方の風俗習慣を考慮して、音楽の普及發達を監督することを義務とする。「國民性に適ふ音楽は、究極に於いて偉大な藝術作品の永久的淵源である」といふ考へ方である。

一九四〇年一月ドイツ音楽院總裁ドクトル・ペーター・ラーベ教授の公表によれば、音楽的職業に従事する婦人は二萬三千五百人、中一萬六千七百九十人は音楽教師で、男子音楽教師よりも壓倒的に多く、残りは娯樂音楽家三千人、器樂專門家七百九十五人、オルガンの專門家二百人、それに素人歌手約二十萬といふ割である。

音楽家の養成

音楽家の養成施設としては、四〇年度に於いて、まづ五月一日グラーツに文部大臣によつて『音楽教育大學』が開設された。

この學校は學校音楽研究所、音楽學校長及び同教師のためのゼミナール、青少年、一般國民、音楽個人教師のためのゼミナールの外、青少年、大衆音楽指導者及びドイツ女子青年團のための特別講座を持つてゐる。また、三九年に新設された「モーツアルテウム大學」は四〇年になつてザルツブルグの音楽院及び青少年、大衆音楽學校を併せ、全校一千百名の生徒を收容するドイツ最大の音楽學校となり、五月九日、同じく文部大臣臨席の下に新教室開所式を行つた。

またビュツケブルクとゾンデルスハウゼンには、國防軍樂隊員養成のために「國防軍音樂學校」が設立され、同じ目的からフランクフルト・アム・マインに「海軍音樂學校」設立の準備が完了したし、農民の音樂愛好者のためには、ザルツブルク及びチロルに農山村音樂學校二十八校が新設された。

一九三六年には、音樂の後進保護助成の目的を以て「青年藝術家の演奏會」なるものがドイツ首都並にドイツ國音樂院の公益施設として設立された。一九四〇年一月の「文化行政」誌によれば、この施設は三九年末までにアウグスブルグ、プレスラウ、ドレスデン以下全國二十四都市に擴がつた。

この施設は、無名の演奏家を廣く一般に紹介する謂はば無名の藝術家にとつての登龍門であるが、専門委員會が先づ有望な藝術家を選拔し、選拔された藝術家に對して自費で演奏會を開くやうな經濟的危險を無くしてやるばかりか、さらに出演の藝術家に報酬を與へると共に、聽衆には無料で入場させる文字通り公益的な施設である。この演奏會の費用は、ドイツ國音樂院と市自治體とで負擔するのであるが、三九—四〇年の演奏季節には四萬ライヒスマークに達したと云はれる。本年度演奏季節の十回を入れて「青年藝術家の演奏會」は設立以來すでに八十回催され、五十九人の

ピアノスト、五十八人の器樂専門家、四十五人の聲樂家、二十七人の伴奏者が紹介された。

もう一つ音樂後進助成機關として、この「青年藝術家の演奏會」より一段上の「音樂の時間」がある。これは三五年ベルリンに誕生したもので、ベルリンにしかない機關であるが、定評のある大家が演奏者の後進として極く優秀な者を選んで、これを一般に紹介するもので、第一回以來約百五十人以上が「音樂の時間」によつて紹介された。

音 樂 の 獎 勵

音樂創作の獎勵のために毎年各種の褒賞が行はれるが、本年一月にはフランクフルト國立音樂專門學校の音樂賞、ミュンヘン市の獎勵賞、デッサウ市の音樂賞が授與され、二月には三九年度國際音樂祭に見出された新進作曲家クルト・ヘッセンベルクにバーデン・バーデン音樂賞が授與され、三月には出征中の有名なベルリンの音樂雜誌編輯長兼作曲家のエーリヒ・レーダーにヴェストマルク音樂賞が授與され、さらに四月のベルリン藝術週間では一九四〇年度首都音樂賞受賞者が發表され、ハンスベルツがピアノスト賞を、ヴィーン・フィルハーモニー樂長ヴォルフガング・シュナイダ

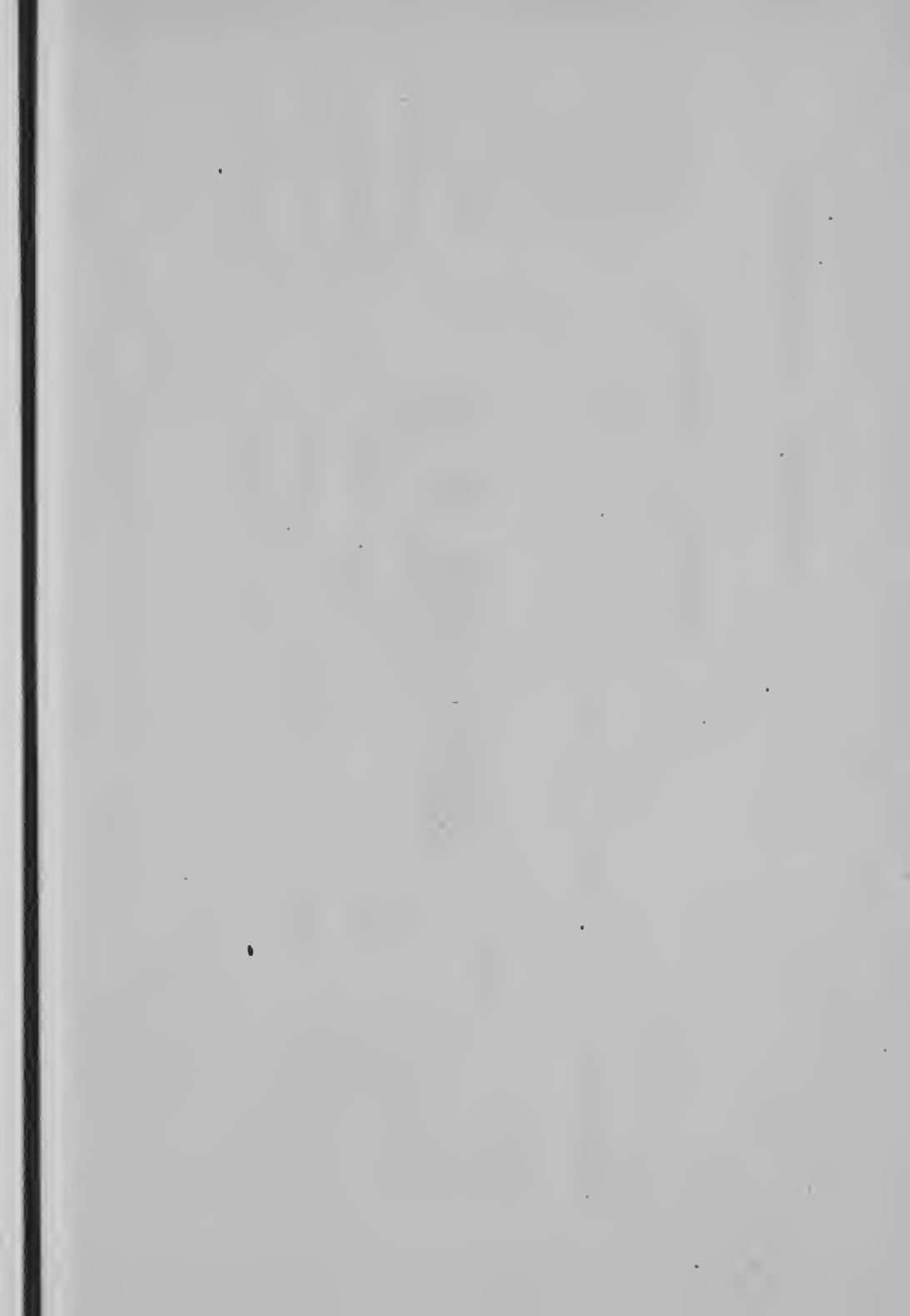
ハーソンが絃樂器奏者賞を、室内音樂賞は伊太利のヴィットリオ・ブレロ四重奏團に授けられた。

戦線銃後の音樂活動

戦争勃發以來、音樂に限らず、映畫の領域に於ても、慰安隊の活動が目覺ましく、戦線と銃後とを緊密に結びつけてゐる。

この戦線の音樂慰問に次いで、銃後戦線、殊に國防力の維持擴大のために働いてゐる人々の慰安も忘れられてゐない。それには大工場自體の音樂施設を見逃がすことができない。例へば、ハインケル飛行機製作所は労働者の組織する交響樂團があるが、これが四〇年四月には製作所内でベートーヴェンの夕を催したし、ヘルマン・ゲーリング全國工場では主として鑛夫によつて絃樂オーケストラ團を建設しやうとしてゐることが傳へられる。

第二部 教育・科學政策



政治と教育

ワイマール中間國家は教育・科學に於ても自由主義の原則を無條件に承認して、個人の自由、個人の意思、個人の理性のみを強調し、國家の生存、國家の意思との聯關を故意に無視した。國民の教育は各邦の自由に委され、國家としてはこれに關與しなかつた。

教育によつて初めて、國家の力と權威、ドイツ民族の統一と協同體とを鞏固にし、教育を通じて初めて國家百年の大計が全體的に遂行されるといふことを見ることが出来なかつた。

科學と教育、藝術と教育、特に政治と世界觀と教育との內的關聯を看過したために、政治と科學、政治と教育との本質的關聯が考へられなかつた。

然るに、ヒットラーの登場によつて、危機は轉回して光明に向ひ、生活聯關の新認識、政治的構成、民族的教育、民族社會主義的文化などに關する新認識が生じた。

エルンスト・クリーク教授は云ふ。

「政治と國家、民族秩序、經濟と法律、文化、教育と教化などは、ドイツ民族、ドイツの人間性を、

その生活の根柢から、その種族的民族的生活法則に従つて革新する。あらゆる政治的行爲の目標點は人間性そのものの構成にある。それ故に、政治的行爲は教育の意味と任務とに合致する。民族的生活全體を規定的中心とする種族的・民族的世界觀は、この目的への道を、政治と教育とのために、文化と教化のために、生活秩序、經濟、法律の新しい創造的構成のために指示する。ドイツ民族のうちに、あらゆる多様な形と組織とのなかに、意志方向、態度、世界觀の統一の生ずる時に、この偉大な活動は終結する。これこそ、未だかつて人類に試みられなかつた最大の教育活動である」と。

（民族社會主義的教育）

「ナチス革命はドイツの學校とその教育上の任務とに新しい法則を與へた。ドイツの學校はすべての思惟と行爲とに於て奉仕的犠牲的にその民族に根ざし、そしてその國家の歴史と運命に全く不可分に結ばれてゐる政治的人間を養成せねばならぬ……その任務は我々民族の同胞を幼年時代から強く民族主義と全民族の意味とで充たし、一旦得られた知識が血となり肉となり、幾世代を通じて何物によつても破壊されないやうにすることである」

内務大臣フリックは一九三三年五月九日、諸邦大臣の前で、強力な民族社會主義的教育の根本精神を強調した。

これによつてナチスの學制は、ドイツ自由主義教育を清算し、根本的に、しかも統一的に獨自の政治的教育の大目的をかゝけて、學制改革を行つた。

しかも、すべての學校の活動は、總統自身によつて青年教育に與へられた次の三つの規準によつて整備されてゐる。

一、身體的鍊磨。徹底的、包括的體育は、ドイツ民族の壯健な、強力な、且つ活動を好む後繼者を教育し、かくして強壯な闘士の種族を保存せねばならぬ。

二、性格陶冶。青年は志操堅固、純眞、誠實な僚友精神と、民族主義的地盤に根ざす祖國愛に向つて、教育されなければならぬ。

三、精神的陶冶。決定的なものは能力であつて、家柄や財産ではない。これと共に、技能、知的開發、判斷力及び任務へ没頭することが必要である。

科學・教育・國民教育省(文部省)

從來教育ならびに學問研究に關する行政上の主要な權限は、各邦の官廳、例へばプロイセン、バ

イエレンなどの各邦の省の手中にあり、ライヒは内務省の一局によつて聯絡の任に當つてゐたにすぎない。

ところが、ナチスが政權を握るや、まづ、これらの地方に分散してゐた教育行政權を中央に集中、統一することに着手した。

一九三四年五月一日の大統領告示によつて「科學・教育・民族教化省」即ち文部省が設立されることになつた。これによつて教育行政に關する中央集權が初めて實現され、教育行政の國家統制の素地が作られた。この大統領告示に基いて、總統はプロイセン教育相ベルンハルト・ルストを文相に任命し、かくして一相兼攝によつてドイツ文部省とプロイセン文部省の合一が實現され、最初はこの合一を現はすため、兩省共通の名稱として「ドイツ國及びプロイセン邦文部省」と呼ばれてゐたが、一九三八年六月二七日の布告によつて、今では單にドイツ文部省と呼ばれることになつた。ところで、三四年五月一日の總統令は、内務省の事務範圍から次の事項を文部省に移管すべきことを命じた。

イ、學問。一般學術並にその對外關係に於ける事項一般。物理工學的施設。化學工學的施設。地震研究施設。國內外に於ける重要な科學研究施設。學術圖書館。民族學、考古學研究施設。

ロ、教育と教授の領域では、大學關係の事項。學生補助資金。ドイツ大學及び實業學校の學生の中央指導者。一般學校關係事項。國民學校。中等學校。私立學校。職業學校。在外ドイツ學校。外國學校。

ハ、青少年團體。

ニ、成人教育。

これらの廣範圍にわたつて、文相は立法を含めて、すべての任務及び立法を管掌することになつたのだが、この文部省は當初は次の八つの局を設置してゐた。

一、中央事務局。これは行政、法制、外國の三課に分れる。

二、大臣官房。

三、學術局。これは大學と研究所の二課に分れる。

四、教育局。これは學校、職業教育、社會教育、農業教育の四課に分れる。

五、公共教育局。この局では美術アカデミー、公立大學、公立圖書館、博物館、記念碑、自然美觀保存、音樂專門學校、美術、文學、演劇、映畫、ラジオを管掌してゐる。

六、體育局。體操課、青年訓練課がある。

七、地方局。

八、宗教局。これは後にケルルの下に、宗教省となつた。

文部省學術局研究課の任務

ドイツの研究機關は、それぞれ偉大な業績を擧げて來てはゐるが、すべての研究がドイツの國家政策的な共通の大目的に即して行はれたかといふと決してさうでない。そこで、文部省の學術局研究課によつて、文相ルストは雜多な研究機關に秩序と統一を與へ、國策的な共通目的を實現せしめるやう努力することになつた。その業績を略述して、ナチスの科學政策の一端を覗くことにしやう。

近代ドイツ史中央研究所

一九二七年に「一八六七年以後の近代ドイツ國史に關して歴史的記述の獎勵、改訂、監修をなすことを目的」として史學中央委員會が設置されたが、一九三五年四月二七日 以て文相ルストはこ

のワイマール體制時代の遺物たる研究機關を解散させ、新たに國民社會主義的研究施設として近代ドイツ史研究所を新設し、ドクトル・ワルター・フランクを所長に任命した。

文相ルストは當研究所の創立に際して、かう述べた。

「今日では、歴史の叙述に特別な民族的使命があることを確信する。大戰から崩壊、國民社會主義運動の勃興と、この大きな變革と體驗によつて、歴史叙述には新たな洞見と展望とが開かれ、新しい偉大な任務が課せられたのである。この新しい任務は、昔からドイツ民族の名譽ある稱號であつた徹底、良心、誠實を以て、しかも昔ながらのドイツ的學問精神の立場から、解決さるべきであらう。」と。

當研究所の規則（一九三五年一〇月四日）によると、所長は研究所の任務遂行と共同研究者選擇について文部大臣に對して責任を負ふものであるが、研究所の任務といふのは、近代ドイツ史就中フランス革命からナチス革命に至る間の歴史を研究叙述することであり、既に着手された研究としてはユダヤ人問題の歴史、民族教會運動、哲學史、プロイセンの外交政策、ビスマルク史などがあり、さらにナチス史資料集成、ヒットラーの演説の編纂及び刊行を引受けてゐる。

研究所には所長、専門家顧問、名譽所員、正規所員があるが、専門家顧問といふのは所長が之を

任命するもので、歴史、教育學、哲學、人種學の著名な教授、さらに新進史家、政治軍事専門家、プロイセン・アルヒーフ主筆の外、文部省、外務省、宣傳省、國防省の各省から一名の割で構成されてをり、表面の任務は所長の諮問に應ずることである。

中古ドイツ史學中央研究所

一九三五年四月一日の文部大臣布告によつて中古ドイツ史學研究所（別名、モヌメンタル・ゲルマニエ・ヒストリアドイツ史記念館）を創設したが、これは前述の近代ドイツ史中央研究所が近代ドイツ史に對して持つと同様の意義任務をドイツ中世史に對して持つものである。

國立ドイツ音樂研究所

一九三五年四月二〇日、ビュッゲルクの王立音樂研究所を基礎にして、ベルリンに國立音樂研究所が設置された。同時に、これには從來個別的に活動してゐた數個の研究機關を附屬させた。本研究

所の主要な任務は、音樂的記念物の一元化と改造で、ドイツの過去の音樂的遺産を表現して、これをドイツ民族に開示することである。この研究所には「ドイツ音樂記念物保護の政府委員會」が附設されてゐる。

ドイツ美術記念物の保存事業、中央國土研究作業協會、農業研究奉仕團など相ついで設置されてゐる。

大 學 教 育

政權獲得直後のドイツの大學の實際は、多數の獨立した個別的學科の集合に過ぎなかつたが、この科學の危機はアドルフ・ヒットラーによつて超克された。彼こそは百千の専門分科をば再び一つの大きな理念のもとに結合した。或る意味に於て政治的・精神的變革は大學及び學術の埒外で行はれたので、精神科學及び大學はその存在の意味をさへ問はれるやうになつた。

實にビスマルクの時代以後に於ける「大學の教養」は謂はゞ「物識り」になることを目標としてゐたのであつて、もはや言葉の眞の意味に於ける教養を創造することは出来なかつた。大學教育は

本能と行動の本質的な力を無力にしてしまつた。

然るに、今や専門的・技術的教養を新しい政治的思想世界との有機的結合に持ち來たすことが、國民社會主義教育の目標となつた。

勿論、ドイツの大學の建設の精神はそんなものではなかつた。例へば、ベルリン大學がさうである。一八〇七年プロシア帝國がアウエルシュテットに敗殘の憂目を見て政治上の困苦に極まつたときに、當時の碩學にして精神的指導者であつたフリードリッヒ・シュライエルマッヘルは「相當素養のある青年の學的教養を高め、學的活動に入り、または大學教育を必要とする職務の準備となり、特に國家や教會の諸般の仕事にも向くやうに」ベルリンに大學を設置すべしと叫び、その後二年を経てベルリン大學が設立されたのであるが、その學則にはシュライエルマッヘルの思想が繼承されてゐる。古い學則のなかには「若き學生は國民の有爲な下僕たらしむるに必要な勉學をなすべし」といふ一句がある。このベルリン大學開設當時のプロシヤ精神はナチス・ドイツになつて初めて徹底的に高揚されたものと云へやう。

一九三四年、ボン・ポッペルスドルフ農業大學がボン大學に農學部として編入され、同じくベルリン農業大學及び獸醫大學がベルリン大學に編入された。編入の目的は、これらの單科大學から狹

い一面的な分科的性格を奪ひ、これを綜合大學の全體的な學問へ結びつけるためであつた。

例へば三三年逸早く各邦に「大學行政の簡易化」の命令が公布され、三五年四月一日の文相布告の大學行政一元化の訓令によつて、この關係は全國的に統一されるに至つた。

從來は總長は大學自治行政の最高の地位にあつたが、總長は選舉によつて任命され、ために評議員に左右される所多かつたが、この訓令の結果、大學總長は評議員の提案に基いて、文部大臣が之を任命することになつた。

これによつて國家と大學との關係が一新されたのは勿論、大學行政に完全に指導者觀念が移入確立されるに至つた。

即ち、大學總長は從來評議員會の權限とされてゐた事項の決裁權を獲得し、わづかに必要と認めるときにかぎつて、評議員を單なる諮問機關として召集すれば足ることになつた、しかも評議員會を召集する場合には、教授團及び學生團の指導者をも召集参加させなければならぬことになつてゐる。學部長もこれまでは學部が選舉してゐたが、こんどは學部の提案にもとづいて總長がこれを任命することになつた。

尙、この訓令によつて、大學は教職員團と學生團から構成されることになつた。

大學教授の後繼者詮衡

ナチス・ドイツは、大學教授の養成選擇に周到な配慮を拂ひ、教育者、教員、研究者として専門的な資格を具備することは勿論、人格及び品性について極めて嚴格な要求をかけるてゐる。

この目的から、文部大臣は一九三四年一月一三日附を以てハビタツィオーン（大學教授資格の獲得）と敎職授與に關する統一的規程を布告した。これはドイツ國內の大學に對して有效である。この規程は、その後オーストリア及びズデーデン地方の併合に伴ひ、またその間の經驗にもとづいて多少修正されて、一九三九年二月一七日に新たに公布されたが、根本の建前は變つてゐない。

従來は、ハビタツィオーンを得ることが敎職授與と同一であつたが、新ドイツ大學敎授資格規定によると、ハビタツィオーンは敎授資格を獲得するための前提であつて、敎授資格を獲得するためには、ハビタツィオーンをパスした上で、その旨を文部大臣に申告し、相當學部への指定を受け、その學部から課された一週間三回に亘る三時間の授業試験をパスし、さらに國防スポーツ寮及び勞働寮で數ヶ月、大學講師アカデミイで數ヶ月間の訓練を受けた後、文部大臣がその間の全體の判定

に基いて教授資格を授與するのである。かくして、學問的業績のみでなく、教授能力、人格、品性の最も卓れたものを得やうとしてゐる。

修 學 指 針

一九三五年一月一八日文相ルストは、まづ法律學の學修について「法律學學修訓令」を公布した。本法の第一編、根本原則には次のやうに云つてゐる。

「法律の教授並に學生！ ドイツの法律學は國民社會主義的たることを要する。國民社會主義は口先きのみの信仰に非らず世界觀である。使ひ古した合言葉ではなく、その内容の肝要なことを忘れてはならぬ。心より國民社會主義者たるものは多く語らずして實行之に適ふものである。

個々の法規の點では既に獨自の法が現はれてはゐるが、現時に於ても尙ドイツ法律學はローマ普通法の思想の裡に生存する。精神的なる基本主義は現今尙パンデクテンシステムによつて規律されてゐる。我々の鬭争の鋒先は右のシステムに向ふ。

我々の法の革新に際して汝等を取り除くこと勿れ。新しい價值を得んとする精神的鬭争に於て大

學にまさる闘争場はない。立法は序幕たることを得ず、この闘争の要石たるべきである。既成の法律を解説し、または暗記することを以て能事畢れりとすることなく、眞實のドイツ法によつて既成法律を克服するために闘争せよ」と明記してゐる。

この規程を見ると、國民社會主義的な法律觀念が縦横に具現され、總論各論といった組織體系が排撃され、民族的政治的實生活の見地から、主要科目は歴史、民族、階級、國家、法取引、私權保護、國外法、法理學、經濟學があり、これが學期別に次のやうに配列されてゐる。最初の一年間に問學の民族的基礎研究の準備を與へる。すべての精神科學の研究の最初には、人種及び血族・民族學及び先史學の講義、特に最近百年間のドイツ民族の政治的發展についての講義が行はれることになつてゐるが、法律の學生は特に、歴史的及び政治的にその専門學科の特殊問題に入り込まれる。第三、四、五の學期は詳細な研究に残されてゐる。

ついで一九三五年五月二日には經濟學學修令が公布されたが、これまた法律學學修令と同様、人種及び血族・民族學及び先史學の講義、最近百年間のドイツ民族の政治的發展についての講義を課し、そのほかに國民經濟、經營經濟、法取引及び法律保護、地理、技術、新聞、教育等の講義がある。

新聞學を試驗科目として許可した大學は、一九三五年四月三〇日の新聞學々修令によつて、新聞經營法、新聞史、新聞學、外國に於ける新聞。雜誌に關する講義を設けなければならぬ。

また、農學に關しては、一九三五年七月一三日農學學修令が公布され、農學學修者に對しては堅實な専門知識、技術的能力は勿論、それ以外に人口政策、經濟政策、文化政策の任務を理解せしめることが必要とされ、政治學、自然科學、農耕、政治及び經濟、ドイツ農民に關する講義が課せられることになつた。

ナチスになつて新設され、若くは重要視されるに至つた科目には次のやうなものがある。

國防學。

先史學及び太古史學。

民族學。

防空學。文部大臣は一九三五年一月一二日の訓令によつて、航空大臣と共同で、教員が

民間防空の問題に親しみ、この知識を教授に有効に利用するやうに指令した。

交通學。一九三五年七月八日の布告により大學の教授に於ける交通學及び交通地理學の諸

問題に力點がおかれた。

氣象豫報。一九三六年一月二七日の布告。

しかし哲學はもはやドクトル試験の必須試験科目でなくなつた。むしろ哲學のかはりに民族學、國防政策、世界觀に關する知識の試験を行ことが要望されてゐる。

國民學校・中等學校の教員養成

學校での教育活動の擔當者は教員である。ナチスは、教員を單なる教材の傳達者ではなく、托された青少年の僚友であり、指導者であるとする。従つて、教員に對するナチ스의改正が、教材案からでなく、教員自體及びその養成から着手したことは極めて當然である。

まづ、教員の地位であるが、私立學校の教員に對し、公的な勤務關係に立つ教員は官吏と見られ、従つて一九三七年一月二六日のドイツ官吏法と同日の服務處罰規定の適用を受ける。その結果、アリア系で政治的信用がなければならず、兼職には認可が必要であり、さらに婦人官吏たる女教員は結婚の際に退職せねばならぬし、また轉任、停年に對しても同様である。

將來の國民學校教員は師範大學の卒業生でなくてはならぬ。師範大學に入學し得るものは中等學

校卒業者で、選抜試験に合格したものであるが、師範大學は國民學校教員を統一的に養成することを目的とし、次の方法をとつてゐる。

一、ナチス黨(特に突撃隊、親衛隊、ヒットラー・ユーゲンツ、ナチス教授團、ナチス學生團)の編成に従つて、將來の教員の實踐的教育及び體育に分れてゐる。

二、學生の眼を、全國民層の生活様式と思考様式に向けさせる。

三、學生を教育學及びその補助科學に導き入れ、この領域での學問研究に没頭させる。

四、學生を教授の實踐に即して教員に養成する。

一九三八年八月一〇日二六日には、國民學校教員たるべき者の修學規定が公布されたが、これによると、師範大學に於ける學問的修學の内容は、教育學、性格學、青年學、遺傳學、人種學、民族學、一般及び特殊教授學、ドイツ語、ドイツ史、ドイツ先史、地理、生物、數學、物理、化學、宗教學、體育、音樂、藝術、工作(男子)、手藝・家事(女子)で、さらに修學中に教育實習を課することになつてゐる。

以上 課目について四學期間修學の後に、國民學校教員資格試験を受けることが許されるのである。

また一九三七年七月二六日公布の中等學校教員養成に關する文部大臣訓令によると、將來の中等學校教員は、師範大學に於て國民學校教員と一ク年間共通の教育を受けることが必要となつた。その目的は、統一的な政治的・世界觀的目的に従つて、全體的な教育者精神を涵養し、同時に職業實習を通して性格並に素質に於て教職に適したものを選擇し得るやうにした。

ナチスの教員聯盟

一九三三年當時のバイエルンの文相ハンス・シェム指導のもとに「ナチス教育聯盟」(N ナチオナルゾチアリム S ドイツ・エ・レーラプント)

が結成された。このナチス教員聯盟は、あらゆる教員を組織的に統合し、ナチスの

思想を教育のあらゆる分野に擴張せしむべき目的を持つもので、三三年六月七、八兩日マグデブルグに於て開催されたドイツ教員大會で、十五萬人の會員を有する全ドイツ教員協會が全部これに包括されることになり、組織としては、ナチス教員聯盟の發祥の地バイロイトを基地として各邦に支部を設け、大學、中學、職業専門學校、國民學校、中等學校、その他の學校の教授、教師並に在野の學者、教師の各部門に分れてゐる。

このドイツ教員聯盟の使命は、(1)ドイツの教育並に教育制度 領域にナチス的意味に於ける眞の民族共同體を招來すること、(2)ナチス國家に於ける有機的に組織された學制改革に際して専門的立場に於て協力すること、(3)ドイツの教育並に教育者の重大なる問題をドイツの教育制度の全體性並に有機的體制の見地から之を考慮すること、(4)教員相互に刺戟と體驗を交換することにより欣然協力を爲すこと、(5)ドイツ國外にあるドイツ系の教員との聯絡をはかることである。

ところが、三三年一月一日内相フリックの提唱によつて、ドイツ教員協會(D^{ドイツ・エ・ア・チ・ア・グ・マイ・ン・シ・ヤ・フト})E G^{ドイツ・エ・ア・チ・ア・グ・マイ・ン・シ・ヤ・フト}が

結成された。この協會は、ドイツ大學團、中等學校教師團、職業學校・専門學校教授團、商業學校教師團、私立學校教師團、國民學校教員聯盟の基礎としてのバイエルン教員聯盟よりなる。

そこで、内相フリックはドイツ教員協會とナチス教員聯盟との關係を正確に規整する命令を發し、「ナチス教員聯盟の誕生によつて解消し又は解消しつつある一切の協會の復活は之を禁止」し、「ナチス教員聯盟は政治と世界觀に鑑み、かの農民戰線、勞働者戰線に擬して、大ドイツ教員戰線を形成すべく、シエムの指導のもとに獨立の政治組織たるべきもの」とした。

この聯盟は、ナチス黨の教育に關する國民學校、中等學校、大學の一切に關係する。

ナチス學生團

一九三三年四月二二日の「大學團結に關する法律」によつて、ナチス大學生團が結成された。

その第一條には「大學に登録せる學生にして、ドイツ民族にして母國語を話す者はその國籍の如何を問はず大學生團を結成す」と規定されてゐるが、これは一九二〇年九月一八日の「プロイセン大學に於ける大學生團結に關する命令」の第一條にある「學生團はドイツ綜合大學若くは工業大學の本科學生にしてドイツの國籍を有する者を以て之を結成す」と比較して、明瞭に民族主義を基調としてゐる點で著しい對照をなしてゐる。

しかも、この民施的基礎の上に立つて各大學の大學の大同團結を圖ることは、當時の大學生の一般的要望であつて、つひに一九一九年七月一九日ヴェルテンブルクに開催された大學生大會は綱領第一條に於て「ドイツ學生團はドイツ語を話す領域に於ける大學の學生にして、ドイツ民族で且つ母國語を話す者を以て之を結成す」といふ宣言をし、國家の承認を要求したのであつたが、ワイマル中間國家がこのやうな民族主義的基調を容認すべくもなく、巧みに國籍主義を以て之に置換へ

たのであつた。また、一九二〇年九月一八日の命令は、學生の自治について形式的代議制を採用したのであつた。

この命令は、學生側の要望と全くかけ離れたものであり、却つて民族主義的イデーに基く新たな大學生團結に拍車をかける結果となり、つひに一九三一年バルドゥール・フォン・シーラッハを團長として、ナチス・ドイツ學生團(N^{ナチオナルゾチアリスティシエ・ドイツエ・シュツペンペン} S D S t B)が結成された。

かくして、ナチス政權獲得後間もなく、先づ三三年四月一二日のプロイセン學生令によつて、さらに同年同月二二日の前記「大學生團結に關する法律」によつて、全國的に民族主義的イデーを基調とし、學生團の國家的公認が實現されるに至つた。

この「大學生團結に關する法律」の第二條によれば「學生團は大學の構成員にして全學生を代表す」とあり、また「學生團は學生が民族、國家及び大學とに對し自己の義務を果すことに協力すべきもの」としてゐる。

學生團には指揮者が任命されるが、この學生團の指揮者は文部大臣によつて任命される、即ち文部大臣は大學總長とナチス學生同盟大管區指導者の意見を徴して之を任命するのである。任命された學生團指揮者は總長に屬するのである。

一九三五年七月二三日の總統告示によつて、これらの學生團指揮者は總長に對する從屬を損ふことなく、ドイツ學生團の任務内で、總統の指示に従つて活動し、總統と不斷の接觸を保つやうに決められ、名實ともにナチス黨の枝隊となつた。

では、學生團の任務は何か。一九三五年五月一五日、之について文部大臣は次のやうに決めた。

一、専門研究。自由専門研究の範圍内で、學生は、國民社會主義的教授と緊密に協力しながら、自分の學問と政治との交互關係を把握しなければならない。

二、國境事業。國境に於てドイツ民族主義の力を覺醒させ、これを強化させることを任務とする。

指導の中心をなすものはドイツ學生團國境局。

三、外國事業。ドイツ學生團の對外事業はドイツ學生團外國局指導の下に企畫實行される。

四、新聞・映畫。學生大學新聞の協同者の範圍を擴張し、出版前に總長の檢閲を経ることが必要。

また映畫では、學生の生活と意欲とを表現しなければならぬ。

ドイツ大學生團の教育プランによれば、四ゼメスターは積極的に僚友精神を以て活動し、それを終了して初めて學生は専門活動に入るることになつてをり、この目的達成のためにドイツ大學生團には、二十人乃至三十人を一單位とする僚友團が多數存立してゐる。

大學入學者數の制限

一九三三年四月二五日には「ドイツの大學及び大學生過剩防止法」なるものが公布されたが、これは一つにはドイツの大學生の窮乏を除去し、一つには知識階級の就職難を緩和せんとする社會政策的意味をもつてゐたと同時にまた、戦後の大都市大學への學生の集中を緩和し、ドイツ學生を眞摯な研究に結びつけるために大都市から中小都市へ學生を誘導し、教授學生間に再び緊密な結合を作り出さうとする教育政策的な意味もあつた。

これによると、「義務政策を除き一切の學校及び大學に於ては學生生徒の數は教育の徹底並に職業の需要に適合する程度にこれを制限すべきもの」とし、各學校、各大學で幾何の學生生徒を新に收容すべきかについては、學年开始の毎に地方官廳がこれを決定すべきものとした。そして、同法第一施行令は内務大臣が學生生徒の數を制限するためにその數を確定することを得るものとしたので、内相は三四年度の各大學收容數を一萬五千に制限したが、三五年二月九日の大學研究令によつて、これは撤廢された。

ともかく、この防止法の結果、一九三五年夏期以後、大都市にある大學に對しては、學生人員の最高數が確定された。例へば、綜合大學としては、ベルリン六、九〇〇、フランクフルト一、七〇〇、ケルン二、六〇〇といったやうに。

尙、大都市大學への入學志望者中、ナチス黨の經驗ある闘士、軍籍所屬者、またはケーニヒスベルク、プレスラウ、或ひはダンツィヒで二學期間修學した學生に限つて優先權を認められることになつた。

しかも、學生生徒の新入學に際して非アーリア系の者は制限を受け、非アーリア系の者と全ドイツ人口との比率は一・五％を超えることが出来ないとされた。

大 學 入 學 資 格

さらに、大學入學資格にも制限を附して、ドイツ中等學校卒業證書を獲得したすべての者は、半年度の勞働奉仕終了後をはじめて大學入學が許されることになつた（一九三五年二月九日の布告）。

尤も、ナチスは中等學校を経て大學への進學のほかに、ドイツ勞働戰線や農民指導者、ドイツの

藝術家及び自由研究者のためにドイツの大學へ入學する可能性を與へた。一九三八年八月八日の卒業證書を有せずして大學に入學せんとするものの修學許可に關する規定、一九三八年四月八日の經濟、農業、林業、國藝、釀造、製糖の修學及び工業大學への入學許可に關する特別卒業資格試驗規定、一九三八年六月九日のドイツ大學に於ける臨時聽講者許可の全國統一的な訓令などが、この目的のために發せられてゐる。

大學生の體育運動義務

ナチス・ドイツの體育尊重は、一九三四年一〇月三〇日の「大學生體育運動令」の公布となつて現はれた。これによつて、ドイツの男女學生は三學期間體育運動を課され、一學期（現在は六ヶ月）は一般體操、その考査、ゲレンデ競争、二學期は五種競技、射撃、三學期は闘技、救助水泳などで、この體育運動義務を終了したものでなければ、四學期に進めないことになつた。勿論、健康上の理由による免除規定が設けられてゐる。

一九三五年一月一九日には、學生の勞働奉仕義務に關して施行規則が設けられ、一九三五年一二

月一六日には「大學修學のための保健的選抜に關する訓令」が出た。

初等及び中等教育制度改革

文部大臣はドイツの國民學校及び中等學校の教育及び教授に關する新しい規準を公布した。この規定は一九四〇年四月一日の新學期から、國內の國民學校及び中等學校全部に於て、實施されてゐる。

この新規定によれば、中等學校の目標はドイツ國民の政治的・文化的・經濟的基礎の上に立つ綜合觀察であり、しかもこの綜合觀察は主として實際生活と結びついたものでなくてはならぬ。特に、中等學校はドイツの文學、藝術、道德、信仰のなかに表現されてゐる諸々の價值を経験的に生徒に知らせなくてはならぬ。また、之れを通じて、中等學校は生徒を民族と神へ結びつけるやうにしなければならぬのである。同時に、國防精神の教育をも等閑に附してはならぬ。自然科學に於ては、個々の觀察によつて或る科學的地盤が出來上つたときに特定の法則に關する知識が與へられるやうにしてゐる。さらに、技術的・工作的な課目が一屬重要視され、園藝も亦生命學と緊密な連絡を保

ちながら、必須課目とされてゐる。タイプライターと速記術も採用され、第二外國語と選擇必須課目になつてゐる。第二外國語はフランス語、スペイン語、イタリア語、北歐語、アラブ語の一つになつてをり、第一外國語は従前通り英語である。

この新規則で最も注目に値ひするのは、教育と郷土とを密接に結びつけたことで、「郷土は生徒がそこに生れ落ち、そのなかに育つた生活の一部として、特に卓越せる方法に於て、中等學校の作業を決定すべきである」とし、特殊の課目は郷土の經濟的狀態に適合するやうにさへすることが許され、またドイツ語授業に於ては、郷土的文學資料を用ひることさへ許してゐる點であらう。

一九四〇年からベルリン大學に外國學部とドイツ外國學研究所が新設され、新學部長には親衛隊旗團長フランツ・アルフレッド・ジックス教授が任命された。この外國學部の新設によつて、從來ベルリン大學に附屬してゐた外國專門學校とベルリン政治專門大學とが、そのなかに包攝されるに至つた。（附屬外國專門學校は一九三六年、政治專門大學は一九二〇年設置された。）これらの二つの傳統が統合され、外國の事象が研究されると共に、ドイツの世界に於ける政治的使命が闡明されるわけである。なほ、この學部は外國學のドクトルをも授與することになつてゐる。

戰時に於ける精神科學

ドイツの科學、特に精神科學が今次の大戦に際して如何なる使命をもち、如何なる理念のもとに研究されてゐるか。

ベルリンのドイツ近世史中央研究所々長のワルテル・フランク教授は「戰時に於けるドイツの精神科學」なる講演に於て大要左のごとくに云つてゐる。

「ドイツと西歐民主々義國家との現今の闘争はたゞ單に武器の争ひではない。それは同時に二つのイデオロギーの争ひであり、そのイデオロギーの中の一つは民族的で若々しく、他の一つは古くて、もはや確乎たる根底をもつてゐない。それ故、今次の大戦に於てドイツの武器が勝利を得る瞬間に於てドイツの世界觀と科學とは西歐のイデオロギーを驅逐して歐洲に確乎たる地盤を占めることにならう。政治上の權力闘争は或る土地を征服せんとする新しい力の突撃部隊である。教育は軍隊の後にづいて土地を秩序づけ建設する總督府であるが、ドイツの科學は今次の戦争に於て正にこの總督府的な役割を果すべきである。

武器の勝利の後に於て、ドイツの國民の魂の戦争が起るであらう。この第二の戦争に於ては精神科學が最前線に出なければならぬであらう。武器の戦争に於て技術的科學が勝利の道具を鋭くするやうに、民族の魂に關する戦争に於ては、精神科學は精神的價値の秩序變革の手段として重要な役割を演ずるであらう。」

陸軍大佐フォン・ニーデルマイエル教授は「兵士と科學」の題の下に大要左の如き講演を行つた。

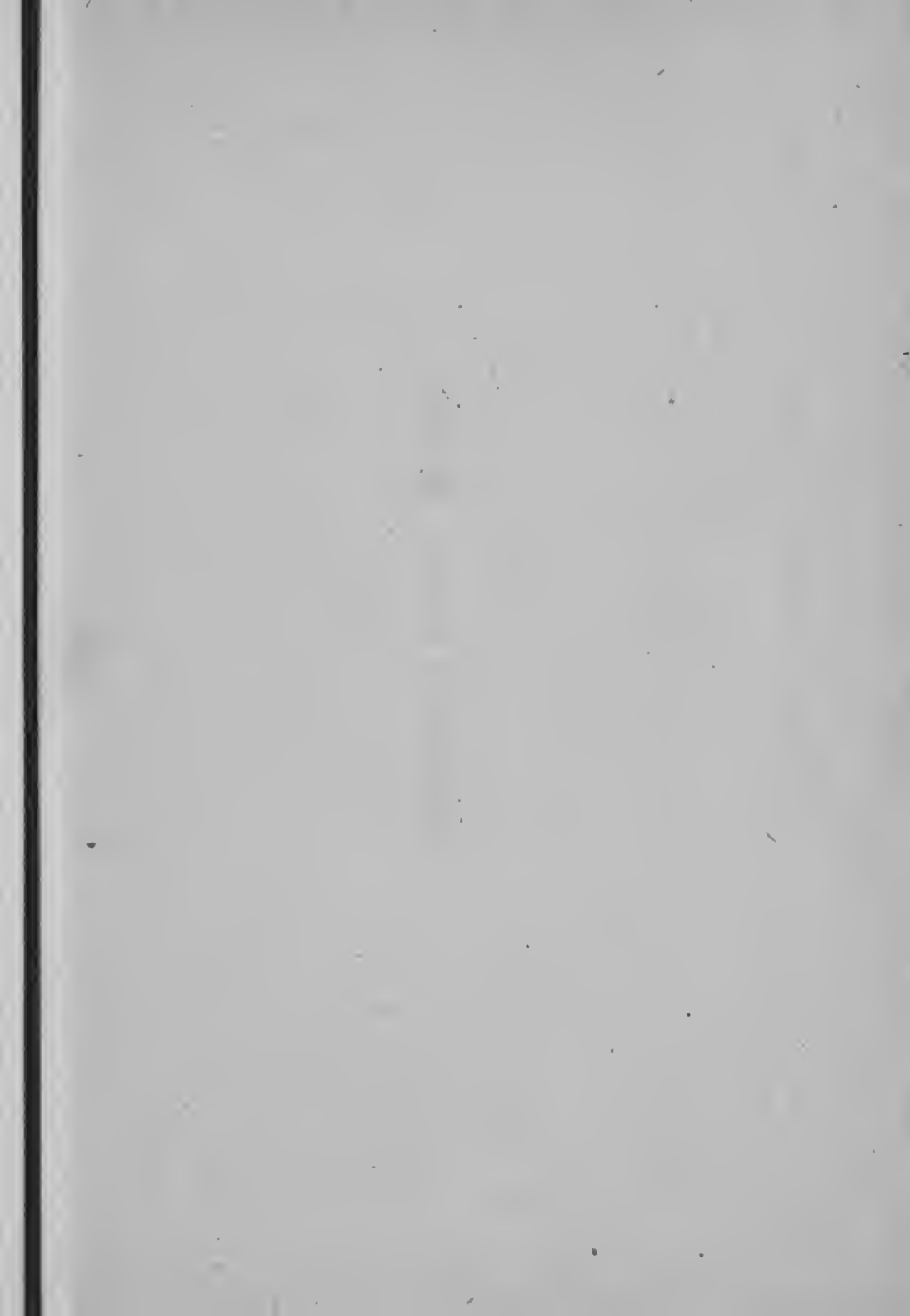
「軍事的及び政治的武器の使用のほかに、精神的武器の使用も忘却されるべきではない。そもそも思想、表現、行動範圍の單純、明瞭、眞實性といった特性について、軍人と科學者とは甚だ多くの共通點を持つてゐる。兩者とも、その生活及び闘争に於て、勇氣、信念、人格を重んずる。軍人的思考と科學者の思考、軍の幹部養成施設と一般大學とは相依り相托けて發達して來たのであり、從來とても生成過程の實りを相互に交換し合つて來たのである。

實證主等的な科學と技術、行動の専門化、思考の機械化は、精神生活を二つの教育種類、即ち一般教育と軍隊教育とを分化するに至つたのであるが、元來軍人的態度、軍人的信仰は、精神的敎養に對して決して對蹠的地位にあるものではないのである。

軍人と科學者とは今日の政治的現實のなかに堅く相互に手を握つて立たねばならぬのである。

第三部

ナチスの宗教政策



ナチスの指導觀念

ナチスの指導的觀念は、宗教もまた凡ての文化活動と同じく、この現實社會に關する限り、民族的限界の中に於てのみ可能であることを認め、教會が『民族的』且つ『ゲルマン的』であるべきことを要求する。斯くして、ナチスは、一口に云へば、その抱懷する民族主義、全體主義、指導者原理の觀點から、宗教と民族、教會と國家との、歴史的にして宿命的な困難な問題に對して、新たな解決を見出すべく惡戰苦闘して來たと云へやう。

由來、國家と教會との關係は極めて微妙であつて、例へば獨逸カトリック教會が嘗つて宰相ビスマルクとの間に構えた『文化闘争』を想起するだけでもこの間の事情は充分に察知されやう。尤も第一次世界大戰は、國家と教會の關係に對しても甚大な影響を與へ、世界大戰を通じて激化された民族相互間の憎惡は、教會關係に於ても國際的協力を困難ならしめたばかりではなく、教會自身がまた周圍の國家主義的乃至民族主義的精神に動かされ、或ひは少くともこれと妥協せんとする氣配を濃厚に示すに至つたのである。

ナチスの民族主義的宗教政策をして今日の實績を擧げさせた原因の一つは確かにこのやうな情勢の變化であつたと云へやう。

このやうな民族意識竝に國家意識の高潮に助成され、且つ意識的に結成されたのが所謂『獨逸基督者運動』であつた。尤も、この信仰運動は獨逸の福音主義教會を地盤とするものであるが、カトリック教會は大部分ナチスの宗教政策に反對的な態度をとつてきた。

カトリックのなかにも、協調的な運動がなかつたわけではなく、例へば一九三三年十月三日副總理フォン・パーベンによつて結成された『カトリック獨逸人勞働團體』のごときは、明かに民族主義を肯定し、カトリック教徒のあひだにナチス精神を培養することを目的としたものであり、ヒッラー總統代理ヘスが認めた運動であり、プロテスタントに於ける『獨逸基督者運動』と好一對をなすべきものであつたが、これはカトリックの全般的支持を得るに至らなかつた。

元來、カトリック教會はその信條教義だけではなく、その社會的體制に於てもバチカンを主宰とするものであり、少くとも表面上は政治とは獨立した教會の不變恒久性を標榜するものであつて、より超民族的、超國家的であるのに、ナチスの民族主義的宗教政策に對しては果敢な抵抗を試み、ナチス政權から表面有利なコンコルダートを獲得するに至つたのであつたが、三四年一月のザール

人民投票以後に於ては、このコンコルダートはナチス宗教政策の貫徹を防止すべき有力な保證とならなかつたのである。

ところで、ナチスは一九三三年一月の政權獲得前すでに、獨自の民族主義的世界觀によつてつらぬかれた確固たる宗教政策を樹立してゐた。

その核心をなすのが、次のナチス綱領第廿四條である。

ナチス綱領第二十四條

「我々は國家内に於ける一切の宗教的信仰に對し、それが國家の存立を危殆ならしめず又はゲルマン民族の倫理感情及び道德感情と牴觸せざる限り、その自由を要求す。

黨そのものは實際的基督教の立場を代表す、但し信仰上一定の宗派に結びつくことなし。

黨は内部的にも外部的にもユダヤ的・唯物的精神に抗爭し、併せて我國民の永久的救済が次の原理に基いて内部的に行はるべきことを確信す、即ち公益は私益に優先す。」

右の綱領はヒットラーが獨逸労働黨に加入した翌年、即ち一九二〇年二月廿四日の「ホーフプロ

「イ酒場」の第一回大會に於て、ヒットラー自身が、二千名を越える聴衆を前に宣言したもので、廿五箇條より成り、今日まで何等變更されずに遵守されてゐる。

では、先づ、順序としてナチスのは

獨逸福音主義教會

に對する宗教政策から述べることにしやう。

三十年戰役の勃發當初獨逸ではプロテスタントは多くの宗教諸侯の庇護の下にあつて相當の社會的進出を遂げてはゐたものの、獨逸皇帝にはカトリックの皇帝が相次いだ關係もあり、またカトリックの歴史や傳統の力も強く、當時はまだプロテスタントの社會的政治的勢力はカトリックのそれに及ばなかつた。所がウェストファリヤ和議（一六四八年）の結果、プロテスタントは、ルター派にせよカルヴィン派にせよ、カトリックと社會的にも政治的にも同等の權利を確保するに至つた。といふよりも、遂ひにはカトリックの勢力を大いに侵蝕し、プロテスタント教會中ルター教會は「國家教會」の地位を占めるに至つた。しかも、ルター教會は一面から見れば獨逸のプロテスタ

ント教會を代表する教會であり、従つて、プロテスタント、即ち獨逸福音主義教會の國家教會的な體制機構は、時代と社會思潮の可變的要求に呼應する可能性をそのなかに多分に包藏してゐることが容易に看取されやう。

所で、カトリック的なカール五世は、結局アウグスブルクに宗教和議を結び、福音主義教會に對して信仰の自由を認めはしたものの、ウォルムスの國會にルターを破門したのを初めとして福音教會の抑壓に終始した關係から、カール五世の下にあつては、ルターも全獨逸を打つて一丸とした宗教改革の實を擧げることが出來ず、教會行政を『緊急司教』たる個々の宗教諸侯の手に委ねざるを得なかつた。その結果、獨逸の聯邦制組織の當然の歸結として、多數の地方福音教會を成立せしむるに至つたのである。

しかるに、一九一八年に至り、獨逸諸邦に於けるモナルヒーの崩壞をみるに及び、個々の聯邦から獨立した教會といふものの可能性が急に濃厚になりはしたが、モナルヒー崩壞後も尙ほ聯邦組織そのものは依然として存続してゐたので、やはり廿八個の地方教會は相互に獨立したまゝであつた。

元來福音主義教會は一部はルター派、一部はカルヴィン派、一部は一八一七年フリードリッヒ・ヴ

イルヘルム三世により實現された舊プロイセン同盟に屬し、これらの教會の或程度の聯合は十九世紀後半より企てられ、一九〇三年には『獨逸福音主義教會委員會』が成立し、更に大戰後一九二二年には『獨逸福音主義教會聯盟』の成立をみたが、しかし各地方教會は尙ほ「信條、憲章及び行政上完全な獨立性を保證」されてゐたのである。

所が、一九三三年の國民社會主義革命の勝利と共に、多年の宿願であつた統一的な『獨逸福音主義教會』の實現が可能になつた。この單一獨逸福音主義教會の理想實現の推進力となつたのが、前にも云つたやうに國民社會主義信仰運動『獨逸基督者』である。

獨逸基督者運動

獨逸基督者はナチスの政權獲得により教會内に斷然勢力を占め、三三年七月には地方教會代表者會議を開催して教會合同を決議、單一の『獨逸福音主義教會』を實現、しかもこれを「指導者原理」に従つて「國司教」の統轄の下に組織した。

所で、この獨逸基督者運動の中心は、現國司教、以前の軍隊布教監督ルードルフ・ミュラー、地

方教會監督長官ヤーゲル博士等であり、この運動は民族主義に終始し、極端なユダヤ人排斥を行ひ世界の視聽を欬てたが、その主眼とする所は、地方教會の民族的團結並びに、民族と宗教、教會と國家との、民族主義的國家主義的調和にあつて、この運動の志向に關し、ミュラーは一九三三年六月十一日、ナチスの黨機關紙『フエルキッシエ・ベオバハター』紙上に次のやうな見解を發表した。

「我々は最早祖國の土地を、母國の土地を、血液の根底として我々自身のなかに持たなくなつてゐた。その結果、我々は國民のなかに根差してゐない・故郷の無いものとなつた。これは危険な状態である。然し國民のなかに根をもたぬこの暗慘たる状態は、幸ひ今日では我々から遠去かつた。この暗影を克服してくれたのは、血液と國土への忠誠を基調とする國民新組織の輝かしい光明である。そしてこれこそ今日教會に課されてゐる特殊な任務である。即ち、この道の淨化、血液と國土を基底とするこの新たに賦與された民族共同體を神の眼前に於ける永久的な共同體へと高めることがそれである。」と。

更に、ミュラーは「獨逸基督者」運動の立場について

「國民的興隆のなかに、國家は獨逸國民への道を發見し、獨逸國民はまた國家への道を發見した。

國民は生命と力とのより深い源泉を搜りつゝ、再び教會への道を發見せんとしてゐるかのやうである。獨逸國民と交渉を持たぬ並行線上の獨逸教會といふが如きは空虛な制度以外の何ものでもない。獨逸教會が眞に獨逸國民のなかの教會であるためには、何よりも先づ獨逸國民のための教會でなくてはならぬ。それがためには、教會は獨逸國民に對し滅私奉公の態度を持し、神が獨逸國民に實現を委ね給ふた天職を自覺し且つこの天職を充分に遂行し得るやうに、獨逸國民に力を藉するものでなくてはならぬ。

新しい國家は教會を求める。新しい國家は國民の眞の根底が何處にあるかを知つてゐる。それ故、教會の使命は國家の使命と同様重大なものとなつた。然るに、今日の獨逸の教會の體制を以てしては、この使命を完全に遂行することが不可能である。他の新なる體制を獨逸の教會に與へると、即ち獨逸教會が正にその國民のためにイエス・キリストの福音によつて委ねられてゐる奉仕を獨逸國民に對して爲し得るやうな、さういふ體制を與へることが信仰運動『獨逸基督者』の目標である。』と述べた。

國司教ミューラーの説明

次いで、ミューラーは獨逸基督者運動の綱領とも云ふべき根本目的を左の七項目に分けて説明した。即ち

第一に、獨逸基督者運動は、ルターの宗教改革の信仰的立場を完全に擁護する。然し、同守に唯物主義、拜金主義、ボルシェヴィズムス、非基督教的平和主義など、現代の凡ゆる謬説を峻拒する意味に於ての信仰の發展成長を要望する。

神の永遠の眞理は、獨逸人に理解される言葉と仕方とによつて告げらるべきである。

牧師の育成指導には、現實への接近と社會への結びつきを一層強化せしむる意味に於ての根本的改造が必要である。

アカデミックに教育されたのではなく、心底から覺醒した信者による布教を獎勵しなくてはならぬ。

第二に、獨逸基督者運動は獨逸福音主義の異教國に於ける傳道のために行はれる。我々は民族及

び血族の相異を、神によつて意圖されたこの世界の秩序として、承認する。従つて、異教國に於ける傳道により他の民族の民族性を損せざることを主眼とする。

第三に、獨逸基督者運動は國內傳道の父ヨーハン・ヒンリヒ・ヴィヒェルンの意味に於ける凡ての信者の・教會的な權利義務のために行はれる。(ヴィヒェルンは一八八一年に歿した獨逸福音教會内國傳道の祖で、宗教的博愛事業家として著名。)

第四に、獨逸基督者運動は、働く意志のある勤勉な奮闘的な國民同胞をして立派に生計を得ることを可能ならしめ且つ敬虔な少年群の覺醒の悦びが幸福と祝福を保證する獨逸基督教の家計を築き上げることを可能ならしめるやうな、有効適切な準則を制定する。教會はまた善良な朋友的な民族共同體の精神を養育しなくてはならぬ。

第五に、それ故また獨逸基督者運動は教會内に於ける基督教的慈善活動の逞ましい建設を目標とする。これと關聯する一切の經濟的事業は教會官廳の充分な管理の下に立つ。

第六に、獨逸基督者運動は、國民性と祖國のなかに與へられてゐる貨財を感謝の念を以て受容れ、これを誠實に保護育成し、我々の聖なる遺産として次代へ贈るといふ精神に於ける全青年層の基督教的教育を目標とする。

最後に、獨逸基督者運動は都市及び村落に於ける教會的獨逸的禮儀作法の保護、血族及び民族性に深く根差してゐる善良、敬虔且つ獨逸的な凡ゆる慣習の保護を目標とする。

文相ルストの聲明

文相ルストは、三三年六月廿九日、ベルリンに於て「神と國民、教會と國家」なる宗教行政上の政見を發表し、「從來の教會は獨逸國民に對し、或ひは神に對して不忠實であり且つ生まぬい。自由主義やマルクス主義等による宗教否定の運動にすら拱手傍觀の態度である。且つ教會及び信仰は、その宗教的機能を妨げられることなくして、まづ國家のもの、國民のものでなくてはならず、更に他の一面に於ては純粹の精神的信仰も政治的ないし俗世間的な生活領域に於ては完全に民族的國家管理の下にあるべきだ」と述べた。

次いで六月卅日、文相ルストは更に宗教界の新體制に關聯して、大要左の如き所説を發表した。「教會自身の信仰問題となると何人もこれに容喙すべきではないが、國家に對する關係に於ては、國家の政策施行上その障礙を爲すが如き人物を選らぶわけには行かぬ。この理由から、カトリック、

プロテスタントの何れを問はず、その指導的人物の任命に際しては、その人物の國家政策に對する意見を充分に參料しなくてはならぬ。斯くして初めて、教會と國家との政治的政策的見解の一致を見る事が出来る。……

一方、新制度下の『獨逸基督者』運動に於ては、新任命の委員その他により教會に新しい闘志と決斷とを注入した。この改革が政府任命の新宗教者の手によつて爲されたことは、斯やうな革新勢力が教會内部から生じた場合よりも更に適確迅速に行はれるといふ點に於て極めて有意義である。蓋し舊來の傳統その他の經緯から見ても、斯やうな革新を教會内部に於て斷行することは恐らく不可能と思はれる。事實、統一的獨逸基督教會を目標とする新體制により、教會内部に於ける發刺たる生命、宗教改革への復歸といふ精神が確立されたのである。……

福音主義教會に屬する國民も一體となることの憧憬をもつてゐる筈である。神の御名を唱へ、神を信する權利のある人々は一つの國民を形成し一國家を形成して一體とならねばならぬ。殊に、國家と國民とは神の全能の御手と祝福無しには何事も創造することが出来ぬ。神を信する者こそ良き建設の闘士となるであらう。」と。

獨逸福音教會の憲章

三三年七月十一日に至つて七章十二條から成る獨逸福音教會の憲章が發表された。この憲章は教權の中央集權と政教分離とを確立せんとするものであるが、中央集權と云つてもこの憲章の序に云つてゐるやうに「同等の權利を有し併立する諸宗派を雄大なる同盟に於て統一」するもので、決して獨逸福音主義教會をもつて一單位とするのではない。但し條文によれば、地方教會に對する統制機能は相當強大で、國司教の任免の外殆どすべて國司教の獨裁が可能のやうな組織であり、統一を喜ぶ者のなかにも不滿の聲は少くなく、殊に自治的な長老會議制を要求する改革派教會の間に反對が多く、同年秋成立を見た『牧師緊急同盟』は、その中心と目され、これと『獨逸基督者運動』との間に實際上の問題に關して爭鬭が繰返されるに至つた。

所で、憲章第一條によると、獨逸福音教會の不可侵の原則は、聖書中に誓約され且つ宗教改革の信條のなかに顯現してゐるやうな、イエス・クリストの福音である。そして、教會が使命達成のために要する全權はこれによつて規定され且つ限定されてゐるのである。

第二條によれば、獨逸福音教會は單一教會ではなく幾つかの地方教會に岐れるのである。信條類
似の教會共同體は統合することを得るが、各地方教會は信條及び儀禮の點で獨立性を失はない。但
し、獨逸福音教會は地方教會の組織に關して法律を以て統一的原則を作ることが出来るし、また地
方教會の指導者の仕事も獨逸福音教會と接渉の上で定められることになつてゐる。

第三條によれば、獨逸福音教會は獨逸全教會の法律を規定する外、國家に對する教會の關係を規
定し、且つ他の宗教共同體に對する教會の態度をも決定する。

第四條によれば、獨逸福音教會はそのなかに統合されてゐる獨逸福音主義基督教をして、神より
委託された教會の仕事を遂行し得るやうに準備し指令する。それ故、獨逸福音教會は聖書と宗教改
革の信條から教會内の統一的态度を保持するやうに努力すると共に、教會の仕事に目標と方向とを
指示しなくてはならぬとされ、獨逸福音教會が獨逸國民特に青年層に特別の關心を持つものである
ことが明記されてゐる。また、獨逸福音教會は外國の親密な教會との關係を處理する。

第五條によれば、ルター派國司教が獨逸福音教會を統裁することになつてゐる。國司教を補佐す
るために特別の局を設ける。教會管理の委任及び立法に際しては獨逸福音主義地方教會々議が協力
し、また各顧問局は福音主義的國民のなかに生きてゐる諸勢力に對し、教會の奉仕に自由に創造的

得るやうに努力するやう規定されてゐる。

所で、國司教の權限は如何なるものか。第六條によれば、國司教は教會を代表し、地方教會に於ける教會生活の連帶を實現し、教會の事業に對して統一的指導を確保し、憲章を保障するために必要な一切の措置をなすの外、宗務省の職制を規定し、地方教會の管理者と會議を開き討議及び協議をなす。その他國司教は教會の役員を任免し、またすべての宗教行爲、なかんづく説教宣言、臨時の祭日、禮拜を命ずる權利を持つてゐる。

次に、國司教の任免は國民教會會議で行はれるのであるが、但し豫め地方教會の管理者が宗務省と協力の上これを國民教會會議に提案することが必要である。

第七條一項には宗務省の任務が規定され、第二、四項には組織が掲げられ、第八條の第一、二項には獨逸福音教會國民會議の組織が規定され、第九條には顧問局の組織、任命のことが規定されてゐる。

七月二十三日の宗教選舉

次いで、三三年七月廿三日には、宗教選舉即ち獨逸福音教會の委員選舉が行はれたが、この選舉に於てナチス系委員即ち所謂『獨逸基督者』が絶対に多數を獲得した。當局が七十パーセント以上と豪語してゐた通り『獨逸基督者』の大勝に歸し、國內の各邦各地に於ける選舉の結果は四分の三乃至五分の四以上の壓倒的多數のナチス系委員が選出された。勿論、選舉された委員のなかには、『新改革運動』及びカール・バルトの一派も含まれてゐる。が、ともかく、この委員達から選舉される國司教その他の顯職が決定的なナチス的色彩によつて獨占されることがこれによつて確實となつた。

ヒットラー總統の放送演説

この宗教選舉の前日、ヒットラー總統は次のやうな放送を行つた。

「國民社會主義はつねに基督教々會を國家保護の下に置くことを保證して來た。教會側は次の點

に關して一瞬たりとも疑義を挿むことを得ない。即ち教會は國家保護を必要とし、且つまた國家保護によつてのみ、その宗教的使命を達成すべき状態におかれるのである。實に、教會はこの保護を國家に要求してゐるのである。然るに、國家は逆に教會に對して、教會もまた國家が存立のために必要とする支持を國家に與へることを要望する。教會と國家の存在理由によつて決定的なことは人間を精神的に且つ肉體的に健康に保持するといふことである。蓋し、人間の破滅は恐らく國家の終焉を意味するであらうし、同時にまた教會の終焉をも意味するからである。それ故、國家もまたその時代の宗教的現象に對して無關心ではあり得ないし、逆にまた教會も國民政治上の事件及び推移に對して無關心ではあり得ないのである。かつて基督教が、或ひは後の宗教改革が幾多の巨大な政治的影響を與へたやうに、凡ゆる政治的民族の革命は教會の運命をも支配せずにはおかぬであらう。例へばボルシェヴィズムの勝利がカトリック教會や福音教會に對して無關係であるとか、従つてまた司教も地方監督も活動上何等の支障も妨害をも蒙らないなどと考へることが出来るのは、馬鹿者だけである。……それ故、教會そのものが斯やうな國民的・政治的な革命的高揚に對して態度を定めなくてはならぬことは明白である。……」。

宗教總會の決議

三三年九月六日宗教總會が開催され、次の諸事項が決議された。

一つは、地方司教局及び司教管區の創立で、決議第一條によれば、地方司教は教會元老院の職權を損することなく舊プロイセン聯盟の福音教會を代理し……第四條によつて總地方監督の職は廢止され、第五條によつて次の十管區が設定された。即ち、ブランデンブルグ、カミン、ベルリン、ダシヒ、ケーニヒスベルク、プレスラウ、ケルン、アーヘン、ミュンスター、マグダブルグ、ハレ、パーシュタート、メルゼブルグ、ナウムブルグがこれである。

他の一つは、牧師の法律關係に關するもので、その第一條第一項によれば、一般の教會行政に關する牧師又は役人に任命されるには、その人間がその經歷上所定の豫備教育を受け且つ躊躇することなく國民國家及び獨逸福音主義教會の保護に任じ得るものではなければならず、第二項によれば、アリア人の、血統をもたない者やアリア人以外の血統の配偶者と結婚してゐる者は一般の教會行政に關與する牧師や役人には任命されず、現にアリア人以外の者と結婚してゐる者に協力して

牧師や役人となつてゐるアーリア人は、これを解職する旨が規定されてゐる。

ミューラー國司教となる

三三年九月廿七日、ルードルフ・ミューラーは「福音教會憲章」の規定する國司教となつたが、ミューラーは同日ヴィッテンベルクの國民宗教會議に於て次の演説を行つた。

「我々は福音を國民の言葉と様式によつて國民に傳へる大きな使命を持つてゐる。この義務から我々大部分のものに對して福音の告知者と教會の管理者とは獨逸の土地を踏みしめ獨逸の血統を持たねばならぬといふ要求が生じた。我々は教會の一員であると同時に我が國民と國家との子供である。我々は、かう主張することによつて、基督教會の超時代的な統一、他の國民及血族の各員との言葉と聖禮による協同體を破壊しやうといふやうなことを考へてゐるのではなく、神の前での無差別は決して人間相互間の差別を排除するものではなく、寧ろこれもまた神の意思に反するものと考へる。

獨逸福音主義教會は國家に對する無關心な中立的態度を取るものではない。斯やうな見解は過去

の考へ方である。然し、我々はまた他の一面に於て國家教會たることを欲するものでもない。たゞ我々が強力な任務と認めるものは國家に對する責任である。これは全く明白且つ判り切つたことである。即ち、國家は教會の主人ではない、が獨逸の教會は獨逸國家のなかに生存してゐるのであり、しかもこれは我々人間がさうしたのではなく、我々にとつては神與の事實なのである。そこから我々は、神の前で我が國民と祖國に於て吾々に與へられた仕事に對して責任を負ふものだといふ決論を導き出すのである。……信賴こそ新しい國家に於ける國家と教會との關係の基礎である。斯くて國家は國家、教會は教會たり得るのである。……

生ける教會は生ける協同體の上に築かれ得るに過ぎない。牧師から新しい官的意識が要求されねばならぬ、この官的意識は階級的暗黒を知らず、個人的責任の意識から生れ出するものでなくてはならぬ。然しこの職權意識は、生ける國民的聯關に根差してゐる場合に眞正なものであり得るに過ぎない。それ故若い牧師は突撃隊及び仕事場に於ける國民と祖國への奉仕を名譽ある義務と考へなくてはならぬ。新しい國家が新しい國家交友を吾々にもたらしたとすれば、新しい教會は信仰と犠牲の新しい交友、我々にもたらすべきである……」

ミュラーの國司敎就任については、カール・バルト一派が猛烈に反對し、新約學敎授十九名が署

名してその人種政策を攻撃する外、獨逸基督者のなかにも六千名にのぼる牧師によつて結成された。「牧師緊急同盟」があつてこれに反對した。十一月十三日のベルリンに於ける獨逸基督者集會に於て、これがクラウゼン派と所見を異にして對立するなど、騒然たるものがあつたが、翌三四年七月内相フリックは教會内の軋轢に對して斷乎内務行政上の彈壓を加へるに至つた。

ルードルフ・ヘッスの指令

總統代理ルードルフ・ヘッスは三三年十月十三日次の指令を發した。

「國民社會主義黨員は一定の信仰方向乃至宗旨を遵奉せざるが故を以て、若くは何らの宗旨を遵奉せざるが故を以て、不利益を受けることなし。

信仰は各人に最も固有の事柄であり、各人は良心に訴ふべき事柄である。良心の強制は行ふを許さず。」

黨制服は宗派を超越す（ローゼンベルク）

ナチス黨外交主務局長であり、同時にナチスの精神的・世界觀的教育の總監督であるドクトル・アルフレット・ローゼンベルクは、一九三四年二月廿二日ベルリンに於て次の演説を行ひ、宗教と黨との關係を説明した。

「國民社會主義は數種の宗派が獨逸に存在するといふことに對して責任があるわけではない。二千年以上の長きに亘つて遺産が作り上げたものに對して、國民社會主義が責任を問はれる理由はない。それ故、總統は眞の政治家として我々の眞に偉大な闘争運動が宗教生活の區々たる見解の相異を超越しなければならぬといふ立場を採つてきたし、また國民社會主義獨逸労働黨はゲルマン的價値と低觸せざる宗教的信條を承認し且つ喜んでこれを保護する旨を繰返へし聲明してきてゐるのである。その上、我々は誇りを以て次の事實を指摘することが出来る、即ち一九一八年の舊體制の下にあつては、凡ての宗教的價値が文書や劇場に於て鐵面皮極まる嘲笑に晒らされ、殆ど法律的保護の外におかれてゐた觀があり、而もそれが一見基督教の保護を以て自認してゐたブルジョア政黨の政

治的支援の下にあつて、さうであつたが、國民社會主義政府はこの舊體制とは反對に宗教に對して再び積極的保護を聲明した第一人者なのである。

然し、我々は同時にまた國民社會主義運動なるものが時代の混沌のなかゝら生れ出てきた夫自身纏つた一個の有機體であつて、何らか或る宗派の下廻りであり得ないといふことを斷言せずにはゐられない。國民社會主義黨員は褐色の黨服を着用したが最後、その瞬間に各自はカトリック教徒、プロテスタント、獨逸教會信徒等々であることをやめ、一齊に全獨逸國民の戦闘員となるのである。然しまた逆に我々は私人としての國民社會主義黨員に對して、各自が現代の宗教の個々の問題に對して各自の良心の命する態度を採る權利を與へてやらなくてはならぬ。

このやうに、吾々は各自の宗教的信仰の自由を尊重はするが、これは「自由主義への復歸」ではなく、古代ゲルマン的な性格保持の新なる承認である。これによれば人間は宗派的信仰のために相互に不和になり血闘に闘争に驅り立てられてはならぬのである。……我々は國家の承認した教會の信仰を尊重するが、我々の尊重するのはそれのみではない、我々は新しい宗教的形式を求めんとする努力をも尊重するのである。我々は果して獨逸國民教會が成功するかどうか判らないが、しかしこの眞摯な革新の企圖に對して他の宗派がこれ排撃するが如き行動を聲明することがあれば、我

々はかやうな排撃に對してこの獨逸國民教會運動を飽くまでも支持し尊重するものである……

一旦、褐色の黨服に身を固めた以上、我々は獨逸人であること以外を欲しない。宗教問題を討論し合ふ者に對して、我々は今後黨服の着用を禁ずる。苟もナチス黨員は、黨の制服を着用して公開の宗教上の議論を行ふことを許さない。國民社會主義は宗教の教義のために闘つて來たのではない。今後と雖も、そのために闘ふやうなことはない。我々には教義のための闘ひは終つた。我々には價值のための闘ひが始つてゐるのである。」

文化的價值としての宗教を尊重す（ヒットラー）

ナチスが實際的基督教を遵奉することは前述の通りだが、ヒットラー總統は三四年八月十七日のハムブルグでの演説で宗教政策に觸れ、「余の正しい努力は、基督教の二つの宗派の權利を信護し、教義の侵害から護ると共に、一方、各宗派の國家に對する義務を國家の見解と要求とに一致せしめることであらう」と述べた。同じ演説で、

「更に、余の決意は、太古及び過去から承繼して來た獨逸國民の偉大な文化價值を尊重保護し且

つこれを促進せしむることにある。人間の藝術的創造の斯くも廣汎な領域に於て没すべからざる業績を成し遂げて來た獨逸國民は、これらの眞に偉大なる文化的價値を誇りやかに遵奉すべきである」とし、暗に文化的遺産に對する尊重が宗教政策の根底の重要な要素をなしてゐることを示した。

民族の宗教的傳統を尊重す（ローゼンベルグ）

一九三五年十一月十四日ナチス黨外交局の晚餐會の席上、ローゼンベルグは「我々は民族の宗教上の傳統を尊重する」旨を強調した。

「……百姓が教會を尊敬し、祖先の墳墓を訪れる氣持は我々に判る。ルター聖書が幾世紀間の長い傳統を形成する一つの要求を意味することを我々は知つてゐる。然し、獨逸に於ては宗教的闘争に逢遭することが必然であると考へるプロテスタントの社會に向つて、我々はこの聖書もまたかつては傳統ではなく、偉大なる革命を意味してゐたことを申し述べたいのである。當時、全世界がその運命を承認してゐたのであり、そこから今日幾百萬の人間の精神の糧となつてゐるものを生み出した幾多の成果を作り上げたのであつた。我々はこゝで苟も眞剣に宗教的に思索する人間を咎めな

いこと、かゝる人間が獨逸國民の生活基礎に對する政治鬭争のために利用されてはならぬこと、これ以外のことを我々は欲しない。我々は凡ゆる宗教的確信を尊重するが、何らか或る信條的支配のために政權を渡すことは斷乎排撃する。」

宗務大臣ケルル

國民社會主義國家を福音主義教會との協力を容易にするために、一九三三年七月十四日に様々の福音主義地方教會が單一の『獨逸福音主義教會聯盟』に統合されたこと、更に、この統合を超越してカルヴィン派、ルター派及びプロイセン同盟派會間に存在する信條上の差異を排除し、これらの諸教會に對して、これらの諸教會がイエス・キリストの福音によつて自國民のために委されてゐる率仕を自國民に對して行ひ得るやうにする形態を與へることが『獨逸基督者運動』の目標であること、この目標のためにこの信仰運動が「宗派の發展」なるものを要求することは、前に述べた通りである。所が、こゝに、福音主義教會の宗教改革的信仰上の基礎に關する憂慮から、獨逸基督者運動に對抗して『宗派戰線』が現はれるに至つた。新に起つたこの教會間の軋轢を調停するために、

ヒットラー總統は一九三五年七月十九日にハンス・ケルル無任所大臣を宗務大臣に任命した。

獨逸福音主義教會保護法

一九三五年九月廿四日、獨逸福音主義教會保護法が發布された。この法律は僅かに一ヶ條で、宗務大臣は、獨逸福音主義教會及び福音主義地方教會内に秩序ある狀態を再建するため、法的拘束力を有する命令を發する權限を授けらる。この命令は官報を以て公示す」といふのである。

この法律が出來た理由は左の通りである。

地方教會の獨逸福音主義教會への統合は福音主義教會人の意志に従つて既に實現され、且つ教會憲章によつて確認されてゐる事實である。

然るにその後、教會相互間の鬭争により、教會人の統一を破り、各人の信仰及び良心の自由を害し、民族協同體を傷け、福音主義教會そのものを重大な危險に晒らすごとき狀態が生じたのを目撃して、政府は深甚の憂慮を感じてきた。

それ自身纏りのある教會に對し教會自身が教會に關する諸案件を規定する權限を出來るだけ速か

に附與したい意向を有するため、政府は教會が自由且つ平和裡に信仰問題を規定し得るやうな秩序を導入するために、この法律を制定實施するのだといふ。

同年十月三日の第一施行命令により、宗務大臣は教會役員を以て單一獨逸宗教委員會を作ることになつた。この委員會は獨逸福音主義教會を指導且つ代表し、教會内部の諸案件に關して命令を布告する權限、就中獨逸福音教會の奉仕團事業に關する原則を決定し、事業細目を發する權限を賦與されてゐる。その他、該委員會の委員の任命及び罷免は同委員會と宗務大臣の協議により行はれる外、宗務大臣は舊プロイセン同盟の福音教會のため、教會員を以て單一地方教會委員會を構成することになつた。

所で、全國教會委員會は、一九三五年十月十七日概文を公表して、

信仰の束縛を脱して國民及び總統への忠誠を

誓つた。「我々は國家の委任によつて、教會の人間として、獨逸福音主義教會及び舊プロイセン同盟福音教會の管理と代表の權限を受諾した。我々は過渡期に對する受託者であることを自認する。

この過渡期の經過後に於ては整然たる獨立の獨逸福音教會なるものが成立することになる。

獨逸福音教會の不可侵の基礎は、憲章第一條に明示されてゐるやうに、聖書のなかで我々に保證され且つ宗教改革派の信仰告白のなかで新たに照らし出されてゐるやうなイエス・キリストの福音である。教會の一切の仕事は、その神學も行政も、この福音の告知に役立たなくてはならない。

斯かる信條に基いて、我々は福音主義諸團體に向つて、國民、國家、總統に對して代願、忠誠、恭順の關係に立つことを忠告し且つ切望するものである。

我々は血族、血液、土地を基礎とする國民社會主義的民族結成を肯定する。我々は自由と國民的價值と社會主義的犧牲精神と民族協同體に一命を捧げんとする意志を肯定する。これらの意志のなかに、我々は神によつて授けられた獨逸民族の現實性を認識するものである。

教會はこの獨逸民族にイエス・キリストの使命を告げ知らせなくてはならぬ。そこで、我々は福音主義獨逸の全活動を信仰の從順と愛の行爲とに動員する。差當つて我々の問題となるのは、何よりも先づ、過去數年間の鬭争に於て明瞭になつた方向を理解し、分散した勢力を糾合することである。斯やうにしてのみ、教會紛争の破壊的な結果を克服することが出来るものと信ずる。斯やうにしてのみ、福音主義獨逸に於ける、否、全基督教界に於ける新たな信頼を獲得することが出来る、且

つまた宗教改革派教會は今日の宗教的論議の最中にあつても獨逸國民に對して教會本來の奉仕を爲し得るものと信ずる。緊張は避け難い。然し、これらの緊張は價值へ、信實へ、眞理へ轉化されなくてはならぬ。このことは我々にも我々の相手にも等しく云へることである。……」

この委員會の聲明の後で、宗務大臣ケルルは一場の演説を試み、

問題は國民で、牧師でない

ことを強調した。「國民社會主義國家は黨と同様綱領第廿四條の原則に立脚するもので、第廿四條には黨そのもの及び國家そのものは積極的基督教の基礎の上に立つものであり、何らかの方法で宗派に結びつくものでない旨が明瞭に宣言されてゐる。

然し、この綱領のなかには更に、國民社會主義が各人の信仰の自由や良心の自由に干渉しやうとは毫も考へておらず、却つて各個人の人格の主權などを損せず、各個人がいかに神を心に描くか、神をいかやうに告白しやうと欲するか、各自の立場からいかなる形式を正しいと考へるか、これらの點を各自の自由に委せてゐる旨が明示されてゐる。事實、國民社會主義國家は、そしてまた黨

も、つねに斯かる態度を採つて來たのである。

然るに過去二ケ年間に福音主義教會内部に於て様々の紛糾を見たが、これは全く各個人によつて惹起されたものであつて、決して黨そのものの、國家そのものによつて惹起されたものではない。その上、私はこの混亂時代が寧ろ必要でさへあつたと信ずるものである。何故かといへば、精神的直感に對して全く新しい觀點を與へる未曾有の力強い轉換期にあつて信仰の本質について、またその形式について幾多の論争が起ることは寧ろ當然だからである……私は信ずる……我々の時代は恐らく過去のいかなる時代よりも宗教的である。たゞ信心の形式についての意識を必しも各人が持ち合せてゐないといふに過ぎぬ。信心そのものは、今日では、かつてみなかつた程強烈である……。

私は、この聲明中、事實上このやうな宗教會の分裂が行はれてゐたといふ點に重要さを見出すものであると共に、新舊兩派が、即ちイエス・キリストの福音に信仰の主眼そのものを見てゐる派も、苟も獨逸人たるものは究極に於て國民同胞であり、國民同胞はつねに共通して一つ目標を追求し得ると主張する派も共に絶對に正しいと信ずる。教會が或る任務を自己のために持つことを主張するならば、國家はまた必然的に自己のために一つの任務を要求しなくてはならぬ。何故なら、教會と國家とはつねに同一の國民同胞を相手とするものであり、兩者が對立的にこれを指導すること

は絶対に出來ぬからである。若しもこのやうに對立的に指導せんか、結果は民族協同體の崩壞を招かずにはゐられないであらう。

私が甚だ欣快に感ずる所は、こゝに前進に加はる教會が出現したことである。私は全牧師團の大部分がこの聲明を支持するであらうことを信じて疑はない。

更に、私は——そしてこれこそ私にとつては大切な事柄であるが——全教會人が敬虔且つ自由にこの聲明を支持し、この聲明に従つて行動されることを確信するものである。要するに、つねに問題に國民であつて、牧師ではない。」

次いで、ケルルは十一月十三日ベルリンの獨逸學生團を前に、

教會は國民と共に前進すべきことを強調した。「獨逸福音主義教會の戸口をノックしたのは、國家でもなく、我々でもなく、正に運命そのものである。獨逸福音主義教會は今日、かつて國民全體が遭遇したと同じ裁斷の前に立つてゐるのであつて、何よりも先づ、新しい時代が到來したといふ事實、現代の人々が一新されてしまつたといふ事實を充分に考慮しなくてはならぬ。教會はこれらの人々へ迄づき、これらの人々と共に前進しなくてはならぬ、といふのは教會本來の仕事の領域は獨逸國民のあひだにあるのだから。國民の大部分は今日總統と共に前進しつゝある。教會は今こそ決

心すべきである。國民と共に前進すべきか、それとも國民の姿が地平線の彼方に没したとき、孤獨に取殘されるか……。

カトリックの反對

さて、ナチスは政權獲得の三日後、即ち一九三三年二月一日、一切の宗教教派を統合統制の下に置かんことを宣言したが、この宣言を契機に政權とカトリック竝にプロテスタントとの公然の抗争が開始されたことは前述の通りであるが、なかでも敢然として政權に對抗したのはカトリックで、マインツの僧正局のごときはナチス黨綱領第廿四條がカトリック精神と牴觸することを指摘し、斯る冒瀆的な政權の強權に對してカトリック教徒が正規のナチス黨員になることを禁止したし、當時なほ存続してゐた中央黨はヒットラーを主班とする内閣に協力加擔することを拒絶し、またカトリック諸團體は二月十七日にヒットラーを宰相たらしめる機縁となつた一九三二年十一月の總選舉に對する正式抗議を政府に提出して、政府との協調を拒否し、さらに多數の司教中反對宣言を發表したのもあつた。

ナチス政權は一九三三年三月五日の總選舉に於て決定的勝利を獲たが、この總選舉後間もなくヒットラー總統は議會に於てナチス政權と基督教會との關係について記憶さるべき聲明を發した。即ち、この聲明は基督教の教義は獨逸の國民生活の安寧の保持上最も重要な要素の一つであること、竝にナチス政權は獨逸基督教會と諸國家間に存在する既設の協約を尊重することを主たる内容としたものであつた。同時に、ヒットラー總統はローマ法王に對し「獨逸國民の道德的更生のため不可缺なるものとして基督教の實力を思惟するが故に我々は猊下と我々の親善友好關係の益々増強されんことを切望する」と言明し、表面上ナチス政權とカトリック教會との關係は一時平靜を示してゐた。

この時に當つて、獨逸の全司教の連署になる司教書翰が六月三日公布された。

司 教 書 翰

この司教書翰はカトリック教徒が新政權の下に立つに當つての一般原則を規定したもので、先づ復讐的な非基督教的政策竝に民族と血液の排他的概念について警告し、合せて民族主義的教會の理念

に反對して教會に於ける自由を要請するものであつた。この自由とは單なる信仰生活といふやうな狭い意味の自由ではなく、宗教生活に隨伴する一切の文化的事象に聯關するものであつた。例へばカトリック教義に立つ學校並に教師養成所、カトリック諸團體就中青年團體、更にカトリックの新聞言論機關にまつはる自由が具體的要求として掲げられてゐた。

これらの要求はナチス政權によつて拒否されなかつたために、カトリックとの親和的關係は著しく増進し、これがカトリック教會とナチス政府との成文によるコンコルダートの成立をみるに至る動因ともなつた。

コンコルダート

このコンコルダートは一九三三年七月廿日羅馬法王廳樞機官バセルリと國務大臣、副總理フランツ・フォン・パーベンとの間に調印を了した。コンコルダートといふのは宗教事項を規定するため羅馬法王と國家との間に取交はされる契約であることは斷はるまでもない。内容からみれば、これは、カトリック教會にとつて極めて有利なもので、三十四ヶ條からなり、最終議定書もかなり廣

汎なものであるが、重要なものを列挙してみると、

一、獨逸はカトリック教の信仰告白及び公的修行の自由を保證する。且つ、獨逸國はカトリック教會に對し、全教會に適用される法律の範圍内に於て自己の諸案件を自主的に處理、行政し、かつ自己の所管事項の範圍内に於て教會を拘束する法律及び命令を發する權利を承認する。(第一條)

二、バイエルン(一九二四年)、プロイセン(一九二九年)及びバーデン(一九三二年)と締結されたコンコルダートは存続するものとし、該コンコルダートに於て承認された。これらの聯邦所在のカトリック教會の權利及び自由は、何ら變更されることなく、これを保護する。將來、地方コンコルダート締結には獨逸國政府と協議の上で行ふ。(第二條)

三、精神的業務の遂行に於て、僧侶は國家官吏と同様の國家の保護を享有す。(第五條)

四、僧侶は僧職の實行に際し委任されてをり夫故僧職上祕密を守るべき事柄に關し裁判所其他の官廳に拘束されることなし(第九條)

五、教會は原則として一切の教會の教職及び寺祿を所有し、これに關し各聯邦又は市民團體の協力が必要とせず。(第十四條)

六、司教職並にローマ法王に對し司教局に屬する諸案件につき教徒と交渉する自由を認める。

七、從來の慣行的形式による司教書翰の發行竝にこれを教徒へ傳達することの保證。

八、僧侶に課せられる國家への忠誠の宣誓は「僧侶に適はしき」といふ程度に緩和されること。

（第十六條）

九、カトリック教派の諸學校の繼續維持を保證する（第廿一條）

一〇、宗教々育の科程に於ては基督教の信仰及び倫理の精神に合致して、愛國的、公共的且つ社會的原理へ特に注意を拂ふこと。

以上、このコンコルダートは幾多の逕庭はあつたが同年九月十日にナチス政權と羅馬法王との間に正式批准が取交はされた。これによつて獨逸カトリック教會は體制組織の保障を得たばかりでなく、更にひろく社會生活に於ける自己の地歩を堅め且つ國民に對する道德的影響を増大することに成功した。

しかし、そこには一つの條件があつた。第三十一條によれば、専ら宗教的な、純粹に文化的な且つ慈善的な目的に奉仕し且つ斯るものとして教會當局の支配下にあるカトリック諸機關及び團體は、その組織及び活動を保護されるが、この國家的保護を享受するためには、これらの機關及び團體が何ら政治的團體に關係のない證左を提示しなければならぬし、更にまた第三十二條によれば、

現時獨逸の特殊事情及びコンコルダートの條項から見て、羅馬法王は僧侶の政黨員たること竝に任意の政黨に積極的支持を與へることを禁斷すべきことが規定された。

このコンコルダートの成立直後即ち七月五日にはカトリックの中央黨が解黨し、次いでバイエルン人民黨も解黨した。

このコンコルダート成立の結果カトリック教會に對してナチス政權は幾多の權能を再確認し、その特殊領域における機能と任務とに従事することを保證したが、しかしあらゆる政黨が今やナチスの敵對者として掃蕩され、一切の團體が國民社會主義團體乃至組織としてののみ國家團體として承認されるに過ぎない情勢から押して、カトリック教會とナチス新政治體制との關係は單に諸調的乃至妥協的關係に止らず、早晚孤立性の喪失に至るべきことが豫想されなくてもなかつた。

カトリック教會

そこで、羅馬法王座はその機關紙「オ・セルヴァトーレ・ロマーノ」に同年七月廿六日及び廿七日の二回に亘りコンコルダートに關する論說を掲げ、このコンコルダートは元來教會法に基くもの

であり、これに調印した事實は法王廳が國民社會主義政治體制乃至その理論を是認したことを意味するものでないとの見解を發表した。

かゝる情勢のなかに、九月十日の批准にこぎつけたわけであつたが、この批准によつて、法王廳との紛争が終止したわけではなかつた。

カトリック教會はローゼンベルクの『廿世紀の神話』を禁書目録に入れた。更に、「ヒットラー青年」に對抗して「カトリック青年」を結成した。

この「カトリック青年」はコンコルダート、特に卅一條に基いて組織されたのであるから、ナチス政府は公然とこれを否認するわけには行かなかつた。

尤も、ナチス政府はカトリック教會に對しては、それで超國家的であり超民族的な性質をもつものであるために、その宗教政策の急激な實施を暫く見合はせ、コンコルダートを締結する外、専ら協調的態度を持し、先づ實現可能のプロテスタント教會の單一的統合を策し、六月十一日の獨逸福音主義教會の憲章の設立公布を見たことは前述の通りである。

ザール人民投票以後

ナチス政府が斯やうにカトリック教會と妥協的態度に出た大きな原因は、翌三四年一月十三日に迫つてゐるザール人民投票であつた。即ち、ザール人民投票の結果は一にザール地方の人口の多數を占めるカトリック教徒の向背にかゝつてゐたからである。この政策が效を奏し、ザール人民投票の結果、ナチス政權の壓倒的勝利となり、該地方は獨逸に復歸した。

もはやナチス政權はカトリックの意向に心勞を要しなくなり、カトリック教會に對してナチス本來の宗教政策を徹底的に實施するに至つた。即ち、カトリックの學校、團體、教育、言論、出版等に干涉壓迫を加へ、排宗教的行動を一段と強化し、更に司教書翰をすら沒收するなど、コンコルダートに於て約束されたカトリック教會に對するナチス政權の保證は次第に影の薄いものになつて來るを觀を呈した。ナチス政權は更に從來コンコルダートに基いて默認の形をとつてゐたカトリック青年」をも解散せしめた。

内相ドクトル・フリックは、一九三五年七月廿日附指令を以て、今後宗教諸青年團體に對し、制

服または制服類似の衣服を着用し、竝に長旒または國旗を持つて隊伍を整えて公衆の前に現はれることを禁じ、さらに徽章の佩用、制服代用の衣服の着用並びに一切の野外スポーツの實施を禁ずる旨を各地方政府へ通達した。斯くして、宗教的青年團體の活動は純粹に教會的宗教的領域に限定され、カトリック戰士全國同盟』は解散されるに至つた。

内相フリクの訓令と同日附を以て、プロイセン首相ゲーリングは次の布告を發した。

教會が獨自の政治勢力を組織することを許さず（ゲーリング）

實踐のカトリック教の取扱に關する國策の方向は一義的且つ明白に示されてゐる。即ち國民社會主義國家は基督教會の、従つてまたカトリック教會の不可侵性を保證し、これらの教會及びその施設に對して國家的保護を與へるものである。國家の意志及び權力が無神運動の破壊勢力から教會を立派に保護するに充分でなかつた時代は過ぎ去つた。従つてまた、教會について云へば、今日、宗教的活動の領域を越脱して政治的勢力を維持したり新にこれを獲得すべき一切の理由は消失したのである。それ故、教會は、今日奇怪にも我々が毎日曜日に公開の及び非公開の形で體驗しつゝある

やうなこの國家に對立して神の恵を願ふがごときことをしてはならぬし、また教會が國家より威嚇される危険を自らの手によつて排撃せねばならぬといふがごとき時代がかつた理由に基いて獨自の政治的勢力を組織することも許さない。我々はかつて中央黨が主宰者であつたやうな努力を寛恕することは出来ない。たとひこれらの中央黨的努力が官教的活動の記念の形をとつて行はれるにせよ、我々は斷乎これを克服せんとするものである。

今更ら宗教裁判でもあるまい（ゲッベルス）

次いで、三五年八月五日ドクトル・ゲッベルスにエッセンに於て次のやうな演説を行つた。

獨逸に假りにもまだ教會が存在してゐるといふことは、我々がボルシェヴィズムスを叩きのめしたお蔭なのである。中央黨はこの偉大な仕事を行ふためには餘りにも弱力であつたし、その上、眞劍になつてそれを望んだわけでもなかつた。中央黨は我々に對するよりもボルシェヴィズムスに對して内心親密さを感じてゐたからに外ならない。諸君は、我々が過去の罪惡をそれほど易々と忘れるものと考へてはならぬ。

宗教的確信は凡てこれを尊重する。

「凡て」といふ點を強調する。我々は今更宗教裁判など、我慢が出来ぬ。中世のやうに火刑の薪を積み重さねるやうなことは我々の性に合はない。我々のあひだでは、各人が各人のやり方によつて救はれ得るのである。青年を信神的に教育することこそ教會の仕事であらう。青年を政治的に教育することは我々の仕事である！ 教會がスポーツ聯盟を結成するといふ場合、このスポーツ教育があの世に向けられてゐるのかどうか、これは甚だ大きな疑問ではないか。青年は我々のものだ。我々は青年を何人の手にも渡しはしない。

ニールンベルク大會

一九三七年秋、ニールンベルクの全獨逸國民社會主義者大會を前に、羅馬法王の使節ムリック獨逸人労働團體を創設したが、この團體の任務は「獨逸國民中カトリックを率ずる者の間に國民意識を強調し」「特に教會國家及ナチス黨間の明瞭な關係を樹立し」「以て凡ゆる信仰信條の相異を超越して民族的統一を深め且つこれを樹立せんとする」ことにあつた。創立當日、フィン・パーベンは大

の演説を行つた。

カトリックを奉ずる國民は、政治的に福音主義教義を奉ずる國民と共に手を取り、今後ンチオが獨逸に派遣された。法王使節はマッケンゼン次官に對し、コンコルダート侵害に對する抗議を提出して數次の會談を遂げると共に、ベルヒテスガルテンの山莊にヒットラー總統を訪問し、ナチスの宗教政策殊にカトリックに對する政策の緩和を懇請したが、すでに確立した政策を變化することは出来なかつた。

たゞ、ナチスは、ニュルンベルク大會に於て宗教問題に深入りせざるやう豫め訓令を發し、親衛隊及びゲシュタポの機關紙である『シュヴルツ・コルプス』も突撃隊機關紙『デア・エス・ア・マシ』も教會に對しては攻撃的言説を掲げなかつたために、パチカンとの紛争は豫想されたほど激化はされなかつた。

新刊

舟橋聖一氏隨筆集

多
感

裝幀 青山二郎 和紙豪華版

定價 二、〇〇

千、一〇

頁二四五

舟橋氏の文學に見るあの鋭い神經は此處には影をひそめてその透徹した知性と豊かな感性が紀行文や日常雜記の中に窺はれ又源氏物語、方丈記、徒然草等、國文學の精華を語り金色夜叉に新しき解釋を與へて現代に生かし或は六代目の藝術を説いて其の醍醐味に觸れ相撲を論するなど人間舟橋の全貌が遺憾なく表はれて居る。

集むる處廿三編皆珠玉編である。

近刊豫告

野澤富美子著

雨だれの記

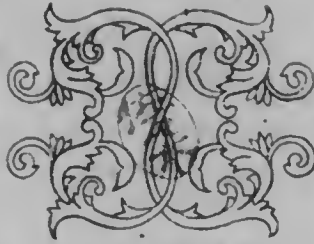
煉瓦女工を生んだ彼女が一轉隨筆へと新しい分野を開拓した近作 夫れはアラケズリで純眞なる筆に任せて書下し市井人としての彼女の生活感情をこれ程しつかり捕へた作はそうザラにはない。
彼女の深い内省から生れた傑作である。

近刊豫告

ハンス・フリードリツヒ・ブルンク著
佐々木能理男釋

原名『大航海』

作者ハンスフリードリツヒ・ブルンク（一八八八―）は現ナチス文壇に於ける指導的人物で前ドイツ文化院文藝局總裁、現にドイツ文藝翰林院の會員である。ナチス革命後の彼の作品はゲルマン的な指導者の偉大さと力とを讚美し（間接に）ヒトラーに對する頌歌である「大航海」は一九三四年の作
コロンバスの米大陸發見前に大西洋を横斷してアメリカに渡つたドイツ人ピニングの冒險で、大渡航の描寫の報告文學的な良さもさることながら新天地を開拓、社會を建設するピリングの理想と意志と力とはドイツ民族の優秀さを立證して餘りある。



印檢者著

昭和十六年四月十日印
昭和十六年四月十五日發

行刷

「ナチス文化體制」奥付

定價一圓五十錢

郵稅十四錢

著者 佐々木 能理 男

發行者 矢 貴 東 司
東京市深川區富岡町一丁目二番地

印刷者 前 島 省 三
東京市京橋區木挽町三丁目十一番地

東京市深川區富岡町一丁目二番地

發行所 矢 貴 書店

電話深川(64)三二五四番
振替東京六四三五一番

IP011-111



